

教室年報 2016

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2016

巖刀会(外科学講座同門会)



カタクリとベニヤマザクラ(西和賀町)

外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでおります。



外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2016年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

2016年を振り返って……………外科学講座教授 佐々木 章

教室の今年1年

特任准教授と医局長を拝命して

……………外科学講座特任准教授 医局長 新田 浩幸

医局長を終えて、そして特任准教授を拝命して

……………外科学講座特任准教授 大塚 幸喜

008 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

011 チーム紹介

内視鏡外科チーム・肝胆膵チーム・上部消化管チーム《食道》・上部消化管チーム《胃》・下部消化管チーム・乳腺チーム・リサーチチーム《分子治療研究室》・小児外科チーム・高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座》・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

024 平成28年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

026 新教室員紹介

棚橋 洋太／高清水清治／津嘉山 雄

027 寄稿

医師業総合研究所医療開発研究部門

部門長ならびに特任教授就任のご挨拶……………西塚 哲

日本内視鏡外科学会 第19回出月賞を受賞して……………盛岡市立病院 外科 須藤 隆之
平成28年度岩手県医療貢献賞を受賞して

……………「わかさリボンプロジェクト」代表 岩手県立大船渡病院 院長 伊藤 達朗
巖刀会学術賞を受賞して……………長谷川 康

資格取得報告～日本臨床腫瘍学会・がん薬物療法専門医取得について～

……………岩手医科大学附属花巻温泉病院 外科 塩井 義裕

第27回内視鏡外科フォーラム in東北 開催報告……………水野 大

圭陵会会長に就任して……………齊藤 和好
[海外研修報告]

第33回環太平洋外科学会日本支部学術大会 (PPSA-JC) に参加して

……………二階 春香・天野 怜・畑中 智貴

海外研修報告～ IRCAD 台湾～

……………岩手医科大学附属花巻温泉病院 外科 塩井 義裕

[国内留学レポート]……………鳥取県立厚生病院 外科 三宅 孝典

……………自治医科大学 消化器一般外科 齋藤 匠

042 平成28年アルバム紹介

050 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・内丸病院・盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・岩手県立大船渡病院・北上済生会病院・岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・八戸赤十字病院・かづの厚生病院

062 外科紹介医療機関

066 研究業績

080 編集後記

081 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

2016年を振り返って

2015年8月に岩手医科大学外科学講座の第5代教授を拝命し、1年6か月が経過しました。2016年を振り返り、今年の抱負についても触れたいと思います。

誠に残念なお知らせとなりますが、東北大学名誉教授、東北大学大学院医学系研究科先進外科・腫瘍外科(旧第2外科)元教授、岩手医科大学外科学第1講座元教授である森 昌造先生(享年85歳)が2016年6月15日にご逝去されました。2016年8月27日には、森先生のお別れの会が東北大学先進外科・腫瘍外科(実行委員長 大内憲明 教授)と岩手医科大学外科学講座(副実行委員長 佐々木章)、および森家の合同で行われました。お別れ会の後には、故人を偲びながら食事会が行われ、森先生と親しかった先生方のお別れの言葉や東北大学とご家族のビデオも放映され、心が温まる、そしてご参加された皆様の心に深く残る会でありました。森先生は、1979年(昭和54年)9月に岩手医科大学外科学第1講座の第2代教授として東北大学から赴任されました。1986年(昭和61年)7月までの在籍

7年間で、森先生から直接薫陶を受けた教室員は100名を越え、現在の外科学講座の発展に努めていただきました。森先生の専門領域は食道外科と外科代謝栄養であり、当時の岩手医科大学外科学第1講座にとりましては、馴染みの薄い分野であったと思います。特に赴任後には、治療成績が不良な食道癌に対して自分ができることは何であるかと考えられて、食道癌に対する拡大リンパ節郭清を始めたと同っております。当時の食道癌手術は想像以上の高難度手術であり、食道癌治療に関わったことが少なかった教室にとりましては、教室員一同での大きなチャレンジであったと想像します。森教室における取り組みは、消化器癌に対する拡大手術の先駆けとなり、その後、全国での食道癌のみならず、その他の消化器癌に対しても拡大リンパ節郭清が導入されました。また、その後の検証で拡大手術の功罪も検討され、現在の適正な癌手術、そして内視鏡外科手術への移行がなされてまいりました。まさに現代外科治療の大きな潮流の端緒となり、手術手技のみならず、

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

呼吸循環管理、栄養管理などの周術期管理の向上も含め、外科学の大きな発展に繋がりました。当時の教室員はこの高侵襲な治療法の確立のために日夜臨床に励み、同時に学問的にも業績を積み重ね、現在の外科学講座の礎となりました。私自身も1988年(昭和63年)に入局し、食道癌チームで初期教育を受けましたが、故 佐藤信博先生と共に周術期管理のために毎日当直していたことを懐かしく思い出します。この一方で、森先生は無類のスキー好きで網張スキー学校の名誉校長でもあり、2016年には20回以上も滑られておりました。持ち回りの東北外科スキー集談会にも毎年参加され、また、東北大学、岩手医科大学をはじめ全国のスキー好きな先生との草の根レベルでの交流にも一役をかっていました。森先生の熱心に教育、研究、診療にうちこむ姿勢、そして、スポーツも含めた活力に満ちた教室を目指した意思を引き継いで、後進の育成に努力していきたいと思っています。

人事では、2016年11月1日付けで外科学講座講師の西塚 哲先生が医歯薬総合研究所医療開発部門特任教授に昇任、2017年4月1日付けで岩手県立千厩病院院長の下沖 収先生が総合診療医学分野教授に赴任される予定です。外科学講座と同門会である巖刀会出身の教授は、中村隆二教授(PET・リニアック先端医療センター)、前沢千早教授(先端医療研究センター腫瘍生物学分野)、木村祐輔特任教授(緩和医療学科)と私も含め6名となりましたので、連携を取りながら色々な面で協力していきたいと思っています。教室内では、2016年4月1日付けで下部消化管チームの大塚幸喜先生が特任准教授に、肝胆膵チームの新田浩幸先生が特任准教授に、肝胆膵チームの高原武志先生が講師に昇任し、新体制の基盤が整ったと思います。2016年には、研修医4名(岩手医大卒3名、自治医大卒1名)、大学院生1名(弘前大卒)、任期付助教1名(秋田大卒)が入局し、また、他病院から1名(鳥取大卒)が1年の期間で大腸の専門研修にきています。今後も低学年から入局説明会を行い、また、学内活動でも活発に働きかけて仲間を増やしていきたいと思っています。

研究に関しては、文部科学省科学研究費などの競争的研究資金の獲得と英文論文の発表を目的として先行研究を教室員全員に義務付けし、2週に1回の割合でリサーチプロポーザルを始めました。結果として出るのは2~3年かかると思いますが、指導を続けていきたいと思っています。また、若手外科医には、海外学会での発表と英文論文の作成に重点を置くように指導していきたいと考えていますが、昨年は大学院生3名を海外で発表させる機会を作りました(33rd Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter)。発表の過程で、和文抄録作成から英文抄録作成の仕方、プレゼンの練習など少しは勉強になったと思いますが、継続的に行ってくれることを願います。今年も大学院生・若手外科医に対して、国際学会に参加させるように密かに計画中です。

臨床では矢巾新病院の移転に向けて、低侵襲手術である内視鏡外科手術は患者数を増やして収益を期待できる手術とし、高侵襲手術である肝移植などの潜在的な損失を補填する方向性での取り組みを考えています。また、各診療領域で安全な内視鏡外科手術の導入と手技の定型化ができた現在、今後はクリニカルパスの在院日数を見直して、効率的に病床利用率を高め、新病院の増収に貢献できればと思います。

最後となりますが、2017年4月20日に岩手医科大学は創立120周年を迎え、本学にとって記念すべき節目の年となります。創立120周年記念事業では、2017年4月に看護学部の新設、2019年9月に矢巾新附属病院(地上11階、延べ面積約86,000㎡予定)の開院が予定され、医・歯・薬・看護の4学部からなる医療系総合大学となります。私も附属病院移転プロジェクト実行委員で診療記録担当責任者(診療記録管理、電子カルテシステム)に任命されましたので、移転整備に貢献できるように誠心誠意努力していきたいと思っています。

今後とも、皆様のご支援を賜りながら教室員一同が結束し、教室のさらなる発展を目指していく所存です。一層のご指導ご鞭撻をお願いいたしまして、巻頭言のご挨拶とさせていただきます。



岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

医局長 **新田 浩幸**

*Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Research Associate Professor*

特任准教授と医局長を拝命して

2016年4月に特任准教授を、2017年1月には医局長を拝命しました。診療、教育、研究に加えて医局運営を考える立場となったことで、その重責を感じながら日々過ごしております。

臨床において肝胆膵グループのチーフという立場に変わりはありませんが、講師から特任准教授になったことで、教育と今後の方向性について以前よりも強く考えるようになったと思います。周知の通り岩手医科大学の外科学講座は内視鏡手術を積極的に行っている施設であり、肝胆膵領域においても例外ではありません。腹腔鏡下肝切除は斎藤和好教授のもと1997年より現教授の佐々木章先生が導入され、自分自身は2001年頃から担当させて頂きました。当時は部分切除と外側区域切除が中心でしたが、次に進むべき方向としてmajorの肝切除であろうと判断し、周囲の先生やスタッフのご指導・ご協力のもとこれまで継続してきました。2002年に腹腔鏡補助下で開始したmajorの肝切除でしたが、15年経過した現在では完全腹腔鏡下で無理なく行うことができ、部分切除や外側区域切除は若手医師の修練手術となっております。日本内視鏡外科学会の技術認定制度においても、肝臓領域で合格者を一名輩出することができました。膵臓においては、以前より行っている体尾部切除に加え、保険収載された2016年

royuki Nitta

M.D., Ph.D. Research Associate Professor

4月からは臍頭十二指腸切除も積極的に行っております。手術手技は日々進歩しており、この進歩・進化のスピードを考えると5年後や10年後に同じ手術を行っているはずありません。胆膵の再建を伴う手術の多くを完全腹腔鏡下で行うことも想定しながら、そのために今やるべきことをスタッフと共に考えて実行し、次の世代が中心となって頑張れるようにも意識しています。このように積極的に行っている腹腔鏡手術ですが、肝胆膵領域における割合は全体の1/4です。膵癌や胆道癌などを含めた3/4は開腹手術ですが、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医取得のため可能な限り若手医師の修練手術としております。もちろん、患者にとっては一度きりの手術であり、若手医師に手術をさせればいいだけとは思っておりませんが、若いうちの経験によって新しい発想が生まれてくる可能性も有しています。今後は、肝移植から学べる動脈を含めた血行再建の技術を含め、幅広い手術手技を有する肝胆膵外科医を多く輩出できればと考えております。

医局長を拝命してすぐに実感したのは、やはり外科医が不足している点です。何かあれば外科にと頼られる存在でありながら、十分な人員を関連施設などに配置できない状況にあります。学生と接していると、決して外科に興味がないわけではないと思いますが、外科の魅力を伝え切れていないのかもしれません。また、旧態依然の外科っぽい雰囲気があるのかもしれません。新病院への移転まで3年をきりました。外科学講座の再編・発展・進化のためには人材確保が必須であり、微力ではありますが少しでも働きやすい環境を整備していくことに尽力したいと考えております。宜しくお願い致します。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
特任准教授

大塚 幸喜

Koki Otsuka, M.D., Ph.D.
Research Associate Professor

医局長を終えて、 そして特任准教授を拝命して

昨年の12月で、無事とは言えませんが約3年の医局長の任務を終えました。これまでご協力いただいた佐々木章教授はじめ教職員、そして同門の先生方にこの場をお借りして心から感謝申し上げます。

医局長を退任して1ヶ月が過ぎましたが、以前であれば手術や外来を終え自室に戻ると、うんざりするほどの大量の書類やファイルが机の上に積まれていましたが、最近は何も無い机上を見て安堵感に浸っております。

「あっという間に…」と言いたいところですが、正直なところとても長く感じた3年間でした。辛い時期も多々あり、そのたびに迷い、悩み、そして行動してきました。

そもそも岩手医科大学外科の医局長の仕事とは、主に以下の通りです。

- ・医局人事異動の草案を作成し、各医師と折衝する
- ・各病院への診療応援（バイト）を決定する
- ・関連病院の院長や事務長と顔つなぎをする
- ・祝賀会などの幹事として会場予約から招待

状、司会などを仕切る

- ・同門の冠婚葬祭に対し指示をする
- ・医局に届く検診依頼に対し計画する
- ・医局員の話聞いて、悩みや問題があれば解決する
- ・医局員が増えるよう、研修医や医学生の勧誘の指示をする
- ・医局秘書の管理

など、岩手医大外科に限らず、医局長とは医者の仕事とはかけ離れた内容ばかりです。

人事異動は、たいていの場合喜ばれることはなく医局長として最も辛い仕事であり、1月から3月にかけては胃の痛くなる思いをしました。先輩や同期を異動させたり、後輩には単身赴任をさせたり、また人員を削減させてしまった関連施設もあったりと、医局員ならびに関連病院の先生方には大変ご迷惑をおかけしたと思います。その原因は、私自身の医局長としての資質不足であることには間違いありませんが、しかし最も大きな原因は医局の「人材不足」です。昨年の教室年報にも同じようなことを書きましたが、今後岩手医大外科教室、そして関連病院のアクティビティを高めるためには、この「人材不足」を

K o k i O t s u k a

M.D., Ph.D. Research Associate Professor

最重要課題として掲げ医局員一致団結して、学内はもとより全国の精鋭を呼び込む努力を本気で継続していく必要があります。そのためにも、さらに学内外に岩手医大外科をアピールし輝き続けることが重要であり、この度特任准教授を拝命した責任もありますので、これまで以上に「臨床」「教育」「研究」を自身は勿論、後輩達に継承していきたいと思います。

医局長を終え、私と同期である新田先生に引き継いだわけですが、時代は変わり大学や各関連病院のシステムは非常に複雑、多様化し、そしてそれに比例するように若い世代の心も複雑、多様化しており、加えて日常の実地臨床、教育など一人に対応するには精神的、肉体的にオーバーワークになっていることは事実です。今後は、新医局長をしっかりサポートしたいと思っていますので、新田先生がんばってください！

この度、平成26年4月に特任准教授を拝命いたしました。

私は、岩手医科大学を平成5年に卒業し、同年岩手医科大学第一外科（斎藤和好外科）に入局いたしました。現在は、下部消化管チームのチーフとして主に腹腔鏡手術を専門にしておりますが、入局から6年間は食道癌チームに属し、石田薫先生、故佐藤信博先生、池田健一郎先生の元で、「食道癌術後の経腸栄養管理」について研究し、学位をいただきました。その6年間は、現医局員は信じられないかもしれませんが、3ヶ月毎に関連病院と大学の勤務を繰り返してきました（トランク）。しかも出張先が決定するのは早くて1ヶ月前で、1週間前になって命じられた事もありました。それを考えると、今は幸せでしょう！（こんなこと言い出したら、後輩に嫌われますね…）。関連病院では、同門の先輩に手術の定型化（レーゲル）や患者を診る姿勢を学び、腹腔鏡の魅力や大腸癌手術の奥深さを教えて頂きました。そして、本来長期出張に出るはずの7年目からもなぜかそのまま大学残留となり、下部消化管チームに配属され今に至っております。当時、同期で大学院を既に卒業していた新田先生、荒谷先生、佐藤先生（旧姓 中島）が関連病院先でバリバリ手術をしている姿を目の当たりにしていましたので、その当時

の旭医局長から医局残留を提示されてもなかなか決断できずにおりましたが、私が1年目（ノイヘーレン）から出張先の能代でお世話になっていた当時助手（助教）の佐々木章先生に相談したところ、「人生はタイミングが大事です。そのタイミングを一回でも逃したら次は無いと思いなさい。だから大学に残りなさい。」と半ば強制的なアドバイスを頂き、今の私があります。その後、下部消化管チームの上司である樋口太郎先生の勧めもあり、腹腔鏡下大腸手術を佐々木章先生に教わり、そして大阪医科大学に国内留学もさせていただきました。チーフとなった後も優秀な後輩に恵まれ、現在は木村聡元先生が診療から手術に至り、絶大な力で私をサポートしてくれております。そして現在、学外からの国内留学生も含め7名の下部消化管チームで、昨年は過去最高の225例の大腸癌手術（そのうち、腹腔鏡手術207例、約9割）を行いました。これも、たくさんの症例をご紹介いただいた同門そして市内、および県内の先生方、そして当院消化器内科の先生方のおかげです。この場を借りて心より感謝申し上げます。今後も、患者一人一人の状況に合わせたベストな治療を目指しますのでどうかよろしくお願いいたします。

特任准教授に就任した数ヶ月までは、正直なところ給料も待遇もほとんど変わらない上に、仕事ばかりが増えて…、と消極的に考える毎日でしたが、就任約1年経過した現在遅ればせながらわかってきたことは、立場で環境が「変わる」のではなく、自分が環境を「変える」立場になってしまったということです。昔、私がたくさんの先生方に教育していただいた様に、これからはたくさんの後輩や学生を、全国、世界に通用するような外科医に育てていきたいと思います。そのためにも、私自身もたくさんの先生方からいただいたチャンスをしっかりまとめて、形にしていきたいと思います。

繰り返しになりますが、外科の魅力をさらに多くの学生、そして全国の若い外科医に伝え一人でも多くの同士の増やし、佐々木章外科教室をさらに盛り上げるために全力を尽くしたいと思いますので、今後ともどうかご指導よろしくお願いいたします。



助教
石田 和茂
〔平成17年卒〕

大学院生
畑中 智貴
〔平成26年卒〕

講師
秋山 有史
〔平成11年卒〕

助教(任)
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

大学院生
天野 総
〔平成25年卒〕

助教
木村 聡元
〔平成14年卒〕

特任准教授
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕

助教(任)
久米 浩平

秘書
館藤 美智子

助教(任)
八重樫 瑞典
〔平成21年卒〕

准教授
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

非常勤講師
杉立 彰夫

大学院生
二階 春香
〔平成23年卒〕

助教
千葉 丈広
〔平成15年卒〕

教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕

助教(任)
川岸 涼子
〔平成21年卒〕

助教
馬場 誠朗
〔平成17年卒〕



- | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------|---------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|
| <p>秘書
佐藤 育子</p> | <p>大学院生
瀬川 武紀
〔平成25年卒〕</p> | <p>大学院生
高清水 清治
〔昭和22年生〕</p> | <p>秘書
鈴木 千里</p> | <p>助教(任)
西成 悠
〔平成19年生〕</p> | <p>助教
小松 英明
〔平成16年生〕</p> | <p>大学院生
天野 怜
〔平成26年生〕</p> | <p>助教(任)
梅邑 晃
〔平成17年生〕</p> | <p>助教(任)
有末 篤弘
〔平成18年生〕</p> | <p>講師
高原 武志
〔平成12年生〕</p> | <p>助教(任)
眞壁 健二
〔平成21年生〕</p> | <p>助教
長谷川 康
〔平成14年生〕</p> |
| <p>准教授
水野 大
〔昭和62年生〕</p> | | | | | | <p>特任准教授
新田 浩幸
〔平成5年生〕</p> | | | | <p>講師
岩谷 岳
〔平成7年生〕</p> | |
| | | | | <p>緩和医療学科教授
木村 祐輔
〔平成6年生〕</p> | | | | | | | |

病棟風景



チーム紹介

内視鏡外科チーム

肝胆膵チーム

上部消化管チーム《食道》

上部消化管チーム《胃》

下部消化管チーム

乳腺チーム

リサーチチーム《分子治療研究室》

小児外科チーム

高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座》

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

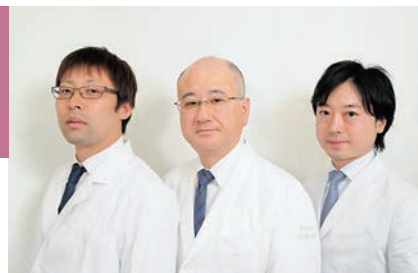


内視鏡外科チーム

STAFF：佐々木 章、馬場誠朗、梅邑 晃

専門外来

水曜
8時30分-12時



臨床では、種々な領域の内視鏡外科手術に加えて、本年からは腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術を再開しました。研究では、2型糖尿病、非アルコール性脂肪性肝炎、睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と改善機序の解明が主体となりました。当チームにおける全手術に対する腹腔鏡下手術の割合は100%で、特にreduced port surgeryの適応が増加しています。

平成28年のニュース

- 4月 ▶ 病院長補佐 就任（佐々木章）
- 8月 ▶ 森 昌造先生のお別れ会 実行副委員長（佐々木章）
- 12月 ▶ e-Thoth Theater（Web Seminar）出演（佐々木章）
- 12月 ▶ 日本外科感染症学会外科周術期感染管理医 合格（梅邑 晃）

平成28年 診療・研究状況報告

- 入院数：116例
- 手術数：60例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	6例
胆嚢結石症	腹腔鏡下胆嚢摘出術	18例
胃粘膜下腫瘍	2孔式腹腔鏡下胃部分切除術	4例
	腹腔鏡・内視鏡合同手術	1例
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	9例
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	6例
	内視鏡下甲状腺片葉切除術	2例
食道アカラシア	2孔式腹腔鏡下Heller-Dor手術	2例
脾臓良性疾患・脾腫瘍	腹腔鏡下脾臓摘出術	4例
鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	8例

《年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
高度肥満症	15	16	6
副腎疾患	8	9	9
甲状腺疾患	5	7	8

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：症例集積中
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における異所性脂肪量減少と代謝変化：症例解析中
- ・肥満閉塞性睡眠時無呼吸に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果：症例解析中

《全国規模》

- ・がん医療エキスパート育成事業（がん医療専門チームスタッフのためのeラーニングプログラム, www.cael.jp）：継続

●今後の研究課題

- ・NASH合併高度肥満症に対する肥満外科手術後のインスリン抵抗性と肝組織学的変化（平成27-29年度科研費 基盤研究C）：症例集積中
- ・肥満・糖尿病に基づく動脈硬化形成における小胞体ストレスの役割の解明（平成27-29年度科研費 基盤研究C）：症例集積中
- ・食欲中枢異常による難治性高度肥満症の実態調査（平成28-30年度科研費 難治性疾患等政策研究事業）
- ・プロテアソーム機能活性化と小胞体ストレス応答制御による機能的膵島細胞シートの作成（平成28-30年度科研費 基盤研究C）

肝胆膵チーム

STAFF：新田浩幸、高原武志、長谷川 康
板橋英教、眞壁健二

専門外来

木曜/8時30分-12時30分
(新田特任准教授、長谷川助教)
金曜/8時30分-12時30分
(高原講師)
14時-16時30分(高原講師)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。特に、肝疾患に対する腹腔鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。2016年4月からは腹腔鏡下膵頭十二指腸切除も保険収載されたことより、腹腔鏡下膵切除も積極的に行っております。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体・脳死合わせて80例を超えました。生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。2011年9月に脳死肝移植施設として認定され、現在まで9例行いました。

胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。このことより長期成績も向上しております。

平成28年 診療・研究状況報告

●手術数：223例

●腹腔鏡下手術の割合：肝切除 60%、膵切除 15%

●平成28年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	29例
転移性肝癌	38例
肝内胆管癌	4例
胆管癌	20例(肝門部8例、肝外12例)
胆嚢癌	3例
乳頭部癌	2例
膵癌 (IPMC 含む)	31例

▶良性

生体肝移植ドナー、pNET、IPMNなど	52例
----------------------	-----

▶その他

脾腫瘍など	44例
-------	-----

《術式別》

脳死肝移植	3例
生体肝移植	9例
肝切除	89例
PpPD	44例
膵体尾部切除	9例
膵全摘	6例
膵中央切除	1例
膵部分切除	1例
胆管切除	1例
胆石、胆嚢良性疾患手術	6例
バイパス (胆管、消化管)	2例
脾摘	3例
肝嚢胞天蓋切除	2例
非切除	2例
その他	45例

《年次推移》

	2014	2015	2016
肝細胞癌	63	34	29
肝内胆管癌	5	8	4
転移性肝癌	22	33	38
胆管癌	20	16	20
胆嚢癌	4	1	3
乳頭部癌	2	5	2
膵癌	36	38	31
脳死肝移植	3	2	3
生体肝移植	10	7	9

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・「腹腔鏡下肝切除の肝門部流入血遮断に対するステロイド投与に関する臨床試験」症例集積中。
- ・「肝外細胞の肝再生に果たす役割」症例集積中。
- ・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。 など

《全国規模》

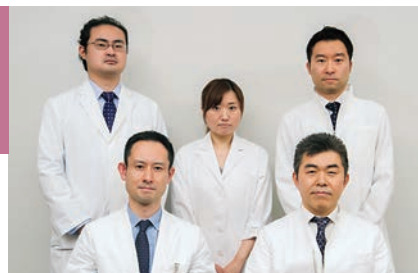
- ・「ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術の多施設共同試験」
- ・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
- ・「膵頭十二指腸切除術後膵液瘻 grade C の危険因子の同定 - 前向き観察多施設共同研究 -」
- ・「非大腸癌・非内分泌腫瘍由来肝転移の切除成績の全国統計」 など

上部消化管チーム《食道》

STAFF：岩谷 岳、秋山有史、遠藤史隆

専門外来

火曜
8時30分-17時



食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行っております。外来診療は外来化学療法室や放射線科と連携し、外来放射線／化学療法を導入しています。また手術予定患者様には早い段階から院内の周術期管理チームが介入しております。入院では手術治療を中心に、早期癌から高度進行癌まで当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携して治療にあたっております。化学・放射線療法、手術を組み合わせた治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

平成28年のニュース

- 8月 ▶ 森昌造先生のお別れの会が仙台にて行われました。森先生がご尽力された食道癌治療のさらなる発展のために我々も邁進すべく、決意を新たにいたしました。

平成28年 診療・研究状況報告

- 食道癌入院数：85名

- 食道癌手術：22名（胸腔鏡下食道切除術：11例）

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	11例
	左開胸開腹食道切除	5例
	経裂孔的下部食道切除	5例
	咽頭喉頭食道全摘	1例

《年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
食道癌	35	26	22
胸腔鏡下	26	19	11

当グループにおける全手術に対する胸腔鏡手術の割合は50%でした。

- 平成28年研究報告

《教室内》

- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷岳）Int J Oncol, 2017
- ・「癌細胞・癌関連線維芽細胞におけるヒストンmRNA/microRNA代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 岩谷岳）
- ・「新規がん抑制遺伝子TPR11の解析」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 秋山有史）
- ・「食道癌肉腫の分子生物学的解析による食道癌・間葉系機構の解明」文部科学省科学研究費 基盤研究C（研究代表者 鴻巣正史）
- ・「食道癌治療経過における血中遊離DNA中の遺伝子変異モニタリング」文部科学省科学研究費 若手研究B（研究代表者 遠藤史隆）
- ・「次世代シーケンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析」論文作成中（九州大学別府病院外科と共同研究）Gastroenterology, 2016
- ・「積極的アミノ酸投与による食道癌根治術後栄養管理の検討」Ann Med Surg, 2017

- ・「食道癌切除後頸部手縫い吻合467例の成績」Dis Esophagus, 2017
- ・「食道癌周術期管理チーム介入の効果」論文投稿中
- ・「進行食道癌に対するDocetaxel/Cisplatin/5-Fu療法の検討」論文執筆中
- ・「切除不能・再発食道癌に対するbiweekly-DCF療法の安全性評価」データ集積中
- ・「食道癌術前化学療法と術後感染症との関連性の検討」データ集積中
- ・「進行食道癌における食道ステント挿入術の検討」予後追跡中
- ・「食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング」症例集積中
- ・「消化器癌の予後に関わるlong intergenic noncoding RNA（LincRNA）の解析」解析中
- 《全国規模》
- ・JCOG1109「臨床病期IB/II/III食道癌（T4を除く）に対する術前CF療法／術前DCF療法／術前CF-RT療法の第III相比較試験」症例登録中
- ・JCOG1314「切除不能または再発食道癌に対するCF（シスプラチン+5-FU）療法とbDCF（biweeklyドセタキセル+CF）療法のランダム化第III相比較試験」症例登録中
- ・JCOG1213「消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたエトポシド/シスプラチン（EP）療法とイリノテカン/シスプラチン（IP）療法のランダム化比較試験」症例登録中
- ・JCOG1409「臨床病期I/II/III食道癌（T4を除く）に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験」症例登録中
- ・「臨床病期IB-III（T4を除く）食道癌に対するS-1術後補助療法の第II相臨床試験」症例登録中

- 今後の課題

- ・食道癌手術症例数の増加。
- ・手術、化学療法、放射線療法による集学的治療成績向上。
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発。

上部消化管チーム《胃》

STAFF：肥田圭介、千葉丈広、西成 悠
瀬川武紀(4~9月)、二階春香(10~12月)、天野 怜(1~3月)

専門外来

木曜
8時30分～16時



胃グループは肥田、千葉、西成の3名のスタッフに加え、ローテートの大学院生、瀬川、二階、天野(怜)の計4名で診療を行いました。手術では腹腔鏡手術の適応拡大を行っており腹腔鏡手術の割合も昨年同様70%以上となっています。胃癌治療のエビデンス確立の一助となるべく、JCOGを初めとする臨床試験への積極的参加、患者登録を行っています。また化学療法に関しては臨床試験に加えて治験にも参加しており胃がんに関わる先端治療を担っています。

当グループにおける胃切除手術に対する腹腔鏡下手術の割合は72%でした。

平成28年のニュース

- 3月 ▶ 日本胃癌学会@別府
- 5月 ▶ 瀬川先生第一子誕生
- 6月 ▶ 西成先生第一子誕生
- 10月 ▶ 第6回みちのくLAGセミナー開催
- 11月 ▶ 肥田WCES&ELSA@Suzhou(蘇州) Invited Faculty

平成28年 診療・研究状況報告

●入院数：228例

●手術数：139例

《内訳》

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	24例
	腹腔鏡下胃切除術	63例
GIST	切除術	2例
その他	審査腹腔鏡、バイパス等	33例

《年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
胃癌	91	97	87
GIST	3	2	2
計(悪性腫瘍切除数)	94	99	89

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・「胃切除後骨代謝障害に関する観察研究」：症例集積終了、論文作成中。
- ・「高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討」：株ツムラとの共同臨床試験。症例登録中。
- ・「胃癌由来循環腫瘍DNAモニタリングによる転移・再発の検証」症例登録中。

《全国規模》

- ・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG1013「切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用(CS)療法とドセタキセル/シスプラチン/S-1併用療法(DCS)療法のランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。

- ・JCOG1104「病理学的StageⅡ胃癌に対するS-1術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1108「高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/1-LV療法vs.FLTAX療法のランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1401「臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術および腹腔鏡下噴門側胃切除術の安全性に関する非ランダム化検証的試験」症例登録中。
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・「フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤を含む初回化学治療に応じた切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたABI-007の3週毎投与法とABI-007の毎週投与法と既存のパクリタキセル製剤の毎週投与法とのランダム化比較第Ⅲ相試験」登録終了解析中。
- ・「切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたTAS-118/Oxaliplatin療法とS-1/Cisplatin療法の多施設共同ランダム化比較第Ⅲ相試験」登録終了解析中。
- ・「標準治療無効な転移性胃癌を対象としたベストサポータティブケア下のTAS-102とプラセボを評価する二重盲検無作為化第Ⅲ相比較試験」症例登録中。
- ・「ONO-4538 第Ⅲ相試験(胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験)」症例登録中。

●今後の研究課題

- ・高度進行胃がん症例に対する腹腔鏡胃切除の有用性の検証
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医育成
- ・胃がん化学療法に関する基礎的研究の推進

下部消化管チーム

STAFF：大塚幸喜、木村聡元、箱崎将規、八重樫瑞典
三宅孝典、上嶋 徳、畑中智貴
ストーマ外来(WOCN)：千葉励子、高橋咲子

専門外来

月曜 8時30分～15時
*外来化学療法のみ金曜AM

ストーマ外来

月曜



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2016年12月までに1901例となり、昨年は全大腸癌手術の95%が腹腔鏡手術でした。現在の当教室の腹腔鏡手術の適応は、周囲臓器浸潤のない症例数としおります。ここ数年の特徴としては、局所進行直腸癌症例に対し、術前化学療法を行い腹腔鏡手術による腹腔鏡の拡大視効果を最大限に生かした根治性、そして機能温存手術を行っております。さらに、腹腔鏡手術の低侵襲性を生かし、高齢者や全身状態不良な患者さんに対しても、麻酔科とタッグを組んで積極的に行っており、腹腔鏡手術を開始した1997年からこれまでに、手術関連死亡は経験していません。また、当グループ内には日本内視鏡外科学会技術認定医2名が在籍していることもあり、国内あるいは世界標準の手術を提供できると自負しております。

切除不能・再発大腸癌に対しては、全国標準外来化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。また、化学療法治療中に切除可能になった場合には積極的に手術を行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、高橋咲子 WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）2名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

潰瘍性大腸炎や Crohn 病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんの QOL を重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

教育面に関しては、若手外科医に対しての腹腔鏡手術の指導を積極的に行っており、2016年までに8名（合格率100%）の内視鏡外科技術認定医合格者（大腸分野）を輩出してきました。また全国各地からの国内留学（8名）や手術見学者（160施設）に対しても指導を行っております。

当グループにおける全初発大腸癌手術に対する腹腔鏡下手術の割合は95%でした。

平成28年のニュース

- 3月 ▶ 2年1ヶ月の継続した縫合不全ゼロがストップ。
- 3月 ▶ 東北リハビリテーション研究会と岩手ストーマ研究会の合同開催。
- 4月 ▶ 鳥取県立厚生病院から国内留学として三宅孝典先生が加入。
- 12月 ▶ 大腸癌手術数225例と過去最高、腹腔鏡手術も207例と過去最高。

平成28年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：297例

*そのうち大腸癌手術（切除）は225例（再発手術6例含む）

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（122例）	開腹	9例
	腹腔鏡	113例
直腸癌（97例）	開腹	2例
	腹腔鏡	94例
	経肛門	1例
* Rb 癌51例	肛門温存33例	温存率65%
Crohn 病（7例）	開腹/腹腔鏡下手術	5例/2例

潰瘍性大腸炎（3例）	開腹/腹腔鏡下大腸全摘	2例/1例
他（大腸癌再発・ストーマ閉鎖・他科手術応援など）		68例 (うち婦人科26例)

《大腸癌の年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
結腸癌全手術数	102	100	122
直腸癌全手術数	90	109	97
計	192	209	219
腹腔鏡下大腸癌手術	173	179	207

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・「高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術」：80歳以上の高齢者と60-70歳の大腸癌患者に対する腹腔鏡手術の妥当性をretrospectiveに解析。高齢者に対してこそ、腹腔鏡手術が適応である。：大塚

Surg Today. 2016 Aug 26. [Epub ahead of print]

- ・「腹腔鏡下大腸癌手術の小開腹創部位を標準化にするための検討」：2015年12月まで200例集積。臍縦切開による小開腹においても、SSI発生率は増えることなかった。2015年消化器外科学会，内視鏡外科学会で報告。：八重樫

Int J Colorectal Dis. 2017 Jan 13. doi: 10.1007/s00384-017-2753-4. [Epub ahead of print]

- ・「腹腔鏡下大腸癌手術における術前腸管前処置の検討－第II相試験－」：現在英文論文投稿中。：木村聡元
- ・「直腸癌に対する腹腔鏡手術の難易度評価」：直腸癌手術患者を検討し、直腸癌術後の短期・長期成績に影響を及ぼす危険因子を術前画像（直腸癌手術患者の術前CTを用いて、「3次元画像解析システムボリュームアナライザー SYNAPSE VINCENT」による骨盤内容積と癌を含む直腸容積を算出し、腹腔鏡下直腸癌手術成績に影響を及ぼす危険因子を解析）・患者因子・術者因子から解析する。：畑中
- ・「肥満大腸癌患者に対する術前減量の安全性と有効性の検証」：腹腔鏡手術予定の肥満大腸癌患者を対象に、手術難易度の軽減化と周術期合併症を予防するために、計画的な術前減量による栄養学的安全性を明らかにすることを目的とする。：高清水

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

- ・1107試験「治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第III相試験（ENCORE Trial）」：症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第II相試験-ULTIMATE TRIAL-」 症例集積中

●今後の課題

▶臨床面

- ・再発直腸癌への積極的な腹腔鏡手術
- ・腹腔鏡下側方郭清手技の定型化

▶教育面

- ・内視鏡外科学会技術認定医のさらなる育成
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

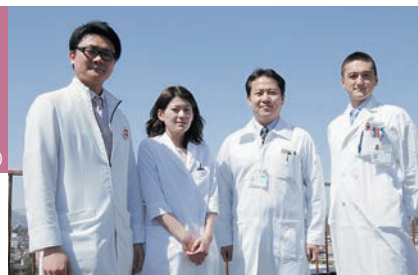
▶研究面

- ・学会発表、研究成果の論文化
- ・大学院生への研究・学位指導

乳腺チーム

STAFF：小松英明、石田和茂、川岸涼子
松井雄介（関連病院出向中）、稲葉 亨（非常勤講師）

専門外来
火・水曜
8時30分～17時
プレストケア外来
火曜
11時～12時（要予約制）



乳腺グループは平成28年度より小松以下、若手を中心としたチームとなりました。また、秋田赤十字病院乳腺外科より我々の同門であります稲葉亨先生に非常勤講師として定期的に来盛頂き、カンファランス、手術について御指導を頂いております。平成28年度の最大のトピックスとしては、最重要課題でもあった念願の乳腺専門医試験に小松、川岸の両名が合格することができたことにつきます。これは、毎月御指導を頂いた稲葉先生を始め、同門の先生方の御指導、御支援のおかげと、深く感謝申し上げます。そして乳腺専門医が当院に復活した事により、昨年度は実施施設基準の関係上、休止せざるを得なかった皮膚拡張器を用いた乳房再建術（一次二期的再建術）が平成29年度から再開する運びとなり、ようやく患者様のニーズにお応えする事ができるようになりました。今後も通常の診療のみならず、引き続きJCOG、JBCRG、CSPORといった日本を代表する臨床試験グループ、またNRG Oncology といった海外の臨床試験グループ、さらに開発治験にも積極的に参加し、患者さんに最新の治療を提供すると共に、新たなエビデンスの確立に貢献をしてまいります。現在、医局内では一番若手のグループではありますが、同門の先生方の御期待にお応えできるよう鋭意努力、精進してまいりますので、一層の御支援、御指導、御鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

平成28年のニュース

- 3月 ▶ 柏葉匡寛先生御退職（4月よりプレストピア宮崎病院 副院長 御就任）
- 4月 ▶ 小松（北上済生会病院）、川岸（函館五稜郭病院）が医局へ帰任。小松、石田、川岸、松井の4名にて新体制スタート
- 6月 ▶ 第24回日本乳癌学会学術総会にてポスター発表（小松、石田、川岸、松井）
- 9月 ▶ 岩手医科大学主催健康フェス2016において、腫瘍センター企画による市民公開講座「知っ得、なっ得、乳がんの“いろは”」講演（小松）
- 10月 ▶ 日本乳癌学会乳腺専門医試験合格（小松、川岸）松井が岩手県立釜石病院外科へ出向。専従スタッフ3人体制（小松、石田、川岸）となる。第54回日本癌治療学会学術集会ワークショップにて口演発表（小松）
- 11月 ▶ 第78回日本臨床外科学会総会主題関連にて口演発表（小松）
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposium 参加（石田）

平成28年 診療・研究状況報告

● 総手術数：168例

《内訳》

疾患	術式	症例数
原発性乳癌	乳房部分切除術	79例
	胸筋温存乳房切除術	61例
	乳腺全摘術	9例
	乳腺全摘術＋組織拡張器留置	4例
計		153例
その他（良性、追加切除等）		15例
合計		168例

● 平成28年研究報告

《全国規模》

- ・ Cinderella研究会：手術可能乳癌患者を対象としたフローゼングローブ、弾性ストッキングの nab-paclitaxel による末梢神経障害予防効果の検討（Phase II、SPOT trial）
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1017（PRIM-BC）「薬物療法非抵抗性 Stage IV 乳癌に対する原発巣の意義（原発巣切除なし vs あり）に関するランダム化比較試験」
- ・ 日本臨床腫瘍研究グループ：JCOG1204（INSPIRE）

「再発高リスク乳癌患者の標準的フォローアップとインテンシブフォローの比較第III相試験」

- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（N-SAS BC 06）」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳癌臨床研究支援事業（CSPOR）「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験（N-SAS BC 07）」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-C05（B-SHARE）「HER2陰性の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたペバシズマブとパクリタキセルの併用療法の有用性を検討する観察研究」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-M04（BOOSTER）「ホルモン陽性HER2進行再発乳癌に対する、ホルモン療法による維持療法を利用したペバシズマブ+パクリタキセル療法の治療最適化研究－多施設共同無作為化比較第III相臨床試験」
- ・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）：JBCRG-20（Neo-Peaks）医師主導治験「HER2陽性乳癌におけるベルツズマブとトラスツズマブエムタンシンを用いた術前療法の検討（ランダム化第II相試験）」
- ・OlympiA 試験「十分な局所性治療及び術前補助療法又

は術後補助療法を終了した高リスク生殖細胞系BRCA1/2変異陽性HER2陰性原発乳癌患者に対する術後補助療法としてのオラパリブの有効性と安全性を評価する無作為化二重盲検並行群間比較プラセボ対照多施設共同第III相試験」

- ・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又はT-DM1とベルツズマブのプラセボ（ベルツズマブに対し盲検）の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際他使節共同第III相ランダム化3群比較試験（MARIANNE 試験）」
- ・「手術可能なHER2陽性原発性乳癌における術後補助療法としての化学療法+トラスツズマブ+プラセボと化学療法+トラスツズマブ+ベルツズマブの2群比較第III相ランダム化試験（APHINITY 試験）」
- ・NRG Oncology：NSABP B-51/RTOG 1304「ネオアジュバント化学療法前の腋窩リンパ節陽性がネオアジュバント化学療法後に病理学的陰性に転じた患者を対象として、乳房切除後胸壁及び所属リンパ節の外部放射線治療、並びに腫瘍切除後所属リンパ節放射線治療を評価する第III相無作為化臨床試験」

●今後の研究課題

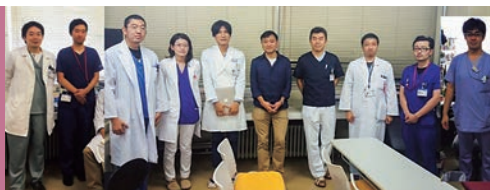
- ・マウス脳転移好発細胞株からの転移関連遺伝子の同定
- ・次世代シーケンスを用いた血中遊離DNA中に存在する乳癌ゲノム異常の検出、解析
- ・新たな乳腺外科医育成

リサーチチーム《分子治療研究室》

STAFF: 西塚 哲、岩谷 岳、臨床グループからの有志
(遠藤史隆、八重樫瑞典、千葉丈弘、有末篤弘、
川岸涼子)、杉立彰夫

専門
外来

外来なしの
24時間営業



2017年からリサーチチームは大きく体制が変わります。これまで外科研究室を運営してきた西塚哲先生が医歯薬総合研究所医療開発研究部門の教授に就任され、岩谷が後任として研究室を引き継ぐこととなりました。また、長年西塚先生のもと研究室を支え大学院生、学生の研究を支援・指導してきた久米浩平先生も今春よりカリフォルニア大学サンフランシスコ校へ移ることになりました。今年は新しい研究室の出発となり不安も大きいですが、現在は臨床グループの有志の先生方が忙しい臨床をこなしながら日夜研究に励んでおり、共同研究施設も増えてきております。多くの先生方の協力をいただきながら、今後も外科リサーチを発展させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

連絡先 岩谷 岳 E-mail: tiwaya@iwate-med.ac.jp

平成28年のニュース

- 4月 ▶ 西塚先生、久米先生、天野先生、岩谷、アメリカ癌学会で発表（ニューオリンズ）。
遠藤先生、八重樫先生 科研費若手（B）獲得
- 10月 ▶ 西塚先生、久米先生、遠藤先生、岩谷、第75回日本癌学会（横浜）で発表
- 11月 ▶ 西塚哲先生、医歯薬総合研究所医療開発研究部門教授に就任
- 12月 ▶ 西塚哲教授、米国ジョージメイソン大学に出向（国際共同研究）

平成28年 診療・研究状況報告

● 癌患者の血中遊離DNA診断システム開発

- ・食道癌、大腸癌、胃癌グループで当院倫理委員会承認を得、研究始動。
- ・血漿DNA検体採取システムの改善（電子カルテ化、新採血管の導入）
- ・札幌医科大学、理化学研究所、国立がんセンター他、共同研究体制の整備

● 平成28年研究報告

《教室内》

- ・「薬剤耐性細胞のstochasticな出現ルールに関する研究」：久米浩平
- ・「新規タンパクアレイを用いた薬剤耐性細胞の分子生物学的プロファイル」：久米浩平
- ・「癌性腹膜炎抑制に働く転写複合体因子とその阻害剤の同定」：久米浩平 Sci Rep, 2016
- ・「血中遊離腫瘍由来DNA定量による大腸癌体内腫瘍量モニタリング」：佐藤慧 Plos One, 2016
- ・「進行胃癌におけるPIK3CAの変異とPI3Kリン酸化における役割」：伊藤千絵
- ・「血中遊離腫瘍由来DNAの食道、胃、大腸、膵臓癌における臨床需要に合致したバイオマーカーとしての可能性の検証」：遠藤史隆、八重樫瑞典、千葉丈弘、武田大樹、岩谷岳
- ・「肝切除後再生における胆管増生反応の役割」：鈴木悠地
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」：岩谷岳 Int J Oncol, 2017
- ・「癌細胞・癌関連線維芽細胞におけるヒストンmRNA/microRNA代謝経路を標的とした癌治療法開発に向けた基礎研究」：岩谷岳
- ・「新規がん抑制遺伝子TPR11の解析」：天野総

《共同研究》

- ・「胃癌術後補助化学療法の異種同所移植モデル確立と分子標的の同定」民間企業および米MDアンダーソン癌センターとの共同研究：石田馨
- ・「胃癌根治術後補助化学療法効果予測バイオマーカーに関する後ろ向き臨床研究（NJバイオマーカー研究）」岩手医科大学関連施設、および市立札幌病院、山形県立中央病院、仙台オープン病院との共同研究：西塚 哲
- ・「次世代シーケンサーを用いた食道扁平上皮癌における網羅的遺伝子変異解析」九州大学別府病院外科と共同研究：岩谷 岳、Gastroenterology, 2016
- ・「食道癌治療経過における血中遊離DNA中の遺伝子変異モニタリング」札幌医大、国立がん研究センターとの共同研究：遠藤史隆、岩谷 岳

● 今後の研究課題

近年の遺伝子解析技術の進歩により癌やさまざまな疾患における遺伝子異常が明らかになってきました。一部の癌では、遺伝子変異情報に基づくPrecision medicine（個別化高精度医療）や血液検体からの癌遺伝子診断も臨床の現場に導入されるようになってきました。個々の症例の全ゲノム解析も比較的安価で短期間に解析が可能となってきており、今後ますます遺伝子診断に基づく治療選択が普及してくると思われます。臨床現場にすぐに役立つ研究として、現在診療グループ横断的に進めている「血中の癌細胞由来遊離DNAを用いた診断システム」を早急に確立したいと思います。また、これまでの研究室のテーマであった癌の再発、肝再生、早期発見と社会的にも関心の高い我が国の医療におけるトピックに関する研究も西塚教授のアドバイスをいただきながら継続していきたいと思っております。

小児外科チーム

STAFF：水野 大・有末篤弘・小林めぐみ（～2016.6）

専門外来

火曜
10時-12時



一般小児外科外来：前年まで火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりましたが、マンパワー不足のため止むを得ず火曜のみとさせていただきます。しかし、他の曜日・時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいておりますのでご連絡ください。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、洗腸による排便コントロールの指導等をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成28年のニュース

- 4月 ▶ 伊勢一哉特任講師が国立福島病院に転出
- 7月 ▶ 小林めぐみ任期付き助教が盛岡赤十字病院へ転出
- 通年 ▶ 弘前大学小児外科への手術支援継続

平成28年 診療・研究状況報告

- 入院数：207例
- 手術数：216例（うち内視鏡下手術43件、19.8%）

《内訳》 重複あり

疾患	術式	症例数
新生児症例		26例
悪性腫瘍	生検含む	15例
鼠径ヘルニア類縁疾患		46例
消化器・肝胆膵疾患		73例
呼吸器/泌尿器疾患		8例/16例

《年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
新生児	20	22	26
非新生児	230	229	190
計	250	251	216

関連施設・他大学での手術：約100例

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発
- ・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育
- ・門脈血流測定による新生児腸管虚血の早期発見

《全国規模》

- ・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・JWiTS3 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ
- ・JCCG 日本小児がん研究グループ

●今後の研究課題

- ・門脈血流測定による新生児消化管穿孔の予防

高度救命救急センター《救急・災害・総合医学講座》

STAFF：小鹿雅博・石田 馨
佐藤寿穂(救急医学分野)・佐々木秀策

専門外来

24時間体制



専門外来：高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2016年当グループにおける全手術に対する腹腔鏡手術を第一選択とした割合は52%でした。

平成28年のニュース

- 3月 ▶ 吉田宗平先生福島へ
- 4月 ▶ 天野怜先生が配属
- 7月 ▶ 天野怜先生帰局 畑中知貴先生が配属
- 10月 ▶ 畑中知貴先生帰局 佐々木秀策先生が配属

平成28年 診療・研究状況報告

●入院数：143例

●手術数：78例

《内訳》

疾患（内因性）	術式	症例数(例)
上部消化管穿孔	内視鏡下手術	3
イレウス	内視鏡下手術：開腹移行	5：8
虫垂炎	内視鏡下手術：開腹移行	8：3
下部消化管穿孔	開腹術	8
急性虚血性疾患	内視鏡下手術：開腹移行	2：7
嵌頓ヘルニア	開腹術	5
その他	開腹術	5

疾患（外因性）	術式（第一選択として）	症例数(例)
横隔膜損傷	内視鏡下手術	2
腹腔内臓器損傷 （消化管損傷）	開腹術	13
その他	開腹術	4

	症例
気管切開術	2
大動脈遮断術	3

内視鏡下手術の割合は26%でした。

●平成28年研究報告

《教室内》

- ・敗血症に対する人工臓器を用いた血糖管理（継続）
- ・輸液チャレンジに伴う血糖値変化の後方視的研究（新規）
- ・エンドトキシン中和能と生体反応の究明（継続）
- ・エンドトキシン吸着療法における有用性と治療開始の至適タイミングの検討（新規）
- ・重症敗血症患者に対する至適血糖管理値の明確化を目的とした臨床評価（研究グループ：盛岡友愛病院、刈谷豊田総合病院、福岡大学、藤田保健衛生大学）（継続）

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：飯島 信、塩井義裕

専門外来

午前外来、月曜・木曜・第1・3水曜 / 塩井義裕先生、火曜 / 飯島 信、第2・4水曜 / 中屋 勉先生、金曜 / 天野 総先生、月曜・木曜午後 手術
(H28.10月より)



2016年度花巻温泉病院送別会
飯島先生ありがとうございました＆お疲れさまでした

当院では常勤医や他科専門外来の減少により、外来・入院数、手術症例数の減少が続いていることもあり、ついにH27.4月より1人体制となりました。しかし北上済生会病院の細井先生に手術の御指導、応援に来ていただき、私の出張日の外来には中屋先生、天野先生に応援に来ていただき、大変感謝しております。昨年

もこれまで同様、花巻、北上地域の先生方からの患者様の紹介、教室の先生方にも専門外来への紹介や逆紹介、手術応援、当直応援で大変お世話になっております。

10月からは私事のために、医局にご配慮いただき、塩井先生との2人体制（実際は1人体制のようなものですが）にいたしました。症例数は少ないのですが、患者様にとって、より良い医療が提供できるよう努力しておりますので、今後とも御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成28年のニュース

- 2月 ▶ 新田先生、真壁先生に腹腔鏡下肝（S3）部分切除術執刀頂く。
- 4月 ▶ 花巻温泉病院4階病棟を閉鎖。
- 10月 ▶ 塩井先生赴任。

平成28年 診療・研究状況報告

- 入院数：59人
- 手術数：58例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌	腹腔鏡下手術	8例
直腸癌	腹腔鏡下手術	1例
胃癌	開腹幽門側胃切除術	2例
転移性肝癌	腹腔鏡下肝部分切除術	1例
胆石・胆嚢炎	腹腔鏡下胆嚢摘出術	2例
甲状腺癌	葉切除術	1例
乳癌	腫瘍摘出術	1例
直腸脱	直腸脱手術（経肛門）	2例
鼠径ヘルニア	鼠径法（D-Kugel）	2例
	腹腔鏡下手術（TAPP）	19例
腹壁癒着ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア修復術	2例
	その他全麻手術	3例
	CVポート埋め込み術	3例
	その他局麻手術	12例

《年次手術数推移》

	2014年	2015年	2016年
胃癌	2例	0例	2例
結腸癌	8例	6例	8例
直腸癌	5例	3例	1例
転移性肝癌	1例	1例	1例
乳癌	0例	0例	1例
胆石・胆嚢炎	7例	5例	2例
イレウス	0例	2例	0例
鼠径ヘルニア	26例	18例	21例
その他手術	8例	16例	22例
計	57例	51例	58例

内視鏡下手術の割合は57%でした。

◆ 入院患者分類

疾 患	例 数
顔面・頸部	4
甲状腺・上皮小体	良性 9
	悪性 0
乳 腺	良性 4
	悪性 192
食 道	良性 8
	悪性 183
胃・十二指腸	良性 14
	悪性 204
大腸・肛門	良性 41
	悪性 258
肝・胆・膵・脾	良性 127
	悪性 237
イレウス	33
虫垂炎	27
ヘルニア・腹壁・腹膜	68
副 腎	12
病的肥満	60
その他	68
入院者合計	1,549

◆ 関連病院手術件数

病院	全手術 例数	全身麻 酔件数	緊急 手術数	腹腔鏡下 手術数	甲状 腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,571	1,304	165	736	11	155	24	116	36	45	269
盛岡赤十字病院	720	667	149	359	4	40	0	28	11	7	81
盛岡市立病院	582	505	58	346	0	6	0	23	10	9	90
八戸赤十字病院	499	404	34	137	3	53	0	35	7	3	103
能代厚生 医療センター	363	346	58	251	9	20	0	38	8	8	63
県立金石病院	392	287	51	79	2	26	0	15	4	0	52
県立久慈病院	454	374	82	130	5	15	0	28	13	2	58
県立宮古病院	359	308	89	94	1	14	0	16	0	0	62
県立二戸病院	295	231	44	50	4	18	0	26	3	4	49
かつの厚生病院	251	183	34	75	2	11	0	9	1	5	47
県立千厩病院	176	141	25	41	0	15	0	8	2	0	18
県立江刺病院	157	74	10	69	0	4	0	3	0	0	21
北上済生会病院	166	108	6	64	1	16	0	3	0	0	2
花巻温泉病院	58	41	4	32	1	1	0	2	0	1	9

◆ 手術件数

	件 数
全麻数	1,080
局麻数	77
その他	19
全手術数	1,176

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2017. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2017. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2017. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2017. 12

指定関連区分	施設名	
指定	盛岡友愛病院	～ 2017. 12
指定	能代厚生医療センター	～ 2017. 12
関連	岩手医科大学附属 花巻温泉病院	～ 2017. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2017. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2017. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2017. 12
関連	国保西根病院	～ 2017. 12
関連	内丸病院	～ 2017. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度認定施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2017. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2017. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2017. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2017. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立二戸病院	～ 2017. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2017. 12
指定	能代厚生医療センター	～ 2017. 12

外科学講座

棚橋 洋太



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2015年

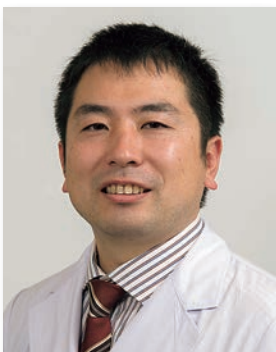
出身地：群馬県 座右の銘：勤善懲悪

岩手医科大学外科に入った理由：

特に何も考えず勢いで入局いたしました。外科で修練させてもらい毎日楽しい日々を過ごさせていただいております。3月で臨床研修も終わりますので、4月からは医局員として外科学講座に貢献できるよう日々努力してまいりたいと思います。まだまだ若輩者でご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命頑張らせていただきますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

外科学講座

高清水 清治



出身大学：秋田大学 大学卒業年：2010年

出身地：秋田県 座右の銘：切り替えと集中

岩手医科大学外科に入った理由：

私は大学卒業後、秋田県内の病院で初期研修を行いました。秋田県内でも外科医不足が指摘される中、先進国、発展途上国を問わずにこれからも需要がある外科の知識、技術を身に付けたいと考え、外科修練の道を選びました。そして、日夜、先輩方と生活を共にし、修練を積む中で、内視鏡外科治療について、より集中的に学ぶ機会を得たいと考えようになりました。そうした中、当講座では各グループにおいて内視鏡外科治療を積極的に選択し、国内外で高い評価を得て、また後進の育成にも継続的に取り組まれていることを知り、この環境で引き続きの修練を積みたいと思うようになりました。

佐々木先生、大塚先生にご相談をさせていただき、医局の仲間に入れていただけることになりました。2016年10月より大学でのローテーションを始めさせていただいております。まだまだ、未熟でご迷惑ばかりかけておりますが、先生方の知識、技術、態度を一つでも多く身に付けられるよう頑張っております。今後ともよろしくお願いいたします。

外科学講座

津嘉山 雄



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2016年

出身地：沖縄県 座右の銘：七転び八起き

岩手医科大学外科に入った理由：

大学入学当初から外科系臨床科に興味がありました。病院実習では、医局員の先生方の医療に対する情熱を肌で感じ、また若手医師への教育姿勢にも感銘を受け入局を決意しました。

現在、盛岡赤十字病院で初期研修中です。様々な診療科と外科の関わり合いを感じつつ研修をさせて頂いております。まだまだ若輩者であり、先生方にはご迷惑をおかけするとは思いますが、精進してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医師薬総合研究所医療開発研究部門 部門長ならびに特任教授就任のご挨拶

西塚 哲

このたび平成28年11月1日をもちまして、医歯薬総合研究所医療開発研究部門長ならびに特任教授を拝命いたしました。敝刀会の先生方をはじめ、多くの方々にご尽力いただいたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

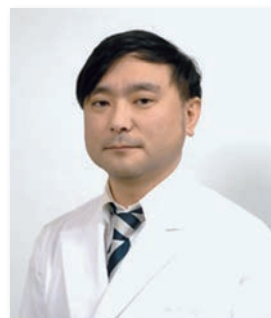
私は平成6年に本学を卒業し、斎藤和好教授が主宰される第一外科に入局いたしました。当時は、大量のDNA多型マーカーが同定されたことを背景に、がんは遺伝子異常の段階的蓄積によってもたらされるという論理が確立されつつある時代でした。また、外科臨床では進行がんに対する標準術式や高度侵襲手術に対する術後輸液管理法の確立など現在行われている「近代」外科治療の礎となる重要イベントの渦中に身を置くことができ、当時まだ30代のグループ長の先生方を中心とした先輩諸先生方の熱意に大変感銘を受けました。毎日の疑問のほとんどは自分の不勉強に起因するものでありましたが、日常診療中に湧き出る継続した疑問を学問として昇華させたいと思い、里館良一教授が主宰される第二病理でがん抑制遺伝子の研究を行う機会を与えていただきました。外科同門である田村元先生をはじめとする先輩方の研究は、米国ジョンスホプキンス大学のVogelstein博士らによる我々ががん研究者のバイブル「The Genetic Basis of Human Cancer」に引用されるなど、当時の私にとってエキサイティングという言葉では全然足りないほどの衝撃を受けたものでした。その後、カリフォルニア大学でがん抑制遺伝子の研究を続けました。医学部卒業後7年目からは米国国立がん研究所に移り、がん細胞のプロテオミクス、バイオインフォマティクス解析を中心に教育と研究活動を行っていましたが、縁あって10年の米国滞在ののち岩手医大外科学講座に戻り現在に至ります。その間、日本でも米国でも、指導される立場、指導する立場の両方を経験することになりました。自分が岩手医科大学で学んだ医師・研究者としての基盤を、国や年代を超えて伝えることができたことは、責任ある職務を行う際に必ず振り返る記憶だと思います。

今後、研究の拠点となる医歯薬総合研究所は、病院ではなく文字通り学部垣根を超えた研究を目的とする場です。外科臨床、プロテオミクス、インフォマティクスの知識・経験・ネットワークを総動員して、これからどのような学際的な研究が発展するのか、今からとても楽しみにし

ています。一方、どのような研究であっても伝える相手が人間である限り、その内容を伝える方法は「文字で残す」

ということに集約されます。研究は日記やブログとは異なり、その主張する法則性や普遍性を専門性が近い他人（peer）から批判されなければいけません。Peerの学術的・哲学的背景が多様であればあるほど、私達の主張が認められることが難しくなりますが、peerの批判を超えて文字に残すことで、時間的（現在と未来）、空間的（物理的距離）制限なしに、その研究で得た法則性や普遍性が少しずつ承認されていくのです。Peerは近くであれば、医局や研究室の同僚であり、論文であれば査読者です。出版物やインターネット上に掲載されれば、いつでも地球上のどこにいても読んでもらうことができるようになります。今後研究の成果を文字で残すためには、まず近くにいるpeerの多様性を見出しつつ建設的に批判しあえる雰囲気が必要です。重要になってくると言えるでしょう。

このような雰囲気の研究室を理想としてきたのは、大学院時代を過ごした研究室が出発点と言えます。また、所属したどの米国の研究室も議論を活発に行うところでした。私は現在文部科学省の支援を受けて再び米国ワシントンDCで研究をしています。米国では、米国以外で出生した米国人の割合が急速に増え、半数以上が外国生まれという州もあります。このような傾向は今後も続くと考えられ、私の知っている多くの米国の研究室でも、そのほとんどが外国人であることはもはや珍しいことではありません。がん検診が当然でない国、選挙のない国、ピザや寿司をアメリカに来て初めて見たという国の出身者にも会いました。私たちの研究の成果をpeerである彼らに認めてもらうには、人間や文化の多様性を超える研究成果の法則性・普遍性をはっきりと主張する必要があります。また、このような多様なpeerのもとでは、職位がたまたま上だからと言って主張が通るわけではなく、大学院生の指導者に対する見事な反論を目にする機会は少なくありません。これは米国の大学院生が我が国の大学院生に比べて優秀だからではなく、建設的に反論することを前提として議論が成立しているからです。これから出発する新たな研究室でも、今までの外科研



研究室と同様にpeer同士批判しあえる場を提供することを目指します。ぜひご参加ください。そのためには、今まで私の教育・研究にご指導・ご協力いただいたみなさん、外科研究室メンバーのみなさん、佐々木章教授をはじめ外科教室員のみなさんのご指導・ご協力が不可欠です。何卒、これからもよろしくお願い申し上げます。

日本内視鏡外科学会 第19回出月賞を受賞して

須藤 隆之

盛岡市立病院 外科

この度は、日本内視鏡外科学会の第19回出月賞を受賞させていただきました。私は、岩手出身で二戸市の福岡中学校、盛岡第一高校を経て、昭和63年岩手医科大学を卒業し、第一外科に入局、現在盛岡市立病院に勤務しております。

我々の教室は、本学会と非常に縁があり、佐々木章教授が第1回（2008年）大上賞を、出月賞の前身である伊藤賞を、2002年（第5回）に中嶋潤先生が、2004年（第7回）に大塚幸喜先生が受賞されました。また、中嶋潤先生が2001年（第3回）に、大塚幸喜先生、新田浩幸先生が2002年（第4回）にカールストルツ賞を受賞しております。今回の受賞は、我が医局として佐々木章先生の大上賞受賞以来8年ぶりとなります。

本論文は、鼠径ヘルニアに対するDirect Kugel（DK）法と単孔式transabdominal preperitoneal repair（TAPP）法の短期治療成績の前向き比較研究であります（須藤隆之、他：日本内視鏡外科学会雑誌21巻2号 P183-191）。内容は「単孔式TAPP法は、整容性に優れ、DK法と同等の安全性が確認され、整容性を重視する症例の有力なオプションと思われた。」という内容です。

鼠径ヘルニアは、common diseaseで外科医の登竜門手術と位置付けられております。私が昭和63年に入局した頃は、tension手術であるiliopubic tract repairが主流でありましたが、その後mesh plug法、Kugel法、Direct Kugel法などのメッシュを用いたtension free手術が主流となりました。近年、TAPP法あるいは、totally extraperitoneal repair（TEP）法の腹腔鏡下手術が開発され、更にconvention手術から単孔法や細径鉗子を用いたReduced port surgeryが導入されております。患者さんに対する術式の選択は、golden standard手術が存在していれば、その

追記：実はこの挨拶文に先立ち、近い内容の話を外科学教室でする機会がありました。私がメ切を守らないと思ったら教室年報担当の秋山有史先生（後輩）から「時間と空間を超えて先生の文字をお残してください。締め切りまでに！」との連絡がありました。このような形で私の思いが伝わるとは嬉しい気持ちです。

Fig. 1 授与式
(梅邑晃先生写真提供)



選択に迷うことはありませんが、現在ヘルニア治療に関しては、多くの治療法が混在しております。

私は、クリニカルパス（CP）に興味を持っており、CPはエビデンスを組み合わせて作成いたしますが、現在の医療行為の全てにエビデンスがあるわけではありません。

パスの学会参加時に、エビデンスの無いことに関しては、バリエーション解析を行い施設でのエビデンスを作れば良いというお話を伺い、我々の施設で臨床研究を行い当院でのヘルニア手術の選択に関するエビデンスを作ってはどうかと思い本研究を行いました。

臨床の場では、様々なクリニカルクエストに直面いたしますが、それに対する答えが臨床研究にあると思います。

上記は、日本内視鏡外科学会雑誌21巻2号（2017年3月発行号）に掲載予定の内容ですが、医局より3000字～4000字を目安にとのご指示がありましたので、写真の追加と裏話を書かせていただきます。2016年12月8日から10日まで横浜パシフィコを主会場として第29回日本内視鏡外科学総会が開催されました。学会初日夕方の評議員会に続いて授賞式がありました。最前列に座らせられて、最初に大上賞（虎の門病院呼吸器センター外科河野匡先生）の授与があり、その後に出月賞、カールストルツ賞の授与がありました。評議員の先生方の前に登壇して日本内視鏡外科学会理事長、会長の北里大学外科教授渡邊昌彦先生より賞状とクリスタルの記念品を授与され挨拶と記念撮影を行いました（Fig. 1）。受賞前の席上と壇上では、久しぶりに緊張して

心臓がばくばくでした。評議員会の直前に渡邊先生に受賞のお礼に伺ったところ「挨拶は30秒でね。」と言われ3分で挨拶を考えていたのですが、まったく無駄になってしまいました。後から解ったのですが、授賞式の後に別会場で会長招宴があり、早めに切り上げて移動したかったようです。また、その際、渡邊先生から「出月賞選考委員会の投票で先生の論文が受賞の1位と2位だったから圧勝でしたよ。」と教えられました。1位の論文が受賞論文で、2位の論文が経口補水療法の前向き比較研究の論文(須藤隆之、他：腹腔鏡下胆嚢摘出術における術前経口補水療法の前向き比較研究、日本内視鏡外科学会雑誌20巻6号 P591-597)です。いつまで出来るかわかりませんが、論文作成の苦しみを楽しめるうちは、頑張って研究活動を行っていきたくて思っております。授賞式の夜は、佐々木章先生に企画頂いて学会に参加している医局の先生方にお祝いをして頂きました(Fig. 2)。関連病院におりますと学会期間中に大人数で食事する機会もなくなり、久しぶりに楽しい時間を過ごさせていただき、佐々木章先生をはじめとする医局の先生



Fig. 2 祝賀会(安藤太郎先生写真提供)

方に非常に感謝いたしております。12月21日の岩手日報に受賞の記事が掲載されました(Fig. 3)。やはりマスコミの影響は大きく、通院されている患者さんからの、お祝いの言葉はもちろんの事、新規のヘルニア患者さんが盛岡市内、盛岡市外からも新聞記事のコピーを持って受診されております。

最後になりましたが、今回の受賞を励みに、今後とも臨床に研究に全力を尽くす所存でございますので、皆様のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

2016年(平成28年)12月21日(水曜日) 社 会 (20)

国内学会「出月賞」に 須藤 医師 (盛岡市立病院)

盛岡市立病院の手術部長兼外科第1科長を務める須藤隆之医師53は、日本内視鏡外科学会の年間最優秀論文に贈られる出月賞を受賞した。受賞した論文では、以前脱腸と呼ばれていた成人片側性腹壁ヘルニアを治療する従来型と内視鏡の手術を比較。患者や医師が治療法を選択する上で有益な情報をもたらした。須藤医師は「術式をより高め、患者に還元するために一層の研究を進めていく」と意気込む。

内視鏡論文で最優秀

腹壁ヘルニアは、脚の付け根(鼠径部)から腹膜や腸がメラを体内に入れて内側からはみ出してくる症状で、手術を行い修復する必要がある。TAPP(タップ)法という論文は3月に発表し▽患者2種類の術式を50例ずつ、計100例で比較、検証した。従来型は手術時間が短く、内視鏡は出血量が少ない利点があった。術後在院日数や痛み(疼痛)、満足度、合併症(疼痛)は従来型と同等の安全性があり、術後の傷のきれいさ(整容性)を重視する場合、有効な選択肢となると結論を得た。須藤医師は「受賞は大変うれし。従来型の手術法とより新しい腹腔鏡手術とを比較すること、本県からは2004年以來2人目の受賞。」

ヘルニア手術法比較 治療選択に有益な情報

出月賞の賞状と盾を手にする須藤隆之医師

み(疼痛)、満足度、合併症(疼痛)は従来型と同等の安全性があり、術後の傷のきれいさ(整容性)を重視する場合、有効な選択肢となると結論を得た。須藤医師は「受賞は大変うれし。従来型の手術法とより新しい腹腔鏡手術とを比較すること、本県からは2004年以來2人目の受賞。」

Fig. 3 岩手日報掲載記事

平成28年度 岩手県営医療貢献賞を受賞して

伊藤 達朗

「わかくさりボンプロジェクト」代表
岩手県立大船渡病院 院長

平成28年11月1日、岩手県医療局長より岩手県営医療貢献賞を頂きました。これは私一人の表彰ではなく、医療局事務部門の3人と私を含め4人が企画、実施した「わかくさりボンプロジェクト」が県立病院の復旧・復興の一助となり、県営医療に対する貢献とその功績が認められ、受賞したもののようです。私にとっては予想外の受賞でした。

このプロジェクトは、東日本大震災津波により大きな被害を受けた県立病院にあって、職員が一致団結してこの苦難を乗り越えようと、震災直後の3月13日より千厩病院の職員が再生と復活の意味を込めた若草色のリボンを身につけ診療に従事していたことを契機として立ちあがりました。当時、私は院長として千厩病院に勤務しており、未曾有の大災害に職員が医療者として対応してゆくためには何かシンボルが必要だと思い、すぐにでも準備できるものという思いから、簡単に製作出来る若草色のリボンを身に付けることにしました。なぜ、リボンの色に若草色を選んだかについてお話しします。それは、復興、再生のカラーは何かと考えた時に、古代エジプト神話に登場する神、オシリスの顔の色にたどり着いたからです。神話によるとオシリスが生産（農耕）の神として、王として君臨した古代エジプトでは、現在と同じようにナイル川デルタ地帯から川沿いにかけて、周囲の砂漠地帯とは異なり、春になると新芽が吹き出し若草色になりました。また、オシリス自身は弟に謀殺されたのちに、妻イシスによりミイラとして復活することが出来、冥界の神となりました。それゆえ、古代エジプトの壁画にある生産の神そして冥界の神オシリスの顔の色は緑色（若草色）であり、緑色は再生、復活のカラーとされてきました。当初は緑色リボンを考えましたがグリーンリボンは移植医療のリボンであるので、重複しないように「若草リボン」と決定しました。

さて、「若草リボン」は瞬く間に多くの県立病院へ伝播し、知事の知るところとなり、さらに全県的な広がりを見せ、復興に携わる職員も身に付けるようになりました。その時期には当県に対する支援活動が本格的に始まっており、世界や日本各地から支援物資の搬入と共に多くの支援者が来県していました。そのような状況の中で、「全国はも



とより世界各地からの支援に頼るだけでなく、自分たちでも出来ることはないか？」と職種も所属も年代も異なっていました。志を同じくする4人が集まり、「復興と再生へ～Together As ONE～岩手県立病院」を合言葉に、始めは本当に小さなプロジェクトを立ち上げました。

その取組のひとつとして、若草リボンをあしらったポロシャツなどを製作し、原価に義捐金を上乗せして値段を設定し、県立病院職員や県職員、救急隊などに販売しました。その義捐金により、被災した県立病院に対し必要な物品を寄贈するなどの活動を行い、県立病院職員等の被災地に対する想いや支援の輪を、ひとつの形とした支援を行いました。これまでに6年間でポロシャツ、ブルゾンなど約1万8千枚を販売し、900万円にも上る義捐金をお寄せいただくことが出来ました。主に全壊した山田病院、大槌病院、高田病院を中心に義捐金、医療機器、テレビ、オルゴール時計等を寄贈しました。出張病院先で、教室の先生方にも多数購入していただいことを、この場を借りて心より感謝します。

未曾有の大災害から今年の3月で早6年が経過し、被災病院の再建が進み、昨年の5月には大槌病院（院長坂下先生）、9月には山田病院が入院診療を再開し、高田病院は今年度末の開院に向け建設中です。一方、被災した開業医の先生方も着実に再建が進んでおり、被災地の医療施設という点では徐々に復興してきています。また、この被災地にある県立病院は震災以前から教室から支援を特に厚くしていただいたこともあり、被災地の医療復興には教室の貢献が非常に大きいと感じています。被災地の医療機能の充実、地域医療構想の実現、保地域包括ケアシステムの構築には教室の支援は重要不可欠でありますので、これからも継続的なご支援を是非お願いしたいと思います。

巖刀会学術賞を受賞して

長谷川 康

このたびは、栄えある巖刀会学術賞を受賞し、大変光栄に存じます。受賞論文は、“Long-term Outcomes of Laparoscopic versus Open Liver Resection for Liver Metastases from Colorectal Cancer: A Comparative Analysis of 168 Consecutive Cases at a Single Center”で、Surgery誌において2015年に掲載されました。

本研究は、大腸癌肝転移に対して肝切除を施行した168例を腹腔鏡手術群100例と開腹手術群68例にわけ、全生存率・無再発生存率・再発形式について、腫瘍背景をそろえ比較・検討しました。結果は、低再発リスクの病変だけでなく、高リスク病変に対しても、腹腔鏡群と開腹群で全生存率・無再発生存率に差を認めませんでした。また、両群間で再発形式にも差を認めませんでした。大腸癌肝転移に対する

腹腔鏡下肝切除術の短期成績についての報告は多くありますが、長期成績に関する論文は希少であるため、その点で価値のある論文と考えています。

岩手医科大学外科学講座では腹腔鏡下肝切除術がいち早く導入され、発展してきました。本論文を書くことができたのも、佐々木章教授・新田浩幸准教授の先見の明および卓越した手術手技によるところが大きいと考えられます。今後も岩手医大外科の特性を大いに生かし、臨床・研究に邁進しますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



資格取得報告

～日本臨床腫瘍学会・がん薬物療法専門医取得について～

塩井 義裕

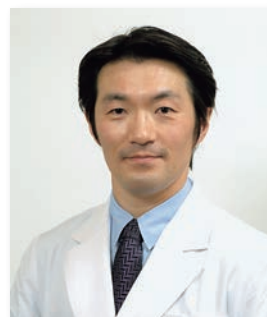
岩手医科大学附属花巻温泉病院 外科

2016年の専門医試験を経て2017年4月よりがん薬物療法専門医を取得となりましたのでご報告申し上げます。がん薬物療法専門医は、日本臨床腫瘍学会が認定する専門医で、質の高いがん薬物療法を臓器横断的に実践できる医師を目指す資格です。岩手医科大学外科学講座では2013年4月に取得された板橋哲也先生（平成12年卒）に続いて2人目となります。2016年時点では本資格取得者は全国で1101名、岩手県では4名と全国的に少ない専門医です。私が取得を目指した契機は、2014年から外科学講座の食道グループに所属し、手術よりも化学療法や放射線治療に関わることが多く、化学療法を全般的に深く勉強したいと考えたことでした。

本資格の取得には、佐々木章教授のご配慮はじめ、木村祐輔緩和医療学科教授、岩谷岳講師の勧めがあり、腫瘍内科の伊藤薫樹教授の力強いご指導とバックアップがありました。また、申請資格には臓器横断的な多領域のがん診療

の経験が必要とされ、外科学講座の各グループの先生方をはじめ、学内他科の先生方からのご指導なしには取得できない資格でありました。院内の多くの先生方、スタッフに励まされ支えられて取得したこの資格は大学病院以外での取得は難しく、消化器外科専門医とは違った充実感と達成感があります。

この専門医の取得条件は、日本臨床腫瘍学会に2年間の所属、基本領域の専門医、がん薬物療法に関する論文1編に加えて、病歴要約30例、筆記試験、面接があります。とくに病歴要約は重要で、血液疾患3例、呼吸器疾患3例、消化器疾患3例、乳腺疾患3例を必須とし、婦人科疾患、泌尿器疾患、頭頸部疾患を含むことが望ましい、とされており、昨年2016年の年始から、各科の教授に専門医受験のお願いをし、各科で化学療法を実践されている先生方にご協力・ご指導をいただきました。8月の病歴要約締め



切りまでに間に合わせ、11月の専門医試験に臨みました。専門医試験は基礎から臨床におよぶがん薬物療法に関する難問で、合格通知が来るまでまったく手ごたえを感じず、薄氷の合格であったと認識しております。

がん薬物療法専門医取得は、臓器横断的ながん薬物療法の標準治療のトレーニングを行ったに過ぎず、各がん領域のがん薬物療法の最先端の知識や技術をもっていることを

保証するものではありません。しかし、他科のがん薬物療法を学び、化学療法全般について深く長く勉強した実績は、今後の外科医の人生にとって必ず実り多きものになると信じております。今後とも各診療科、各グループ、学会のご指導をいただきながら化学療法の研鑽を積み、岩手県のがん治療に少しでも貢献できるよう努力する覚悟でございますので、今後ともよろしくお願い致します。

第27回内視鏡外科フォーラム in 東北 開催報告

水野 大

第27回内視鏡外科フォーラム in 東北を当番世話人として2016年5月21日（土）に盛岡駅西口のいわて県民情報交流センター（アイーナ）を会場として開催させていただきました。日本内視鏡外科学会総会が一昨年で第28回を迎えた中、本会は27回目と非常に歴史ある研究会であることに加え、自分が「小児外科」という内視鏡外科では後発かつマイナーな分野であるため、例年並みの演題数を確保できるのかという大きな不安の下で準備を開始しました。しかし、実際蓋を開けてみますと、佐々木 章教授、各グループチーフをはじめとする医局スタッフ、関連施設の巖刀会の方、東北労災病院副院長の徳村弘美先生ほか本会の世話人の先生方、さらには、かつて同じ釜の飯を食べた秋田大学外科の仲間たち、多くの皆様のおかげをもちまして最終的には68題とここ数年では最多の演題のご応募をいただき、胸をなでおろすことができました。

当日は汗ばむくらいの好天に恵まれ、119名もの医師、メディカルスタッフ、学生さんたちにご参加いただき、一般演題の他、3Dビデオ共催セミナーとして自治医科大学附属さいたま医療センター 一般・消化器外科の宮倉安幸先生と、東海大学医学部外科学系 泌尿器科学の寺地敏郎先生より「大腸・泌尿器科手術 3D内視鏡の効用～安全で



正確な手術を目指して～」、ランチョンセミナーとして帝京大学医学部附属溝口病院 外科の平能康充先生より「進化・深化する腹腔鏡下大腸切除術～ソロサージェリーへの足跡～」、特別講演として大阪赤十字病院 消化器外科の金谷誠一郎先生より「腹腔鏡下胃切除術のあれこれ～解剖・Basic から最新のトピックスまで～」と題するご講演をいただき、各分野の最先端の手技を解説していただくことができました。予想を超える演題数が集まったため、若干タイトなスケジュールになりましたが、座長の先生方、演者の先生方のご協力により、大きなトラブルもなく順調に進行することができ、開会のあいさつから、斉藤和好名誉教授にご臨席いただいた会員懇親会まで、すべてのスケジュールをほぼタイムテーブル通りに終了することができました。

また、研究会などを開催するにあたり、昨今最大の悩みである収支決算ですが、土曜日にも関わらず、多くの若手医局員・秘書さんたちがお手伝いくださり、何とか予算内に納めることができました。

後発・マイナー分野が専門の私のようなものでも無事、本会を成功裏に開催することができたのは、ひとえに皆様のご指導ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。



圭陵会会長に就任して

齊藤 和好

平成28年（2016）6月の圭陵会代議員会・総会の席上、小川理事長先生から会長の大役を仰せ付けましてから長くも半年が過ぎてしまいました。

開学120年もの輝かしい歴史を有し、会員1万余名をも擁する圭陵会の会長に選ばれましたことは、誠の光栄とは存じますが、十分な職責を果たせるかと、極めて不安な気持ちであります。同門の先生方の御指導、ご援助を切にお願いする次第であります。

さて、私は昭和34年（1959）、岩手医大（医学部）に入学致しました。当時は静岡県三島市の日本大学文理学部三島校舎の医学部進学過程に入学して、いわゆる教養部2年間をお世話になりました。当時は、医学部に入学したのに、全然そんな気配も感じられない…等と内心不満に思ったものでしたが、独語や理科の先生方の素晴らしい講義そして伊豆半島への旅行、ミカン狩りやはじめての富士登山等楽しいことが沢山ありました。今でも思い出すのは、ドイツ語の先生が御自身で編纂して、教えてくれたAlbert Schweitzerの‘Ich bin Leben, das leben will, inmitten von Leben, das leben will’ という句がなつかしく思い出されます。3年目に盛岡のいわゆる専門課程に移りました。

当時の2号館の5階の木造の階段教室にて、小ぢんまりと、同級生の入学式を行っていただきました。この階段教室には患者さんをお連れして各科の臨床講義が行われました。

昭和40年（1965）に医学部を卒業しました。

この年に、現在の三戸町に教養部と歯学部校舎が造設されました。

我々は卒業証書をいただき、1年間のインターン生活に入りました。当時インターン制度が揺れ動き、闘争が始まっていたため、前半は実地修練、後半は仮入局という変則制度にて、附属病院でのインターン生活を始めました。そして1年後の医師国家試験に臨みました。仙台の会場で、口頭試問と筆記試験の両方がありました。この第40回国家試験に合格し、昭和41年（1966）6月10日付の免状をいただきました。それから各自が大学や病院に散らばって行きました。この頃は年に2回、春と秋の国試受験チャンスがあったこと、免状交付日が6月と随分遅かったことに気が付きます。

さて、私共の国試の成績はどうだったか…？

同級生は63名受験して、全員合格、100%でした！因みに、

全国の合格率の平均は97%でした。

仮入局を決める段階で、さて何科に入ろうかと迷いました。

「自分の性格からして外科に向いていないかもしれないが内科のことも一緒に勉強できるし、総合的な知識や技術も体得できる科だから、将来きっと役に立つだろう」と、少し打算的（？）に考え、第一外科にお世話になることを決めたものでした。後年、奇しくも「華岡青洲」の言葉、「内外合一、活物究理」を見出し、自分の考えも強ち誤りがなかったことを確認したものでした。

また、「内科医はすべてを知っているが、何も知らない。外科医は何も知らないが、何でもする。病理医は何でも知っているし、何でもするが、時既に遅し…」という「外科医の誕生（ウィリアム・レノン著、横山邦男訳）」の一節に出てくる有名（？）な言葉も味があります。

さて、振り返ってみますと、昭和40年（1961）歯学部開設と同時期に卒業し、早いもので50年経ってしまいました。薬学部は10年経過さらに今年度は看護学部も設立され、120周年祝を期に、医歯薬看の四学部が同じキャンパス内で学べることになりました。医・歯・薬・看の区別はありません。120周年祝を契機に、全員同じく圭陵会の一員として、岩手医大建学の精神「誠の人間、誠の医師」を目指し、謙虚さも保ちながら各人が責任をもって努力しましょう。国試合格率の向上はもちろんのこと、歴史上画期的な年を迎えるにあたり会員の皆様には、物心両面に渉る尊い御援助も切にお願い申し上げます。

最後に外科学教室は、消化器外科、一般外科、修業のみならず所謂プライマリーケアをはじめとする総合的な実力を有する外科医を育て上げることも義務の一つであります。肉体的苦勞を伴う科への入局者が減少している最近の傾向を憂い、学生諸君からも、「大変だけど、外科はいいなあ…」、「あの緑の手術着が着れる科に進みたい」と思ってくれる学生が一人でも多くなり、医局員の人数が増えることを願っております。

圭陵会の各支部・地方の様子も知りたい、知る必要がありますので、機会がありましたらどうぞお声をかけてください。

「病める 弱る 悩めるを、救わん 仁の術ここに」

（土井晩翠 作詞、山田耕筰作曲）

（岩手医大・校歌の一節）



海外研修報告

第33回環太平洋外科系学会日本支部
学術大会 (PPSA-JC)に参加して

二階 春香 (H23年卒)

今回、平成28年9月9日から9月11日に、Pacific Beach Hotel (Honolulu, Hawaii) にて行われた第33回環太平洋外科系学会日本支部学術大会 (PPSA-JC) に参加いたしましたので、ご報告したいと思います。

今回の学会は、私にとって初めての海外学会でした。4月に入局し、すぐに本学会のことを聞き、非常に嬉しく思った半面、英語に自信がなく不安もありましたが、本学会は初めて国際学会で発表する若手医師の支援を目的としていたため、参加することを決めました。

発表は、ポスター討論で、症例報告 (演題名: Laparoscopic splenectomy for isolated splenic metastasis of ovarian cancer with severe obesity) を行いました。原稿は出発前に何度も何度も自主練習はして、内容はほぼ暗記して臨みました。実際の発表では、普段あまり緊張はしない方ではあるのですが、英語に自信がないせいか、いつもの国内学会でのポスター発表とは違い、不思議な緊張感がありました。繰り返し練習してきた発表は完遂できたのですが、質疑応答ではうまく英語で答えることができず、自身の英語力のなさを痛感いたしました。



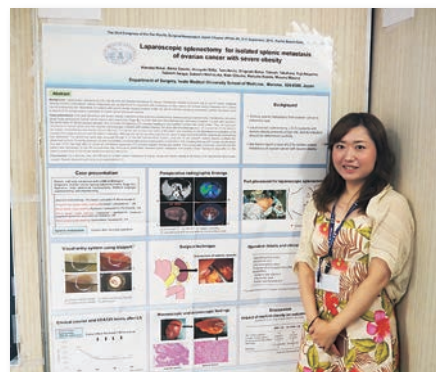
本学会には、他大学からも若手医師が多数参加しており、消化器外科だけではなく、形成外科

や耳鼻咽喉科・頭頸部外科など、他科の医師も多く参加しており

ました。自身の発表だけでなく、他大学の若手医師による発表を聞くことができ、大変良い刺激を受けました。特に、シンポジウムで発表されていた先生方の中にも、若手医師も数名おり、発表だけでなく質疑応答にもしっかりと英語で回答しており、自身のスキルアップは必要であると感じました。

また、今回の学会では9月9日にWelcome party、9月10日にFarewell partyと2つの交流会が設けられており、両交流会にも参加し、他大学の先生方とも交流することができました。交流会では、発表についての感想やアドバイスなど温かいお言葉をいただき、若手医師との交流もできました。普段の国内学会では他大学の医師と交流する機会はあまりないので、とても貴重な時間であったと思います。

最後に、第33回環太平洋外科系学会日本支部学術大会に参加して、今後の自身の課題ができました。今回は英語原稿で精一杯で、それ以上の質問や討論はできない状態でしたが、次回の国際学会の際には内容、原稿はもちろんのこと、討論までしっかり完遂することを目標とし、今後も継続的に英語は学んでいかなければならないと実感いたしました。このような機会をいただいたことに非常に感謝しております。

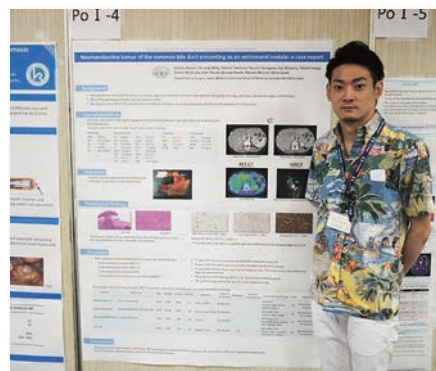


天野 怜 (H26年卒)

2016年9月9日から3日間、The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC) に参加させていただきました。本年度はHawaii (Honolulu) が開催地となっており、自分にとって初めての海外発表・英語発表であり、「Neuroendocrine tumor of the common bile duct presenting as an extramural nodule: a

case report」という演題で発表させて頂きました。

現在、私は大学院3年目



ということもあり学会発表の経験は少なく、右も左も分からず非常に緊張したことを覚えています。また、若手の先生も多く、非常に良い刺激となりました。今回の発表を通して、海外で発表をするということは言語・知識の面で、様々な視点や幅広い知識が求められ、準備段階から非常に苦労した事を覚えておりますが、準備から発表を通し多くの知識・刺激を得ることができたと感じております。そして、今回の発表に限りませんが、このような発表の場は自分の視野・見識を広げ、プレゼンテーションの質を高めるための、非常に有意義な機会であることも実感いたしました。

また、今回は開催地がHawaiiということもあり、現地ではアロハシャツ(正装)を着用し、Welcome party・Farewell Partyにも参加させていただきました。プライベートな時間もあり、車を借りHawaii観光もでき非常に有意義な時間

を過ごすこともできたため、異文化に触れる良い経験となりました。今後も、学会活動に積極的に参加していければと考えております。

最後になりますが、今回このような機会を与えて頂き、発表を通じて自分は大きく成長させられたと感じております。多大なる御指導を頂きました先生方、支援を頂きました皆様には心より感謝申し上げます。



畑中 智貴 (H26年卒)

2016年9月9日から9月11日の3日間、Pacific Beach Hotel (Honolulu,Hawaii)にて開催された第33回環太平洋外科系学会日本支部学術大会(The 33rd congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter)に参加させていただきました。医師になって3年目でしたが、それまで学会発表の経験は少なく、当然のことながら初めての国際学会の機会となりました。

発表はポスター形式で、私の演題は「Perioperative management of bariatric surgery for severely obese patients」でした。初めての英語での発表、質疑応答とのこともあり準備段階から非常に苦労したことを覚えています。英語に不慣れであったため、せめて英語でのプレゼンテーションの質を上げようと発音や文章の区切りに注意し、幾度となく発表練習を行い、質疑応答に備え可能な限りの予備知識を予習して臨みました。発表当日はそれまで国内の学会で味わったことのない程に緊張しましたが、発表は事前に原稿を暗記していたこともあり比較的スムーズに行えましたが、質疑応答では質問の要旨を掴み回答するのに非常

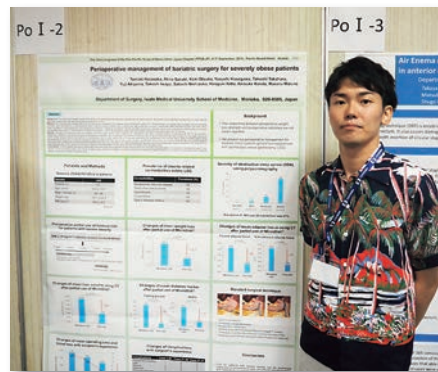
に苦労しました。当然のことながら、国際学会での発表は知識・言語力共に多くを求められることを痛感する良い機会となりました。

本学会は初めて国際学会に参加する若手医師の支援を目的としていることもあり、私たちの他にも多くの若手医師が参加しておりました。中には発表・質疑応答共に流暢な英語で発表されている先生もあり、自身のスキルアップの必要性を感じ、非常に良い刺激となりました。学会の前後に行われたWelcome party、Farewell partyの二つの交流会では他大学の先生方から知己に富んだお話を聞く機会もあり、非常に有意義なものとなりました。

最終日にはお休みをいただき、一緒に参加した二階先生、

天野先生とレンタカーを借りてオアフ島をドライブや食事をし、夏休みとしても良い時間を過ごすことができました。

最後になりますが、このような貴重な機会を与えて頂き、御指導いただいた先生方、支援いただいた皆様に心よりの感謝を申し上げます。



海外研修報告～IRCAD 台湾～

塩井 義裕

岩手医科大学附属花巻温泉病院 外科

台湾にある世界的な腹腔鏡手術トレーニングセンター「IRCAD Taiwan」に研修する機会を佐々木章教授からいただきましたのでご報告申し上げます。

IRCADは、1994年にフランスのストラスブルグ大学に設立され、腹腔鏡手術の普及を世界的に貢献してきた組織です。2001年にはストラスブルグ大学のProfessor Marescauxが“Lindbergh手術”を行いました。これはニューヨークでロボット手術を行うProfessor Marescauxがフランスにいた患者に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行ったものです。これはまるで、1927年にCharles Lindberghがプロペラ機でニューヨークからパリの大西洋単独無着陸飛行を成功させたような画期的な出来事だったのです。

IRCADは腹腔鏡のトレーニングセンターをフランスだけでなく、2008年に台湾、2011年にブラジルにも設立し、全世界から腹腔鏡手術のオペレーターを受け入れています。2016年に佐々木章教授が、「IRCADに参加する医局員に旅費を支給しますので希望者は立候補してください。」とアナウンスされたので、私が一番に立候補いたしました。（食道班の先生方には留守中ご迷惑をおかけしました。）

フランス、台湾、ブラジルのどのIRCADに参加できたのですが、私は台湾を選択しました。本場フランスもいいと思ったのですが、アジアの熱気・生命力が感じられるIRCAD Taiwanが一番自分に合っていると思ったのです。

鏡視下手術のコースには、General surgery, Upper GI surgery, Colorectal surgery,

Bariatric surgery, Hepatobiliary and pancreatic surgeryなどのコースがありました。私が選んだのは、General surgeryでした。その理由は、最もたくさんの手術を経験できることと、コース期間が5日間と最も長いことでした。2016年5月30日から6月3日までの5日間コースに参加し、台湾の前後泊と合わせて1週間の日程でした。

IRCAD Taiwanがあるのは台湾の台中（台北から新幹線で1時間程度）で、田園地帯の中にある巨大な病院のShow Chwan Memorial Hospitalに隣接してあります。IRCADのコースの開始前には伝説の内視鏡外科医Professor Marescaux、Show Chwan Memorial HospitalのMH. Huang理事長がおいで下さり、記念撮影をさせていただきました。（図1）初日の夕食ではアジア各国の先生方がそれ



ぞれにスピーチと歌を行い、私は東京女子医科大学の先生方と坂本九の「上を向いて歩こう」を歌いました。この「スキヤキソング」はアジアでも広く知られておりオールマイティです。

IRCADのコースでは、最新の設備の大きな部屋に一度に20匹の豚が手術台にのっており、1匹の豚を2人のコース受講生が使用して、腹腔鏡手術を行うことができます。5日間のうち、午前は座学があり、午後は4日間連続で豚を用いた腹腔鏡手術ができます。麻酔はすでにかけており、病院勤務の看護師が介助につき、昼食後14時ごろから18時まで2人で一頭の豚を使って腹腔鏡手術ができます。日本のトレーニングラボはせいぜい1頭の豚を数人で使って1日から2日の日程でしょうから、それに比べるとまさに夢のような研修です。私のバディは中国系マレーシア人のチャン・カワイDrで、かなりの腕前でした。写真（図2）は、4日目に私が豚で胃全摘（R-Y吻合）をしたあとの記念撮影です。豚は意外にも内臓脂肪が少ないために手術が行いやすく、吻合も手縫いで時間内に終了したので、脾摘も行いました。

General surgeryの日程は以下の通りでした。

第1日目：小腸切除と吻合（すべて体腔内吻合、手縫い）、胆嚢摘出、脾臓摘出

第2日目：ヘルニア修復（TAPP）、胃空腸吻合、T-tube挿入

第3日目：胆管空腸吻合、膀胱尾部切除、肝門部処理、腎摘

第4日目：小腸切除と吻合（すべて体腔内吻合、手縫い）、胃全摘術、Roux en Y吻合

4日間連続で腹腔鏡操作を行っていると徐々に技術も上

達し、小腸の手縫い吻合も楽に行えるようになりました。当医局では器械吻合への信頼性が高く、「このコースのような手縫い吻合は許されないだろうな」と思うのですが、「いざとなったらこんなふうに縫合すればいいんだ」という自信を、身をもって実感しました。

4日目のGeneral courseの最後の夕食は鹿港 (Lu-gang) の港町の海鮮居酒屋でまたもやお国自慢をし、楽しい時間を過ごさせていただきました。本学外科学講座の肝胆膵グループに留学に来ておりましたHP. Wu先生もいらしてい

ただいておいしいお酒と料理をいただきました。

コース参加料は約30万円と高額ですが、毎日の豚の腹腔鏡手術、座学の内容、アジアのほかの国々の先生方との国際交流を考えると、はるかに有益な研修でした。臓器に特化したさまざまなコースがありますので、自身の目的にあったコースに参加することは、外科医としての技術を広げ、さらに国際交流により人間性の幅を広げてくれることと思います。

(図3はGeneral course終了時の記念撮影です。)



国内留学レポート

三宅 孝典

鳥取県立厚生病院 外科

香川県出身、平成14年度鳥取大学医学部卒業の三宅 孝典と申します。

内視鏡外科技術認定医取得にむけての技術向上のため、平成28年4月から岩手医科大学外科学講座、下部消化管グループに国内留学という形で研修をさせていただいています。

鳥取大学医学部病態制御外科学講座（旧第一外科）に入局してほぼ実臨床は関連病院で修練していました。胆嚢摘出術以外の腹腔鏡下での執刀は平成24年から私は始め、腹腔鏡手術を意欲的に取り組み始めたのは平成26年頃からですと記憶しています。それまでは開腹でしか行っておらず、腹腔鏡下手術をあまり行っていない病院にも在籍していた時期もあったため、自分の技量からは開腹で行うのがbetterと考えている時期もありました。



(左端:著者)

腹腔鏡補助下回盲部切除術を初めて担当させてもらうことになった時にどうやって行うか医学書だけではイメージがつかず、途方に暮れていました。当時勤務していた外科の一番学年の近い上司よりこの先生の手術が勉強になるよと渡されたのが大塚 幸喜先生の手術ビデオでした。その手術ビデオを見た時の衝撃は今も覚えています。的確な層

へ最短で入り、無駄のない剥離操作、適切な郭清をほぼハーモニック1本で行い、音声から落ち着きのある声でわかりやすい解説しながらの手術。大塚先生の手術を真似てこれからはやっていこうと心に決め、それから数えられないくらい同じ手術ビデオを見返しながら手術に臨んでいきました。

基本的に電気メスを使用して剥離受動していく先生が鳥取の方は多いため、腹腔鏡経験の乏しい私のハーモニックスばきで幾度となく、注意が入りましたがなんとかお許しを得ながら手術をさせていただいていました。

そしていつしか、大塚先生の下で手術を学びたい、岩手医科大学に研修に行きたいとの思いがどんどん強くなり、周りの親しい先生方にもその夢物語を話すようになっていきました。しかし、鳥取と岩手の距離は想像以上に遠く、全く知っている先生もいないため、どうやって大塚先生と連絡をしていいかもわからない、鳥大の医局の許しを得られるかもわからない状況の中でなぜかいつか行くことだけは何の根拠もなく、行けると考えている自分がいました。

平成26年の夏に先輩の紹介で大塚先生が講師として招かれる他大学主催の研修に2人欠員が出来たので急遽行ってみないかと誘いを受けました。それは是非参加したいということで外来終わりで飛行機で飛んでその研修に参加させていただき、その夜の会で大塚先生の隣に座らせてもらい、自己紹介、大塚先生のもとで修練を積まさせていただきたいことをお話ししました。その時、お話をさせてもらって大塚先生の人間性も素晴らしいことを再確認し、絶対に行くことを決めました。

そして何度か連絡を取らせていただきながら、また鳥大の医局とも交渉を行いながら平成28年4月から研修させていただくことが決定しました。

段々、岩手に行く日が近づくにつれ、学べる高揚感とまた誰も全く知らない環境の中でうまくやっていけるかの不安が出てきましたがそれも来てしまうと全くの杞憂でした。下部消化管グループのメンバーはもとより、他のグループの医局員の方々も暖かく迎え入れてくれて気にかけてもらい、非常に楽しく研修を受けさせていただいています。

研修初日に腹腔鏡下Miles手術があり、スコピストとして入りましたが160分間で手術が終了するといういきなり殴られたような衝撃を受けました。今までMiles手術は早くても5時間くらいはかかるものと認識していたため、全く違う次元の手術を見てさらにここで研修できる自分に歓喜しました。

研修は最初の頃は特に大塚先生の手術のスコピストを優先してさせていただきながら術中に解説を受け、まずはこ

れまでに下部消化管グループで定型化してきた術式の流れを眼と体で覚えることから始まります。スコピストを半年間ずっと行っていくことでその時にはなかなか実感はわきませんが自分の手術やビデオクリニックで提供されたビデオを見ているときに違ったことを行っていると自分の中の違和感として感じるようになり、そこが問題点だということが分かるようになります。

半年を過ぎた頃より第一助手、術者の機会が得られるようになります。どちらも行うことによっていかに場をつくり、術者にやりやすい環境を作り、力加減などどうしていくかや術者はどうハーモニックや鉗子を操作し、どう場を指示して相手に伝えるかなどスコピストで養った感覚的な部分を今度は理論化して実践していく指導を受けます。

そして術者を行った後はその手術を自分で見返した後、疑問点などをもって大塚先生に個人ビデオクリニックをしていただくという他地域の先生からしてみたらとても贅沢な講義を受けさせていただきます。こうやって実践、反省、振り返り、そして大塚先生の手術ビデオを見直して再確認を行いながら手技を定型化させていきます。

また下部消化管グループのメンバーで技術認定医を取得されている木村先生、箱崎先生をはじめ、今年取得されるであろう八重樫先生、一年早く留学されている上嶋先生にも御指導を受けたり、議論したりしながら色々なことを吸収させてもらっています。

大学病院の特性として後輩や学生の指導がありますが3年目の畑中先生や10月から入局された高清水先生に色々指導するようにみせて自分の知識の再確認や彼らのガッツあふれる意気込みに自分を省みながら自分に活を入れさせていただいています。学生も素直な子達が多く、(偏見がありますが)今まで私が出会った私大生達とは違って岩手医科大学の学生は真面目で優秀な学生が多いと思います。

大塚先生の手術手技見学に全国の先生が来られます。その際に機会があれば、色々なお話をしたり、他施設の手術ビデオを見て議論したりもして刺激を受けたり、また御高



(前列右から2番目:著者)

名な先生方が講演に来られてその際に色々なお話を聞かせていただいたりと普通ではなかなか会話できない方々とも会話させていただいたり非常に勉強になりました。

今年度は大腸癌研究会が盛岡でまた腹腔鏡下大腸切除研究会が安比で行われました。全国の大腸外科医の方々が一堂に会する光景は圧巻でこのような会にスタッフとして参加できて光栄でまた大塚先生の偉大さを痛感しています。

今回、諸事情により、1年という期間で鳥取に戻らなく

てはならなくなりましたが残りの月日で出来るだけ、吸収して帰りたいと思っています。また帰ってから定期的に見学などに来たいと考えています。

最後になりましたが今回の研修を許可して頂いた佐々木章教授、大塚 幸喜先生をはじめ、日々ご指導を頂いてます医局員の方々、医療スタッフの方々、また出張に行かせていただいています関連施設の先生方に心より感謝を申し上げます。

齋藤 匠

自治医科大学 消化器一般外科

平成28年4月から後期研修で母校である自治医大付属病院消化器・一般外科に国内留学させていただいております、齋藤匠です。

自治医科大学を卒業し、医師として働き始めてから7年目も終わろうとしています。9年間の義務年限として県の人事として動く中、一度母校で働いてみたいと思い、後期研修として県外に留学させていただきました。2年間の予定であり、これは義務年限には含まれません。現在私は6年間の義務を履行しておりますので、後期研修が終了しましたら後3年間残っている形となります。

岩手県の自治医大卒業生は卒業後、県立病院の中から初期研修病院を自分たちで選択することになっており、私は岩手県立釜石病院を選択しました。約270床と規模としては中規模ですが、当時の院長の遠藤秀彦先生をはじめ自治医大の卒業の外科の先輩方が数多くいらっしゃいました。ここで初期研修の期間と合わせ4年間、外科医として働き、手術も多く執刀させていただきました。その後は、多くの先生方にも当直などご支援いただいています、岩手県立千厩病院で2年間外科として働きました。

幸運にも今まで外科医として働くことができ、今年度は日本外科学会の専門医も取得できました。勤務年数を重ねるにつれ、自分の知識と技術を高めることが必要と痛感するようになり、後期研修をさせていただく運びとなりました。釜石病院に勤務している中で東日本大震災の影響で他県の多くの応援をいただき、岩手県内だけでなく、他の県での治療方針の違いなどを触れることができました。前々から一度母校で勤務してみたいと思っていたことと、外から岩手県の医療を見てみたいと思い、自治医大での後期研修を選択しました。

自治医大では、院長先生である佐田尚宏先生をはじめ多くの先生方にカンファレンスや手術の執刀、緊急患者の対応などをご指導いただいております。4ヶ月毎にまずは下部消化管チーム、肝胆膵チーム、上部消化管チームとローテートし、現在は上部消化管チームです。来年度は2周目として同様に各チームをローテートする予定となっております。手術に使われる機材などの違いや手技の違いがあり、改めてその一つ一つの手技の意義について勉強することも多く大変勉強になります。また、外科でも上部及び下部消化管内視鏡検査を行っており、今までの勤務では内視鏡検査・治療は研修医の時に参加する程度でしたので、特に上部消化管手術の術式の決定のため、所見の読み方などを細かく再勉強しております。研修医時代に消化器内科をローテートしているタイミングで東日本大震災に被災したため、内視鏡検査の挿入はほとんど行うことができていませんでしたので、これを機に少しでもその技術も身につけたいと思います。

今まで勤務していた環境とは多くのことが異なるため、戸惑うことも多いですが、その分学ぶことも多く、日々充実しています。残りの1年はこの1年で学んだことを生かしさらに深く学んできたいと思います。

2年間の後期研修が終了しましたら岩手に戻り、義務年限履行のためまた県の人事で県立病院を中心に勤務することとなります。少なくとも、自分の知識や手技の質を上げることで地域に貢献できる内容に大きく違いが出てくると考えています。残りの期間を有意義に過ごし、少しでも成長して岩手に戻ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

腹腔鏡手術に岡 理解を深める 盛

県がんフォーラム

第9回県がんフォーラムは11日、盛岡市盛岡駅西通のアイーナで「消化器がん手術の最新線く腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう」をテーマに開かれ、大

腸がん治療に詳しい大阪医大付属病院がんセンターの奥田準二特務教授が講演した。

市民ら約350人が参

加。奥田教授は進歩する大腸がん治療を映像を交えて紹介し、腹部に小さな穴を開けてカメラや細長い器具を挿入して行う腹腔鏡手術について、開腹手術に比べ「傷痕や痛みが小さく後遺症が少ない」と説明した。

日本内視鏡外科学会の調査では、腹腔鏡手術の割合が2013年の57・2%から15年は72%に上昇しており「腹腔鏡手術が主流になってきている」と強調し

た。一方で、合併症のリスクや病院間の5年生存率に大きな差があるとして「腹腔鏡手術は患者さんの心身に優しいが（医師には）難易度が高い」と指摘。医師の技術向上とともに、患者側

も情報収集する必要性に触れた。会場では日本内視鏡外科学会が基準を満たした学会員を技術認定医に認定していることも紹介した。

岩手医大外科学講座の佐々木章教授を座長に、奥田教授と岩手医大の消化器外科医、がん経験者6人によ

るパネル討論も実施。胃や肝臓など専門分野ごとに現状や課題、腹腔鏡手術について意見を交わした。

フォーラムは県、県がん診療連携協議会、がん患者団体、岩手日報社の共催。



January

1

医局新年会 (2016.1.6. 駒龍)



岩手医科大学高校生キャンサーセミナー (2016.2.24. 岩手医科大学矢巾キャンパス)

February

2



**岩手医科大学
高校生キャンサーセミナー**

日時 平成28年2月20日(土) 10時00分～16時20分(予定)

場所 岩手医科大学矢巾キャンパス **参加無料**

対象 岩手県内の高校1、2年生

定員 40名(要申込み・先着順) **※平成28年1月25日(月)必着**

医師、薬剤師、看護師等の医療者による基礎講義等の他、外科手術のシミュレーターや内視鏡検査等の体験セミナーを予定しています。

☆オリエンテーション
☆基礎講義『がんを知る』
がんの基礎的知識から、検査方法、治療方法、さらに最新研究まで。

☆体験セミナー
※グループに分かれてローテーション

裏面の申込要領に必要事項(氏名、ふりがな、性別、学校名、学年、郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス、お弁当の希望)をご記入のうえ、FAX・E-mailのいずれかでご申込みください。

※お申込みは先着となります。当日お支払いいただきます。
※お弁当を希望の方は実費(500円)となりますので、2月上旬に発送いたします。
※集合場所、当日スケジュール等の詳細は、2月上旬に発送いたします。

お問合せ・お申込み
〒020-8500
岩手県奥州市内丸19-1
岩手医科大学 医学部教務課
(がんプロ担当)
TEL: 019-651-9311
(内線3223, 3111)
FAX: 019-651-9825
E-mail: ikvexam@iwater-med.ac.jp

主催: がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン(がん)と人で読がん医療推進プラン(岩手医科大学)



March

3

合同送別会 (2016.3.7. 盛岡グランドホテル)



April

4

医局昇任祝賀会・歓迎会 (2016.4.1. 駒龍)



May

5

第19回岩手内視鏡外科研究会 (2016.5.28. ホテルロイヤル盛岡)



June

6

同門会総会 (2016.6.4. 盛岡グランドホテル)



北上川ボート川下り大会 (2016.7.24. 北上川河川敷)



July 7



August

8

森昌造先生お別れの会 (2016.8.27. 仙台勝山館)



November

11

医局対抗バスケットボール大会 (2016.11. 岩手医科大学矢巾キャンパス)



同門会忘年会 (2016.12.3. メトロポリタン盛岡ニューウィング)



December 12



医局忘年会 (2016.12.28. 盛岡グランドホテル)

December 12



西塚 哲 特任教授就任祝賀会 (2017.2.19. 盛岡グランドホテル)

February 2 2017



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

同門会の先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。恒例により当科の近況をご報告申し上げます。

平成28年の当科診療体制は、坂本 隆（院長）、佐藤直夫（副院長兼消化器外科長）、川崎雄一郎（外科長）に加え、医局からの長期応援医師として平成27年4月から着任していただいていた藤井仁志先生が3月末で交代されました。そして平成28年4月からは、前かづの厚生病院副院長の阿部 薫先生（現副院長心得）をお迎えして4名の常勤体制となっております。

常勤以外では、圏域から県立軽米病院副院長の葛西敏史先生に火曜日午後の手術応援を引き続きいただく事ができました。また、教室から塩井義裕先生（月曜日午前外来3月まで）二階春香先生（月曜日午前外来4月から）、川岸涼子先生（木曜日午前乳腺外来）、新田浩幸先生（金曜日午前外来）に定期的診療応援をいただいております。さらに、腹腔鏡下大腸手術、肝胆膵手術等ではそれぞれご専門の教室の先生方に多数ご指導いただいております。

一方当科からは一戸病院金曜日外来（坂本）、軽米病院第2・4木曜日外来（坂本）、九戸地域医療センター第2・



4月曜日外来（佐藤）の診療応援を前年に続き行っております。

広大な医療圏（二戸市、軽米町、一戸町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）で求められる外科治療の需要に対して、圏域一体となった診療をめざして行っています。

病院全体としては、前年12月の病床再編に続き、県立病院学会の開催、機能評価受審などと慌ただししい1年でありました。

人口減少・高齢化が進む一方の当地域で、適切な外科治療を提供していけるように努力する所存です。今後とも一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

巖刀会の先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

恒例のことですが、当院の一年間を振り返ってみます。

診療体制では私が21年目に入りますが、現在外来は川岸先生（月）、遠藤先生（水）、秋山先生（金）がいらっしゃり、日当直応援には塩井先生（水）、千葉先生、有末先生、西成先生、瀬川先生、天野先生、畑中先生らがいらしてくれています。有難うございました。当院を引き続き生活関連病院としてお引き立てください。また、当院へ応援してくれている川岸先生の「乳がん専門医」、塩井先生の「がん薬物



療法専門医」の合格など嬉しい話題もあり、医局の皆さんの活躍を誇らしく思っています。

当院では、新年度から地域包括ケア病床も創設して、二戸・久慈地域の後方病院としてさらに努力する予定です。地域包括ケア病床（病棟）は、リハビリ専従など制約もありますが、地域病院だけでなく中核病院でも持っていきたい仕組みだと思います（地域病院では単価が高くなり、中核病院では退院調整がしやすくなる）。

ところで、当院の医師状況は昨今逼迫してまいりました。この3月で内科医師が転勤となって1名減少します。そうしますと常勤医師数は3名（内・外・小）となってしまうため、今後病床休止や2次救急からの撤退なども視野に入れなくてはなりません。県北地域では一戸病院が2次救急を返上しておりますので、中核の二戸病院へさらに負担が

かかりそうな様子です。内科医師があちこちで不足しているのですが、これは旧第一内科の体制変更とも少なからず関わっていると考えます。

軽米町は漫画「ハイキュー」というバレーボールの作者の出身地でもあり、聖地巡礼と称して日本全国から「ハイキューマニア」が最近集まってきています。そこで町でも盛り上げるために「ハイキュー」関連事業が行われるようになってきています（写真：クリスマスに町でライトアップしていた様子）。また、プライベートでは冬の週末は奥中山高原スキー場でレッスンをしています。皆様のご息などスキーを経験させたい方は、責任を持ってお相手をしますので、当方まで連絡いただければ幸いです（写真：キッズレッスン中、息子ですが）。（葛西敏史）

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

平成28年度の外科スタッフは吉田徹院長、遠野千尋副院長、高橋正統外科長、藤井仁外科医長、心臓血管外科/救急医学講座/皆川幸洋副救急センター長の5名に加え、今年度は地域卒卒業の大崎洸医師が1年間の外科研修を行っています。また、岩手医大2年次研修医の棚橋洋太医師が4月から平成29年1月まで外科研修をしてくれました。その他、2年次研修医、1年次研修医もローテーションをしてくれています。また、外科学講座医局からは小児外科を水野大准教授に隔月第2水曜日の診療と、小児外科手術を応援して頂いています。また、佐々木章教授、肥田圭介准教授、大塚幸喜特任准教授、新田浩幸特任准教授、高原武志講師にも手術応援を頂き、最先端の手術術式を学ぶことができます。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2016年の手術件数は454件（2015：400件）で、全身麻酔手術件数は374件（82%）、鏡視下手術は130件（28.6%）でした。癌の手術においては多い順に大腸癌が58件、胃癌が28件、乳癌が15件でした。2015年までは、久慈病院において入院患者数、全科の手術件数とも右肩下がりで減少傾向



でしたが、本年は病院全体で、入院患者数、全科手術件数とも増加しており、外科の入院患者数、手術件数は1割の増加を示しました。外科の手術件数は全科総数の4割であり、全身麻酔手術件数は6割弱を占めます。今後も医局のご指導、サポートを頂きながら、医師のみならず、医療スタッフとも一丸で気を緩めることなく、地域外科医療に取り組みたいと考えます。（文責：遠野千尋）

Morioka Japanese Red Cross Hospital

盛岡赤十字病院

2016年は、大きな天災が2回、熊本と岩泉で発災し、それぞれへ派遣、救護活動を行ってきました。

人員に関しては通常の医局派遣、常勤5名（杉村、川村、青木、武田、石橋）で診療しております。3月末までは東北労災病院より1名非常勤で来ており、その間は非常に助かりました。また9月からは小林めぐみ先生が来てくれて畠山先生と小児外科のみならず大人の外科を、と楽しみにしておりましたが、めでたくご懐妊のため、十分な活躍もできず、本人が一番悔しがっているものと思います。

手術件数に関しては、昨年より約40件増え、全手術数720件、全麻件数667件、鏡視下手術359件、急患手術149件でし



た。そのほか、院内のV-ポート依頼、院内外のPEG、PTEGにも対応しており、忙しくしております。杉村が副院長になり、若手医師があと1～2名増やしていただければ少し余裕をもって仕事ができるのですが、なかなか無理なようです。

緩和病棟は畠山先生を中心に、旭先生と協力して頑張っております。

笑顔をもっとに、日々診療を行っております。

Uchimar Hospital

内丸病院

内丸病院の状況報告を致します。

外来は予約制の専門外来が中心となっており、甲状腺外来（火曜～土曜午前：富澤）、肛門外来（火曜：野田先生、木曜・金曜午前：菊地先生）、乳腺外来（第四水曜：多田先生、火曜・水曜午前：富澤、木曜・金曜午前：菊地先生）、ヘルニア外来（火曜～土曜午前：富澤）を行っております。多くの先生のご協力で、ほぼ毎日2診体制となりました。また、月曜は、秋山先生にも外来をご協力頂くことになりました。

手術では、平成24年の初年度より、毎年約200件を維持しており、甲状腺・副甲状腺手術と、鼠径ヘルニア・腹壁癒着ヘルニアで、当科手術の9割を占めております。2016年より、ALTA療法も含め肛門手術がはじまり、傾向として、虫垂炎手術、乳腺手術が少しずつ増加してきました。

手術の特徴としては、鼠径ヘルニア手術では、内視鏡手術は全例に単孔TEP（腹膜外到達法）手術を行っております。LPECや虫垂炎手術も単孔です。

小さな病院ではありますが、①得意分野の専門的治療を提供すること、②学会参加や発表、論文投稿などを毎年継続すること、③専門医や学会認定施設を取得することを目指しております。②に関しては、2016年は菊地先生と合わせて、外科から3編の論文投稿をしました。③は、今年



は乳癌学会の関連施設を申請予定です。専門医の育成や更新、若手の先生が出張手術にきて頂いた症例も登録できる体制に整備しております。

PEGやPTEGなどの造設を多く施行しており、栄養療法・管理に力をいれていますが、日本静脈経腸栄養学会の認定医（富澤）を取得できましたので、学会のNST専門療法士の研修の教育病院になれるように準備中です。

病院としては、2017年は、緩和ケアの認定看護に看護師を派遣します。看護師も含め、病院全体の取り組みとして、患者様により医療を提供できるように取り組んでまいります。

最後に、内丸病院では、スタッフとさまざまな院外活動をしており、その中の登山愛好会で2016年に富士山登頂をしてきました。一瞬ではありますが、日本で一番高いところで内丸病院スタッフとの記念写真です。登るのも下るのも大変でしたが（仕事もいっしょ？）、スタッフといっしょに達成でき、無事戻ってきました。

盛岡市立病院

当科は、常勤医師1名と岩手医大外科医局よりの派遣医師2名の計3名で診療を行っております。平成28年度は、国立がん研究センター中央病院胃外科での国内留学より戻られた藤原久貴先生と中村聖華先生に勤務頂きました。当科では今まで医師派遣は、単年交代でありましたが、中村先生には、初めて2年連続で勤務頂きました。藤原先生には、胃外科を中心に存分に腕を奮って活躍頂いております。当院では、2016年4月より医師、薬剤師、看護師、栄養士を中心とした、癌患者支援チームを立ち上げ、岩手日報にて紹介されました (Fig. 1)。消化器内科の患者さんも含めて外科の癌患者さんを中心に癌告知から手術 (ESD, EMRを含む)、抗がん剤治療、緩和ケア、看取りまでをチームで家族を含めてサポートするというコンセプトです。昨年も当院の恒例行事となりました第9回キッズセミナーを、開催いたしました。今年も第10回キッズセミナーを開催予定

ですので、御子息様の参加希望あれば是非御連絡下さい。今年10周年目のアニバーサリーで何か新しいことを企画できればと思っております。学術活動では、昨年度須藤が、日本内視鏡外科学会の評議員にまた、日本内視鏡外科学会の第19回出月賞を受賞いたしました。学会活動は、全国学会発表10件、和文論文10編、英文論文1編でありました。現在、3件の臨床試験を行っており終了次第、論文化する予定であります。当科は、常勤医師3名で、全身麻酔手術件数が年間505件で腹腔鏡手術率68.5%と多忙ではありますが、今後も当院に勤務頂く医師と共々当院の症例で老若問わず活発な学会活動を継続していきたいと思っております。また、当院で手術を数多く経験頂き、若手の先生に専門医試験を受験して頂ければと思っております。

当院は、今後も中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院としての使命を果たしていく所存であります。紹介患者は、待機手術、緊急手術を問わず必ず直ぐに引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

(文責：須藤隆之)

岩手日報

2016年(平成28年)5月14日(土曜日)

総合 (4)



がん治療中の患者(手前)から受けた相談に答える盛岡市立病院の医師と看護師、薬剤師、栄養士ら

がん患者支援一丸

盛岡市立病院

看護師、医師らチーム

不安緩和へきめ細かく

盛岡市立病院(加藤幸信院長、268床)はがん患者と家族を支援するチームを立ち上げ、成果を上げている。拠点病院以外では珍しい取り組みで、専門・認定看護師が中心になり、医師や薬剤師、栄養士らでチームを構成。医師の説明の補足や、気軽に相談できる環境づくりを行い、患者や家族が抱える不安を和らげている。

同病院はがんの拠点病院ではないが、年間1000、1500人のがん患者に対応している。医師と看護師サード双方が支援チームの必要性を感じ、3月に立ち上げた。約2カ月で延べ67人の患者に対応した。がん支援チームは、がん

同病院はがんの拠点病院ではないが、年間1000、1500人のがん患者に対応している。医師と看護師サード双方が支援チームの必要性を感じ、3月に立ち上げた。約2カ月で延べ67人の患者に対応した。がん支援チームは、がん

日・スペイン
東京でワーク
鈴木



計画図
大更駅
管理棟
外来
病棟
JR花輪線
来院者用駐車場
職員用
リポート

看護師は「患者から相談する相手が分かって良かった」と言われる」と手応え

新国保西根病院
年内造成着手へ
八幡平市 基本設計示す

八幡平市は13日の市議会議員全員協議会で、JR大更駅東側に移転新築する予定の国保西根病院について建設予定地と基本設計を示した。JR線に沿うように南北に長い形で、農地転用許可後、年内に用地の造成工事に入り、2020年5月の開院を目指す。新病院は、外菜管理棟が鉄筋コンクリート2階建て、病棟が木造平屋建てで延べ計6242平方メートル。基本面積は約2万平方メートル。基本方針は「安全で質の高い医療提供」「快適で利便性が高い環境に配慮」など7項目。医師住宅建設などに対応できるよう用地内

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

岩手県立釜石病院

釜石病院・外科の近況をご報告させていただきます。

平成28年は佐藤、今津正志先生、石黒保直先生、川島到真先生の4人体制で4月から診療を行い、10月からは川島先生に変わり松井雄介先生が大学から着任致しました。前年から引き続いて働いているのは今津先生一人というメンバーが大きく変わった年でしたが、医師同士の連携も良く、皆で仲良く働いております。

応援に来ていただいている同門の先生方は、大槌病院の坂下伸夫院長先生が週一回の手術応援、孝仁病院の小笠原聡先生には週一回、甲状腺外来と手術に応援を頂いています。

大学からは食道外来として、岩谷岳先生に月一回来て頂いております。週末の当直にも若い先生の応援を頂いております。

更に、ネットワークを利用した手術の遠隔指導を佐々木章教授から定期的に受けさせて頂いており、その的確な指導は自分たちの手術手技を見直す大事な機会となっております。

また、多くの症例について、大学医局のそれぞれの分野のスペシャリストの先生方にはことあるごとに治療の御依頼、御相談をさせて頂いております。いつも快く相談ののって頂き我々の診療にとって無くてはならない大きな支えとなっております。

他の病院の先生方に負けない様、地域住民の役にたてる様、これからも努力を継続していきたいと考えております。今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

朝晩の渋滞もあって高速道路の恩恵がもう一つの状況が続いている交通の便も、この2年程で高速道路が更に延伸して、改善(?)される見込みです。盛岡や他の地域の先生方との連携もより密にして、今後も頑張っていきたいと考えております。

世界遺産の橋野鉄鉱山や釜石大観音など見所も沢山ござ

います。皆様どうぞ釜石に足を伸ばしていらしてください。時間が有りましたら途中、瀧観洞にも是非お寄りください！

今津正志先生はこの春で

岩手での勤務を終えて、京都に帰られる予定です。震災後に困っている我々や住民のことを考え、はるか遠く言葉さえも不慣れな土地に来て頂きました。大変な苦勞と家族と離れて寂しい思いもされた中で、外科医としてはもちろん、釜石病院の主力、地域の中心の医師として5年間も大活躍して頂きました。別れはとても寂しいのですが、これまでの献身的な働きに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(佐藤 一)



【今津先生から同門の先生方へ】

震災の翌年からお世話になりました。心からお礼を申し上げます。

縁を得て釜石病院外科で働かせて頂きましたが、あっという間の5年間でした。

当院で共に汗を流した先生方はもちろんですが、診療応援をお引き頂いた岩手医大外科同門の先生方にもたくさん勉強させて頂きました。どれもが前任地では経験できぬ貴重な経験でした。

岩手で学んだことを、これからの外科医人生に役立てられるようにしたいと考えています。

感謝の気持ちとともに、岩手医科大学外科の先生方のご健勝をお祈り申し上げます。(今津正史)

Iwate Prefectural Miyako Hospital

岩手県立宮古病院

いつも大変お世話になっております。平成28年の宮古病院の主な出来事というと、8月30日の台風10号襲来でしょうか。宮古の街中が再び洪水(今回は海水でなく真水)に見舞われ、国道106号も通行不能になって宮古が一時的に陸の孤島になり、岩泉や久慈も多大な被害が出てしまいました。地震と違い、この地球温暖化に伴う異常気象??なのか、台風は毎年来るものであり、未恐ろしいものがあります。そんな



時もぐるっと遠回りして診療応援に来てくださった先生方におきましては、本当にありがとうございました。

さて、宮古病院外科の出来事というのは4月に久慈病院から藤社勉先生が転勤してきたことと、岩手医大呼吸器外科に入局予定の菅野紘暢先生が後期研修として宮古病院に残ってくれたことでした。なので、宮古病院外科のスタッフは、前年からひき続きの菅原俊道（51）副院長、石川徹（50）第1外科長、鴻巣正史（42）第2外科長の3名と、新入りの藤社勉（47）救急医療科長の4名に加えて、菅野紘暢先生が手伝ってくれる形でした。

そんな中で平成28年は年間359件（全身麻酔308件）、緊急手術は89件あり、他科の麻酔や緊急手術の自家麻酔が約120件ありました。件数は減少していますが、スタッフの高齢化に伴い、臨床業務以外のさまざまな病院の業務を担うことも多くなりました。

診療応援は、昨年に引き続き、火曜日午前中は野田芳範先生に外来を、火曜午後は北上済生会病院から細井信之先生に来ていただき手術応援、技術指導と大活躍してもらっています。火曜夜から水曜日は大学から天野総先生、また更に小松英明先生には月1回の乳腺外来を応援していただ

き、水野大先生には月1回の小児外科外来をお願いしております。その他にも不定期ですが同門の先生方には様々な場面で非常にお世話になっております。いつも本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最近の新アメリカ大統領にまつわるマスコミの報道を見ていると憂鬱になります。特にネット上に書き込まれる「フェイクニュース」には驚きました。うそのニュースを検証することなしに真に受けてしまう人は意外に多い気がします。それを利用して他人を貶めたり、自分に有利にすることなどあってはならないことです。せめて宮古病院外科では助け合いの精神を忘れずに、相手を尊重し、意見を出し合い、検証しながら粛々と日々の診療を続けていかなければと改めて思います。緩和医療や外来化学療法、感染対策など日常診療は複雑化の一途をたどっており、今後更に専門分化が進むものと予想されます。いよいよ平成29年度は新専門医制度の募集も開始されるのでしょうか。

つきましては、今後とも医局の先生方、各関連病院の先生方からのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

（文責：菅原俊道）

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

岩手県立大船渡病院

平成28年の外科スタッフは中野副院長を始めとして、外科長星田、鈴木、三田村、山田（以上東北2外科）、増子（岩手医）、緩和医療科長村上（同門）、そして宮古出身の前川（山形心外）が加わり8人体制です。なお、増子は茨城県常陸大宮市の奨学金養成医師で外科後期研修医として勤務しています。前川は主に救命救急センターを中心に診療し、手術は村上を除いた7人で実質的に行っています。

教室からは水野先生に月1回の小児外科の手術応援として来ていただいております。また、12月には私が赴任して初めて、鏡視下大腸手術の指導を目的に大塚先生に来ていただきました。今後も手術指導を目的に教室の先生方に来ていただきたいと考えています。

手術件数については震災後に徐々に低下していますが、昨年は病院全体で入院患者数が激減し、それに伴い手術件数も激減しました。ここ4年間で全身麻酔は100例、緊急手術は50例ほど少なくなっています（表）。おそらく、気仙地域の人口は公表された数字よりもかなり少ないこと等が原因と思われます。

当院は今年の3月から3年かけて総工費70億円の大改修工事を行います。手術室も6室から5室にして1室を広くしてハイスペックの手術室とする予定です。その際に、各

手術室に情報パネルを設置して、画像情報を保存も含め一元管理するために、画像統合システムを導入する計画を立てております。また、今年より県立中央病院と共に東北医科薬科大学医学部の学生研修施設となり、7月には1年次の学生が実習のために来院する予定です。今年度は医学生や研修医の研修施設として機能を充実させ、一方では鏡視下手術の充実を図りたいと考えています。これからも教室にはご指導、ご支援をお願いいたします。（文責：伊藤）

2016年全手術件数		
	全身麻酔	330
	腰椎・硬膜外麻酔	1
	局所麻酔・その他	79
	合計	410（緊急62）
内悪性腫瘍手術		
	甲状腺	1
	乳腺	25（全20、温5）
	食道	3（鏡視下1）
	胃	21（全4、幽15（鏡視下6）、噴1）
	膵臓	10（PD9、DP1）
	胆嚢	0
	肝臓	3
	結腸	36（鏡視下1）
	直腸	13（鏡視下0）
	その他	0
	合計	112

表. 岩手県立大船渡病院2016年手術件数

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

- ・スタッフ：細井信之 中屋 勉
- ・診療体制：月曜日 外来（細井） 午後手術（全麻）
手術応援（岩谷医師&小松医師）
火曜日 外来（斎藤元院長・中屋）
午後手術（局麻）
水曜日 外来（細井）小児外来（水野教授）
午後手術（全麻）
木曜日 外来（中屋）乳腺外来（小松医師）
午後手術（局麻）
金曜日 外来（細井or中屋）隔週
午後手術（全麻）
※小児外来は月1回 手術応援
小松医師（月）は不定期
- ・平成28年度の手術症例報告（1月～12月）
全手術症例数 166例
全身麻酔手術症例数 108例（腹腔鏡下手術 64例）

〔近況報告〕

- ・平成28年度4月より中屋医師赴任。細井、中屋の外科2人体制となりました。
- ・平成28年度4月より小松医師による乳腺外来開設。（毎週木曜日午前中）
- ・術中迅速病理診断を昨年度より再開し、今年度11例に乳がんセンチネルリンパ節生検を施行致しました。
- ・ふるだて肛門科外科クリニック 加藤典博先生にALTA療法を2症例に施行していただきました。御指導ありがとうございました。
- ・金曜日隔週の当直応援医師は引き続き遠藤医師にお願いしています。
- ・当科は鼠径ヘルニア症例にTAPP or Kugel法を選択し施行しています。（腹腔鏡下手術の殆どがヘルニア症例）
- ・平成28年度10月より消化器科医師1名が常勤医となり、今後消化器疾患手術症例が漸増するかもしれません。



Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

平成28年度の外科スタッフは、例年通り3人体制で行っています。院長の下沖収先生はそのまま留任となり、佐藤一先生（H2年卒）が県立釜石病院へ、斎藤匠先生（H22年卒）が自治医大へ異動され、釜石病院から小原真（H4年卒）と佐々木教之先生（H24年卒）が赴任しました。大学から定期的な応援をいただき、週1回の当直・外来診療を行っていたいております。これまでに眞壁健二先生、畑中智貴先生、二階春香先生、天野怜先生、高清水清治先生にご協力いただきました。また、木村祐輔教授には月1回の外来を担当していただいております。そのほか、県立病院の現役・OB院長先生方をはじめ、多くの先生方にお手伝いをいただいております。この場をお借りして感謝の言葉を述べさせていただきます。本場にありがとうございます。

千厩病院は148床のベッド数で、地域の一般診療、二次救急、外来透析など旧東磐井地域の中核的医療施設としての役割を担っています。しかし、医師



不足の問題は深刻で、常勤医5名（外科3名、消化器科1名、総合診療内科1名）と危機的な状態が続いています。その中の外科医師の役割は、通常の外科診療や手術のほかに、整形外科や泌尿器科などの患者対応も行っています。さらに平成28年度からは泌尿器科の常勤医師もいなくなったため、透析医療も外科が担当することになり、外科医の診療は多岐に渡っています。常に広い視野を持って診療にあたる必要があり、その目的を果たすため、4月より「総合診療外科」と標榜することになりました。これまでの外科疾患ばかりでなく、肺炎や心不全などの診療や老人医療なども手掛けています。これにより、外科の入院患者数・収益とも前年比で約30%増となっており、病院経営にも貢献しています。

全身麻酔手術件数も141件と昨年を上回る件数で推移しています。当院の特色として高齢者の比率が高く、周術期の全身管理などで苦慮すること多々ありますが、地域住民の健康を守るため、日々頑張っております。

今年度千厩病院では、地域包括ケア病床の立ち上げや電子カルテの導入など、大きな変革を迎えています。外科診療の充実

を図りつつ、質の高い医療を提供していくためには、医局の先生方のご協力が是非とも必要です。今後ご指導とご

支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(文責：小原 眞)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

今年度の診療体制に関しては特に大きな変化はなく、昨年と同様、菅野医師と共に診療をしております。菅野医師は当院3年目を迎え、今までの常勤応援で2番目の長さになり地域医療に貢献して頂いております。大学・近隣病院からも継続して応援を頂き診療できていますことをこの場をかりて感謝申し上げます。当院は高齢化の先端を行き、患者さんのみではなく、7名の常勤医師の平均年齢も50を既に越し、さらに歳を重ねながらそれぞれ当直、日々の診療を行っております。手術件数は昨年よりやや減少したものの、腹腔鏡下の手術件数に関しましては菅野医師の働きで維持しております。11月には東京でスタッフと共に昨年と同様アニマルラボでの腹腔鏡手術トレーニング研修を受けて参りました。更に、EMAROを使用した手術も体験し、当院のようなスタッフの少ない病院にとっては有用な機器であることを改めて実感させられました。ここ2、3年、奥州市における地域医療構想においては自院の役割を明確にし、その一端を担うべく検討しております。来る2025年に向けて病床の在り方を考えながら、病院、在宅、及び施設を含めた地域全体で高齢者を癒し・支えるという“地域完結型医療”にスムーズに転換できるように手術以外にも訪問診療・在宅での看取りも行っています。高齢者の増加と共に手術のやり方も以前に比べ変化してきており、余命を考えた手術法も選択しなければなりません。初診から終末期（ガンも含め）、さらには看取りまで行うのが地域病院の在り方と思っております。自ずと“終末期（人生の最終段階）”を含めた患者・家族の支えも必要となります。普段の暮らしの中で突然降りかかる病気や災害、確実にやってくる介護問題、その延長線上の死。どこまで延命処置を施されなければならないのか判らなくなっている時だからこそ、それにどう向き合い、どう振る舞うか…。いずれ必ず訪れる「死」について医療側も含め一般の方々にも啓発をおこなっているところです。29年度は平均年齢を下けている40代の消化器内科の医師が抜けることになり、常勤医師は6人となります。外科にとっても病院にとっても大き

な痛手であり、益々教室の先生方に支えてもらわなければなりません。真に申し訳ありませんが、この大変な状況をお汲み頂き応援の程、何卒宜しくお願いいたします。

堅苦しい文章になってしまいましたので、ここで話題提供させていただきます。昨年10月1日から「いわて国体・いわて大会」が開催されました。昭和45年の第25回の大会以来、46年振りの地元開催でした。東日本大震災後で開催が危ぶまれましたが知事の強い意向で『オール岩手で成功させよう』をスローガンに実現し、無事成功裏に終わりました。私は大会期間中、花巻市の田瀬湖で開催されたボート競技の審判員として参加させていただきました。国体の審判に参加することは初めてでありましたが、岩手県ボート協会の審判員をはじめ、全国からも審判員が集結し総勢40名で業務をこなしました。大会期間中は全て行動を共にするため一時大家族のような生活になります。1つの目標に皆が一斉に集い一致団結する姿勢は感動を覚えたものです。悪天候の中での試合でありましたが、決勝レースでの8杯レースは国体初であり、無事成功を収めたこと協会にとりましては嬉しいかぎりです。審判員としての活動はなかなか休日も会議・研修会・院長職等で時間をみつけるのは大変ではありますが、私にとってボート競技は心身共にリフレッシュできる貴重な機会になっています。ボートを通しての全国の人達との繋がりは視野を広げる場として収穫できるものが多く、組織のまとめ、チーム医療にも通じるものがあると感じています。私が生きている限りではこれが最初で最後の地元開催の国体になりましたが、3年半後に控えた東京オリンピックも含めこれからも可能な範囲で関わりを持っていきたいと思っています。

平成29年度は病院機能評価の更新、電子カルテ導入準備、地域包括ケア病床編成等で取り組むべきものが絶えることがありませんが、これからの高齢社会を支える地域医療の一端としてOnとOffの切り替えをしながら皆様の応援を頂き頑張っていきたいと思っております。



好天は1日だけでした。



国体初の8杯レース

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館市は人口約28万人の北海道第3番目の都市であり、近隣市町村を含めた函館市を含む南渡島医療圏は約38万人。実際は、札幌にまで行けない南檜山医療圏、北渡島檜山医療圏も含め、いわゆる日本地図でいう「北海道の持つところ」の道南医療圏から多くの患者様が当院へ受診・搬送されますので、実際は45万人程度の医療圏を函館市の病院で担当しております。当院は、がん拠点病院として、道南のがん診療の中核を担う施設であります。

当院外科は高金明典副院長、小林慎診療部長、船渡治外科科長、米澤仁志主任医長、大淵徹、菅野将史、松尾鉄平、武田大樹、安藤太郎の9人で外科診療にあたっております。毎日2列並列、場合によっては3列並行で手術を行っており、各スタッフは手術に助手に外来に病棟に…と多忙を極めておりますが、自分としては毎日の手術や患者様とのやり取りの中で常に新しい発見があり、忙しい中でも日々楽しく、勉強させていただいております。

2016年の外科手術総件数は1507件でありました（全身麻酔1304件、急患手術165件、腹腔鏡手術736件、食道癌24件、胃癌116件、大腸癌269件、肝胆膵81件、乳癌：155件、甲状腺癌11件）。これほど多くの症例を9人でこなせる秘訣として、ほとんどの疾患に対してクリニカルパスが作成され、なおかつ有効に活用されており、医師のみならず看護師や他の医療スタッフの仕事の能率アップに繋がっているからではないと日々感じております。手術手技の向上のみならず、環境を整えていくことも症例の維持には重要であると痛感しています。この症例数を維持し、なおかつ質の高い医療を提供できるよう、日々努めていきたいと思っております。

また、当科の手術件数こなしていく上で、臨床研修医の存在は欠かせません。当院は臨床研修病院として道内でも大変人気のある病院であり、2016年度は関連大学病院とのたすき掛けを含めて22名の研修医が当院に在籍しています。岩手医科大学を卒業されてから臨床研修病院として当院を希望していただけることも多くなり、近年では安藤太郎先生（H24卒）、畑中智貴先生（H26卒）が当院での研修を終え、外科医として当教室で活躍されております。研修病院でお悩みの学生さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一度当院の病院見学を勧めていただけると当院の研修医の気が伝わると思います。気軽にご連絡ください。外科研修も大変人気があり（?）、2016年度には13名の研修医に外科をローテーションしていただき、外科の一員として術前の診察、



診断から手術、術後の回診、創部処置など多岐にわたる外科診療に関わっていただきました（外科飲み会、忘年会出し物にも…）。また、虫垂炎や胆石症を中心に、執刀医も数多く経験していただき、手術の達成感、または難しさを体感していただいております。その中でも外科に興味がありそうな研修医には積極的な勧誘も行なっております。日々研修医同士相談し合い、話し合い、眠い目をこすりながら切磋琢磨している姿を見ると、自分の研修医時代が思い出され懐かしく思うと同時に、逆に教える立場になったのだと身が引き締まる思いです。

2016年度は、大学より水野大先生に毎月1回の小児外科外来と手術執刀、川岸涼子先生に毎月1回の乳腺専門外来応援を頂きました。大塚幸喜先生、新田浩幸先生には高難度な直腸症例、肝胆膵症例に対しまして手術応援をいただきました。岡田晋吾先生（北美原クリニック）には毎週1回のストーマ外来、早川善郎先生（北美原クリニック）には毎週1回の乳腺手術応援を頂きました。いずれも専門性の高い領域で悩む症例も多く、大変貴重な応援を頂きまして感謝申し上げます。また、函館市外科会では佐々木章教授に肥満手術に関するご講演を賜り、普段あまり目にする事のない肥満患者に対する外科治療に医師会でも驚きの声が上がっておりました。今後も医局、地域との連携を深めていきたいと思っております。

また、安藤太郎先生が日本外科学会専門医予備試験、松尾鉄平先生、武田が日本消化器外科学会消化器外科専門医にそれぞれ合格いたしました。多忙な中ではございますが、今後も協力し合いながら継続して各種資格の取得にも努力していこうと思います。

当科では各スタッフが専門領域を持って診療にあたる体制をとっております。

高金副院長は胃癌を中心に担当いただいております。教科書のような胃切除は健在で、私も多くの助手を経験させていただいたおかげで胃切除の手順は脳に強く強く刷り込まれております（いざ自分が実践するとこれが難しいのですが…）。

しかし、それでも私の開腹胃切除より早く終わってしまう腹腔鏡下胃切除術に加え、近年ではda vinci手術にも積極的に取り組まれており、現在までに14例の症例を経験されました（2017年2月2日現在）。最近どんどん手術時間も短くなっているように感じます。また、医師主導型臨床試験にも高金先生の指揮の下、外科全体で積極的に参加し、当院からのエビデンスの発信にも力を入れております。

小林診療部長は食道癌手術、甲状腺手術を中心に担当いただいております。他院で食道外科医が不在になり、当院での食道癌症例、手術件数は増加し、高難度の症例を多く担当いただくようになりました。小林先生には外科のみならず、当院の救急部門の立ち上げに尽力いただいております。システムの構築やドクターヘリへの参加など、先頭を切って活躍いただいております。救急現場では研修医と共に対応され、そのご指導もいただいております。直接の手術指導をいただける機会が減ってしまい、是非また自分の手術のご指導をお願いしたいと思っております。

船渡科長は肝胆膵領域、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術などを担当いただき、特に私たちの執刀する肝胆膵症例では常に前立ちいただき、ご指導をいただいております。今年度から科長に昇進され、肝胆膵領域に限らず、皆あまり気が進まない難渋しそうな症例も多く担当いただきました。日々病棟での師長、副師長とコミュニケーション（口論？）を忘れず、外科病棟全体を盛り上げるべく頑張っていたいております。

米澤先生には当院の乳腺外科を一手に引き受けていただいております。実は函館五稜郭病院の乳癌手術は道内でも5本の指に入る件数です。多くの手術の他、夕方遅くまで患者が溢れる外来やカンファレンス、カンサーボードなど、前任の早川善郎先生にもご協力をいただきながら、当院の乳腺外科を盛り上げていただいております。そんな多忙な仕事の後にも美味しいお店に飲みに行くのがストレスなく仕事をこなしていく秘訣なのでしょうか？

大淵先生にはラパロ手術、特にGISTや単孔式大腸手術や腹腔鏡下ヘルニア手術を多く担当していただいております。

ます。きれいな手術手技はもちろんのこと、計算された展開にはさすがと感心させられます。私や安藤先生、研修医など後輩の手術に数多く前立ちいただき、手術の御指導をいただいております。判断に迷う症例の相談にもよくのっけていただき、心強く頼れる存在です。

菅野先生には肝胆膵領域の手術を多く担当していただいております。日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度認定修練施設の認定に向け、船渡科長とともに日々高難度症例をこなされております。多くの患者数を抱えても常に冷静に、黙々と仕事をされ、その優しい対応は病棟スタッフからの信頼も厚く、ぜひ見習っていきたくと思っています。

松尾先生には腹腔鏡下大腸切除を担当いただいております。私の執刀にも多く前立ちいただき、大腸外科ならではのこだわり、場の展開の仕方など数多く御指導いただいております。最近は趣味（仕事？）の筋トレも順調で、そんなに鍛えてどこに向かっているのですか？と尋ねたら「家族を守るためだよ」と教えていただき、安心しました。

安藤先生は大学院卒業後、多くの初執刀、または第一助手を経験していただいております。前述の通り各スタッフが専門領域を直接指導するスタイルをとっており、1年間多忙な環境で鍛えられた安藤先生は1年前とは比べ物にならないほど成長が見られます。さらなる活躍を期待したいと思います。

私武田は、オールラウンドプレーヤー（？）として執刀、助手ともに修行中です。皆様が心配されます体重も、安心してください、無事維持できておりますよ。

2016年3月26日に北海道新幹線が開通し、盛岡－函館間は最速で2時間弱で結ばれるようになり、より医局とは身近になりました。今後も医局と連携をしながら質の高い医療を提供できるよう、また、各個人の資格取得などをサポートできるように協力していきたいと思っております。

（文責：武田大樹）

追伸：

昨年は北海道新幹線開通を記念いたしまして、医局ゴルフコンペを函館で初開催いたしました。あいにく天候に恵

まれず、小雨の中でのプレーとなりましたが、北海道の大自然を大いに楽しんでいただけたかと思います。是非また企画できたらと考えております。



ダビンチ手術



忘年会

Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

山本組合病院から能代厚生医療センターに改称され2年近くが経ちましたが、地域住民からは相変わらず「山組」と呼ばれており、中身も変化なくスタッフはどんどんベテランに、そんな状態が続いています。

2016年度の診療は、大山健一、加藤久仁之の2人の固定スタッフに加え、1年間の予定で佐藤慧が加わり3人体制で行っております。また、第1、3、4水曜日に、秋田赤十



字病院の稲葉亨先生に乳腺外来と乳腺症例の執刀にご助力いただいております。さらに大学から、腹腔鏡下脾摘術の執刀に佐々木章先生、肝胆膵症例の執刀に新田先生、長谷川先生にお越しいただいております。特に秋田県内では初めての腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術は新聞でも取り上げられ、秋田県内の他病院に劣らないクオリティーの高い医療を提供できていると考えております。

2016年度の手術件数は全身麻酔手術が346件、腹腔鏡下手術が251件で腹腔鏡下手術率は72.5%、腹部全身麻酔に限ると85.1%でした。緊急手術においても82.7%と積極的に腹腔鏡を用いております。2015年と比較して、手術件数は減少しておりますが腹腔鏡下手術率は上昇し、高い水準を維持しております。また、当院からの演題が2016年度の内視鏡外科学会の上級演題に2題採択され、さらに加藤が内視鏡外科学会雑誌の原著論文に投稿し、学術的な面でも積極的に取り組んでおります。

当院は3人体制で秋田県内の他病院に比較し絶対的に人手不足ですが、人数が少ないことを理由に縮小するのではなく、少ないからこそそのチャンスを生かして様々なことにチャレンジしております。内視鏡外科技術認定医2名で指導しており、多くのラパロ症例を経験できるので、認定医取得を目指す先生には魅力的な病院だと自負しております。地理的な人気の無さを補って余りあると考えておりますが...



Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

平成28年4月より9月までは当院外科スタッフは玉澤佳之、藤澤健太郎、御供真吾、野田宏伸、佐々木秀策の5人体制で診療にあたっておりました。10月からは佐々木から伊藤千絵に交代となっております。さらに毎週水曜日には有末篤弘先生の外来診療応援をいただき、同じく水曜日には種市病院の荒谷宗充先生、木曜日には名川町で開業の川守田究先生の手術応援をいただいております。

平成28年の手術は498例（全身麻酔手術404例）と若干の減少となってしまいましたが、手術の質は決して低下しないよ



う日々努力をしています。以下、各メンバーの近況です。
玉澤：副院長業務が急増。出張や医師会役員の業務に費やす時間が増えました。そのため、大好きなお酒や釣

りに出る回数は若干減少？

しかし、術者はもちろん、できるだけ若手の手術指導は継続。

藤澤：八戸在住6年。腹腔鏡手術が後進県の青森県で、おそらく県内初の内視鏡外科を標榜し、腹腔鏡下大腸切除についてイニシアチブが発揮できるよう模索中。また、院内緩和ケアチーム発足を実現でき、活動内容の充実のため右往左往しています。

御供：八戸在住5年。副部長として中間管理職の立場であり、任される仕事の量が増加。初診から多発転移のある癌症例などの対応が難しい症例もだいたい経験し、自らの実力アップとともに後輩の優しいお兄さん役として頼もしい存在。

野田：八戸在住2年。専門の胃癌治療について症例を積極的に経験。外科チームの雑学王であるとともに、救急センターに赴任していた頃の経験を活かし、外科チームの救急リーダーとして活躍。11月には重症の扁桃炎を発症。連日39℃から40℃の発熱が持続し、約10日間の入院を要しました。痩せました。

伊藤：学位論文が完成し、西塚先生のもとでの研究生生活が

終了して、臨床に戻ってきたばかりですが、リハビリとは全く程遠い活躍をしてくれています。久しぶりに術者として行った手術も非常によく対応できています。ストレス発散はネットショッピングですね。

当科週間スケジュールは以下に行っております。

月曜日 入院患者カンファランス

火曜日 消化器内科との合同カンファランス

水曜日 医局朝会、死亡症例報告

金曜日 外来患者カンファランス

その他、医療安全対策、化学療法委員会、緩和ケアチーム、NST、ICT、褥瘡対策など院内での当科に対する必要度が高く、役割分担しながら通常診療業務以外の業務も行っております。

以上、当科の近況報告です。今年も充実した医療を提供できるようスタッフ一同努力してまいります。よろしくお願いいたします。

写真は集合写真撮影日に野田が発熱で不在であったため、後日復帰後に一度引き締まった体が元に戻りつつある写真を単独で撮りました。

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

2016年4月よりかづの厚生病院外科は小川・片桐の新体制となり、早10ヵ月が経ちました。2人同時の交代ということもあり、当人および医療スタッフ双方に不安があったことかと思いますが、幸いにもお互い変化に柔軟な姿勢に恵まれ、要点を主張し合える信頼関係を築くことができました。新体制の立ち上がりは順調と言ってもよく、最良なシステム構築と新たな課題へ向かうための基盤を固めることができたのではないかと思います。毎週金曜日には花巻温泉病院から飯島先生に、毎週月曜日には2016年12月まで大学から瀬川先生、2017年1月より大学から天野（怜）先生に診療応援をいただいております、2人体制で患者数・手術件数とも増えつつある中であって誠に感謝申し上げます。

2016年春から、院内各科・各部署のスタッフと良好な関係を築き、かつ更に良い仕事をできる環境作りに注力しました。また、鹿角市内・近隣の医療圏の個人開業医の先生と積極的に交流を深めることで、紹介患者数の増加がみられました。当院は鹿角市以外にも大館市、小坂町、岩手県八幡平市（安代町）と非常に広域な医療圏をカバーしてお

り、最近では大館市立総合病院との症例のやりとりも増えつつあります。

2016年1月～12月の手術件数は248例（前年：198例）、うち全身麻酔181例（前

年：115例）となっており、更なる症例の増加が見込まれます。手術件数の増加に加え2016年4月からDPCを導入したこと、入院患者数で17.8%、外来患者数で2.3%の前年比増が得られたことなどが要因で、外科収入は前年比35.4%増収となり、病院全体の収益に大きく貢献できた1年でした。

鹿角の冬は例年に比べ雪が少ないようですが、それなりに雪もあり真冬日となるなど、北海道仕様の2名にとっては本領発揮のシーズンです。車で10分ほどの距離に花輪スキー場・水晶山スキー場と2つのスキー場があり、花輪スキー場は最大傾斜31度のため、頂上で病院から呼ばれても15分あれば対応可能という絶好の（？）ロケーションです。

最後に、当院外科へ医局員の診療応援を継続していただいております、佐々木教授・大学医局へ誠に感謝申し上げます。



2016年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
青森県立中央病院	藤 野 安 弘	030-8553	青森県	青森市	東造道2-1-1
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
赤坂医院	赤 坂 俊 幸	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	湯本29地割66-4
秋田赤十字病院	小棚木 均	010-1495	秋田県	秋田市	上北手猿田字苗代沢222-1
秋田組合総合病院（厚生連）	阿 部 栄 二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島西袋1-1-1
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	和 田 進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
あべ菜園内科クリニック	阿 部 弘 一	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園2-5-29
あべ整形外科医院	阿 部 克 久	020-0611	岩手県	滝沢市	巣子1156-22
飯島医院	飯 島 仁	020-0668	岩手県	滝沢市	鵜飼狐洞1-277
石井内科消化器科医院	石 井 基 弘	020-0112	岩手県	盛岡市	東緑が丘23-26
石田温泉病院(正恵会)	石 田 正 実	039-2221	青森県	上北郡おいらせ町	上前田21-1
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
一関病院	佐 藤 隆 次	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
岩手医大花巻温泉病院	一 戸 貞 文	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県立中央病院	望 月 泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立磐井病院	加 藤 博 孝	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立胆沢病院	勝 又 宇一郎	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立釜石病院	川 上 幹 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立久慈病院	吉 田 徹	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割 1 番
岩手県立宮古病院	村 上 晶 彦	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26
岩手県立大船渡病院	伊 藤 達 朗	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立遠野病院	郷右近 祐 司	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立一戸病院	小井田 潤 一	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	一戸字砂森60-1
岩手県立二戸病院	坂 本 隆	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立千厩病院	下 沖 収	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立大槌病院	岩 田 千 尋	028-1131	岩手県	上閉伊郡大槌町	大槌第13地割字八幡前129-11
岩手県立中部病院	遠 藤 秀 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立沼宮内地域診療センター	川 村 実	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
いわてリハビリテーションセンター	大 井 清 文	020-0503	岩手県	岩手郡雫石町	七ツ森16-243
植田医院	植 田 俊 郎	028-1112	岩手県	上閉伊郡大槌町	小槌23-23-1
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0633	岩手県	滝沢市	穴口183-3
内丸病院	富 澤 勇 貴	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7

あ

か

さ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
えいづか内科胃腸科クリニック	永 塚 健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
奥州病院	佐 藤 芳 邦	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-3-4
おおうち消化器科・内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
おばら内科・消化器科クリニック	小 原 啓 彦	025-0077	岩手県	花巻市	仲町5-8
開運橋消化器内科クリニック	遠 藤 昌 樹	020-0022	岩手県	盛岡市	大通り3-9-3
かさい睡眠呼吸器クリニック	笠 井 良 彦	024-0026	岩手県	北上市	堤ヶ丘1-9-32
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かねこ内科ディクリニック	金 子 能 人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-1-63
釜石ファミリークリニック	関 薫	026-0025	岩手県	釜石市	大渡町3丁目15番26号
金沢内科医院	金 沢 英 夫	027-0023	岩手県	宮古市	磯鶏沖15-20
北上済生会病院	佐 藤 智 彦	024-0035	岩手県	北上市	花園町1-6-8
くどう医院	工 藤 卓 次	020-0127	岩手県	盛岡市	前九年3-16-15
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
孝仁病院	白 木 豊	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
孝仁病院PET画像診断センター	村 田 雄 二	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
肥田胃腸科内科医院	肥 田 秀 彦	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46
国保西根病院	瀧 山 郁 雄	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国保種市病院	磯 崎 一 太	028-7914	岩手県	九戸郡洋野町	種市23-27-2
国立病院機構盛岡病院	菊 池 喜 博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂内科消化器科クリニック	小 坂 陽 一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
湖東総合病院（厚生連）	中 鉢 明 彦	018-1605	秋田県	南秋田郡八郎潟町	川崎字貝保37
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
さとう胃腸科内科	佐 藤 治	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野1-11-25
さとう内科クリニック	佐 藤 彰 宏	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4-28
さとう消化器科内科クリニック	佐 藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
さとう皮膚科クリニック	佐 藤 俊 樹	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3丁目11-33
佐藤内科クリニック	佐 藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤皮膚科医院	佐 藤 雅 子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-29-15

さ

た

な

は

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
小豆島胃腸科内科クリニック	小豆島 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
白沢整形外科医院	白 澤 榮 嗣	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘3-40-28
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
菅整形外科・皮膚科クリニック	菅 栄 一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1
鈴木こう門科クリニック	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
せいてつ記念病院	鈴 木 啓 之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
総合花巻病院	大 島 俊 克	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
奥州市総合水沢病院	半 井 潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0611	岩手県	滝沢市	菓子1186-14
滝沢中央病院	大川原 真 澄	020-0664	岩手県	滝沢市	鵜飼笹森42-2
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目4-19
たにむらクリニック	谷 村 清 明	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
町立西和賀さわうち病院	北 村 道 彦	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
塚谷医院	塚 谷 栄 紀	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	江刈内10-45-1
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内内科医院	栃 内 秀 貴	020-0084	岩手県	盛岡市	神明町10-35
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
十和田市立中央病院	松 野 正 紀	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
内科 板倉医院	板 倉 康太郎	023-0833	岩手県	奥州市	水沢区上姉体6丁目1-8
内科クリニックすずき	鈴 木 康 之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
中津川病院	松 嶋 大	020-0003	岩手県	盛岡市	下米内2-4-12
中村内科医院	中 村 義 明	020-0886	岩手県	盛岡市	若園町2-5
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
ナンブクリニック	陰 山 俊 之	039-0105	青森県	三戸郡南部町	大字沖田面字千刈47-1
西大通り耳鼻咽喉科医院	鈴 木 利 久	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り1-30-9
西松園内科医院	齊 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
二宮内科クリニック	二 宮 一 見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
二戸クリニック	青 木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野呂外科泌尿器科医院	野 呂 一 夫	023-0052	岩手県	奥州市	水沢区搦手丁24-6
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1

は

ま

や

ら

わ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
花巻市石鳥谷医療センター	似 内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目3番10号
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11地割-10-10
藤島内科医院	藤 島 敏 智	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町4-18
ふじまる内科医院	藤 丸 潔	026-0301	岩手県	釜石市	鵜住居町第5地割29-10
藤巻胃腸科内科クリニック	藤 巻 英 二	025-0016	岩手県	花巻市	高木15-16-1
ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加 藤 典 博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
本田胃腸科内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号
本荘第一病院	鈴 木 克 彦	015-8567	秋田県	由利本荘市	出戸町字岩渕下110
松園第一病院	河 嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
松園中央クリニック	阿 部 佳 子	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-37-10
三沢市立三沢病院	坂 田 優	033-0022	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65
三島内科医院	佐 藤 倫 郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
三田記念病院	矢 島 英 雄	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
緑が丘消化器内科医院	鈴 木 昇	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘3-2-34
南東北がん陽子線治療センター	菊 池 泰 裕	963-8052	福島県	郡山市	八山田 7 丁目172
未来の風せいわ病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1
盛岡赤十字病院	松 田 壯 正	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
盛岡つなぎ温泉病院	小 西 一 樹	020-0055	岩手県	盛岡市	繁字尾入野64-9
盛岡友愛病院	遠 藤 重 厚	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
守口医院	守 口 尚	028-0521	岩手県	遠野市	材木町2番25号
八角病院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木70-190
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0638	岩手県	滝沢市	土沢541
吉田消化器科内科	吉 田 俊 己	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
吉田内科呼吸器科医院	吉 田 雅 美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第21地割79-3
六角牛病院	林 重 仁	028-0502	岩手県	遠野市	青笹町中沢5-5-1
わたクリニック	渡 辺 淳 子	125-0054	東京都	葛飾区	柴又1-2-1 A R B I F
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 正 敏	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3
渡辺内科医院	渡 辺 立 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰下丸森122-3

1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Kume K, Ishida K, Ikeda M, Takemoto K, Shimura T, Young L, Nishizuka SS. Systematic Protein Level Regulation via Degradation Machinery Induced by Genotoxic Drugs. **J Proteome Res**, 2016 ; 15(1) : 205-215.
2. Sato K, Hachiya T, Iwaya T, Kume K, Matsuo T, Kawasaki K, Abiko Y, Akasaka R, Matsumoto T, Otsuka K, Nishizuka SS. Individualized Mutation Detection in Circulating Tumor DNA for Monitoring Colorectal Tumor Burden Using a Cancer-Associated Gene Sequencing Panel. **PLoS one**, 2016 ; 11(1).
3. Umemura A, Suto T, Sasaki A, Nitta H, Nakamura S, Endo F, Harada K, Ishida K. Pure Laparoscopic Left Hemihepatectomy for Hepatic Peribiliary Cysts with Biliary Intraepithelial Neoplasia. **Case Rep Surg**, 2016.
4. Uchi R, Takahashi Y, Niida A, Shimamura T, Hirata H, Sugimachi K, Sawada G, Iwaya T, Kurashige J, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Chiba K, Shiraishi Y, Nagae G, Yoshida K, Nagata Y, Haeno H, Yamamoto H, Ishii H, Doki Y, Iinuma H, Sasaki S, Nagayama S, Yamada K, Yachida S, Kato M, Shibata T, Oki E, Saeki H, Shirabe K, Oda Y, Maehara Y, Komune S, Mori M, Suzuki Y, Yamamoto K, Aburatani H, Ogawa S, Miyano S, Mimori K. Integrated Multiregional Analysis Proposing a New Model of Colorectal Cancer Evolution. **PLoS genetics**, 2016 ; 12(2) : e1005778. doi : 10.1371/journal.pgen.1005778.
5. Katagiri H, Kushida Y, Nojima M, Kuroda Y, Wakao S, Ishida K, Endo F, Kume K, Takahara T, Nitta H, Tsuda H, Dezawa M, Nishizuka SS. A Distinct Subpopulation of Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells, Muse Cells, Directly Commit to the Replacement of Liver Components. **Am J Transplant**, 2016 ; 16(2) : 468-483.
6. Nishizuka SS, Mills GB. New era of integrated cancer biomarker discovery using reverse-phase protein arrays. **Drug Metab Pharmacokinet**, 2016 ; 31(1) : 35-45.
7. Koeda K, Chiba T, Noda H, Nishinari Y, Segawa T, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Nitta H, Otsuka K, Sasaki A. Intracorporeal reconstruction after laparoscopic pylorus-preserving gastrectomy for middle-third early gastric cancer: a hybrid technique using linear stapler and manual suturing. **Langenbecks Arch Surg**, 2016 ; 397-402.
8. Sawada G, Niida A, Uchi R, Hirata H, Shimamura T, Suzuki Y, Shiraishi Y, Chiba K, Imoto S, Takahashi Y, Iwaya T, Sudo T, Hayashi T, Takai H, Kawasaki Y, Matsukawa T, Eguchi H, Sugimachi K, Tanaka F, Suzuki H, Yamamoto K, Ishii H, Shimizu M, Yamazaki H, Yamazaki M, Tachimori Y, Kajiyama Y, Natsugoe S, Fujita H, Mafune K, Tanaka Y, Kelsell DP, Scott CA, Tsuji S, Yachida S, Shibata T, Sugano S, Doki Y, Akiyama T, Aburatani H, Ogawa S, Miyano S, Mori M, Mimori K. Genomic Landscape of Esophageal Squamous Cell Carcinoma in a Japanese Population. **Gastroenterology**, 2016 ; 150(5) : 1171-1182.
9. Shioi Y, Sasaki A, Nitta H, Umemura A, Baba S, Iwaya T, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Kumagai K, Kamada T, Mukaida M, Okabayashi H. Two-stage surgery to repair a dissecting abdominal aortic aneurysm in a severely obese patient: Open bifurcated graft replacement after laparoscopic sleeve gastrectomy. **Asian J Endosc Surg**, 2016 ; 9(2) : 149-151.
10. Kume K, Ikeda M, Miura S, Ito K, Sato KA, Ohmori Y, Endo F, Katagiri H, Ishida K, Ito C, Iwaya T, Nishizuka SS. α -Amanitin Restrains Cancer Relapse from Drug-Tolerant Cell Subpopulations via TAF15. **Sci Rep**, 2016 ; 6(25895) : 1-15.
11. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Baba S, Takeda D, Makabe K, Wakabayashi G, Sasaki A. Safely extending the indications of laparoscopic liver resection: When should we start laparoscopic major hepatectomy? **Surg Endosc**, 2016 ; 309-316.
12. Otsuka K, Kimura T, Hakozaiki M, Yaegashi M, Matsuo T, Fujii H, Sato K, Hatanaka T, Sasaki A. Comparative benefits of laparoscopic surgery for colorectal cancer in octogenarians: a case-matched comparison of short- and long-term outcomes with middle-aged patients. **Surg Today**, 2016. Aug 26. [Epub ahead of print]
13. Umemura A, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Sasaki A. Current status of laparoscopic pancreaticoduodenectomy and pancreatectomy. **Asian J Surg**, 2016. Sep 26. [Epub ahead of print]
14. Yokobori Y, Suzuki S, Miyazaki T, Sohda M, Sakai M, Tanaka N, Ozawa D, Hara K, Honjo H, Altan B, Fukuchi M, Ishii H, Iwatsuki M, Sugimachi K, Sudo T, Iwaya T, Nishida N, Mimori K, Kuwano H, Mori M. Intestinal epithelial culture under an air-liquid interface: a tool for studying human and mouse esophagi. **Dis Esophagus**, 2016 ; 29(7) : 834-837.
15. Takahara T, Wakabayashi G, Konno H, Gotoh M, Yamaue H, Yanaga K, Fujimoto J, Kaneko H, Unno M, Endo I, Seto Y, Miyata H, Miyazaki M, Yamamoto M. Comparison of laparoscopic major hepatectomy with propensity score matched open cases from the National Clinical Database in Japan. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2016 ; 23(11) : 721-734.

1-2 和文論文

1. 加藤 久仁之, 道下 吉広, 大山 健一, 波多野 善明, 野澤 立, 石橋 正久, 近田 龍一郎, 佐々木 章. 急激な転帰をとった切除不能再発直腸癌に対する FOLFOX6+Panitumumab 療法施行中に生じた血栓性血小板減少性紫斑病の 1 例. **癌と化学療法**. 2016 ; 43(1) : 133-136.
2. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介. 最近の日本人の肥満症 - 新知見が拓くこれからの肥満症治療 - 外科療法. **CURRENT THERAPY**. 2016 ; 34(1) : 75-80.

3. 遠藤 史隆, 須藤 隆之, 梅邑 晃, 藤田 倫寛, 佐々木 章. 回腸導管傍ストーマヘルニアに対して腹腔鏡下 Sugarbaker 法を施行した 1 例. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(1): 77-84.
4. 須藤 隆之, 梅邑 晃, 中村 聖華, 遠藤 史隆, 佐々木 章. 成人片側性鼠径ヘルニアに対する direct Kugel 法と単孔式 transabdominal preperitoneal repair(TAPP) 法の短期治療成績の前向き比較研究. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(2): 183-191.
5. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐藤 慧, 佐々木 章. 進行横行結腸癌に対する腹腔鏡手術手技. **外科**. 2016; 78(3): 238-243.
6. 加藤 久仁之, 大山 健一, 石橋 正久, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院における絞扼性イレウスに対する腹腔鏡手術の検討. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(2): 171-175.
7. 小林 めぐみ, 水野 大. 幼児肝未分化胎児性肉腫の 1 例. **日本小児外科学会雑誌**. 2016; 52(2): 270-274.
8. 木村 祐輔, 堀口 真由子, 伊藤 薫樹, 杉山 徹. 緩和ケア・がん患者家族サロン・デイホスピス等の活動 E. 岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」. **ホスピス緩和ケア白書 2016**. 2016; 30-32.
9. 佐々木 章. 第 4 章治療と管理・指導 3 高度肥満症 6 外科療法. **肥満症診療ガイドライン 2016 編集 日本肥満学会 ライフサイエンス出版株式会社**. 2016; 1: 64-65.
10. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術. **消化器外科**. 2016; 39(7): 975-987.
11. 須藤 隆之, 梅邑 晃, 中村 聖華, 眞壁 健二, 遠藤 史隆, 原田 一穂, 新田 浩幸, 上杉 憲幸, 菅井 有. 胃原発 gastrointestinal stromal tumor 術後のイマチニブ部分耐性肝転移に対して肝切除術を施行した 1 例. **日本消化器外科学会雑誌**. 2016; 49(7): 617-624.
12. 中村 聖華, 須藤 隆之, 梅邑 晃, 天野 怜, 佐々木 章. 十二指腸狭窄症状で発見され単孔式腹腔鏡下 Ladd 手術を施行した腸回転異常症の 1 例. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(4): 435-440.
13. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 天野 怜, 武田 大樹, 佐々木 章. 腹腔鏡下切除術を施行した後腹膜原発 Muller 管嚢胞の 1 例. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(4): 455-460.
14. 佐藤 慧, 西塚 哲. ctDNA で大腸癌をモニタリングする! **実験医学**. 2016; 34(11): 1813-1820.
15. 有末 篤弘, 藤澤 健太郎, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. S-1+CDDP 併用術前化学療法で pathological complete response が得られた進行胃癌の 1 例. **日本化学療法学会雑誌**. 2016; 64(4): 663-667.
16. 馬場 誠朗, 佐々木 章. ここが違う! 開腹術と内視鏡外科手術. オペナージング. 2016; 31(8): 6-11.
17. 有末 篤弘, 藤澤 健太郎, 野田 宏伸, 御供 真吾, 玉澤 佳之. 術後 6 年目に骨転移が出現した直腸癌の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**. 2016; 77(7): 1753-1756.
18. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 遠藤 史隆, 木村 祐輔. トリクロサン配合縫合糸 (PDS PLUS) による真皮埋没縫合により手術部位感染は減少するか 腹部準清潔手術における比較臨床試験. **日本外科感染症学会雑誌**. 2016; 13(4): 265-270.
19. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大. 高度肥満症を伴う非アルコール性脂肪性肝炎に対する肥満外科手術の効果. **外科と代謝・栄養**. 2016; 50(4): 213-216.
20. 須藤 隆之, 梅邑 晃, 中村 聖華, 遠藤 史隆, 佐々木 章. 成人片側性鼠径ヘルニアに対する細径器具を使用した transabdominal preperitoneal repair(TAPP) 法と単孔式 TAPP 法の短期治療成績の前向き比較研究. **日本内視鏡外科学会雑誌**. 2016; 21(5): 511-519.
21. 安藤 太郎, 高原 武志, 長谷川 康, 新田 浩幸, 佐々木 章. ラット肝切除モデルにおける脾摘の門脈圧と肝再生に与える影響. **岩手医誌**. 2016; 68(4): 189-196.
22. 肥田 圭介, 佐々木 章. 手術の tips and pitfalls 腹腔鏡下幽門保存胃切除術. **日本外科学会雑誌**. 2016; 117(6): 539-542.
23. 川岸 涼子, 小林 慎, 早川 善郎, 米澤 仁志, 高金 明典, 佐々木 章. 乳癌多発骨転移に対する放射線療法後 4 年に遅発性放射線脊髄症をきたした 1 例. **岩手医学雑誌**. 2016; 68(5): 239-246.
24. 佐々木 章, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大. 肥満症例に対する腹腔鏡下脾臓摘出術. 手術. 2016; 70(13): 1679-1686.
25. 佐藤 慧, 加藤 久仁之, 大山 健一, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下切除を行った腸腰筋膿瘍合併盲腸癌の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**. 2016; 77(12): 2968-2973.

2. 著 書

1. 木村 祐輔, 堀口 真由子, 伊藤 薫樹, 杉山 徹. 緩和ケア・がん患者サロン・デイホスピス等の活動 E. 岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」. **ホスピス緩和ケア白書 2016**. 2016; 30-32.
2. 大塚 幸喜, 佐々木 章. 上行結腸癌に対する D3 郭清. **腹腔鏡下大腸癌手術の要点と盲点**. 2016; 2-9.

3. 学会発表

3-1 国際学会

Transplantation Science Symposium (TSS) Asian Regional Meeting 2016, Japan, 2016/04/08 ~ 04/09

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Katagiri H, Takeda D, Makabe K, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Liver transplantation for fulminant hepatitis by Budd-Chiari syndrome with myeloproliferative disorders: A Case Report and review of the literature. Poster Presentation.
2. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Katagiri H, Takeda D, Makabe K, Sasaki A. Hepatic artery reconstruction using interposition graft in living donor liver transplantation. Poster Presentation.

The 2016 Obesity Summit, London, 2016/04/12 ~ 04/14

1. Sasaki A, Otsuka K, Nitta H, Baba S, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Koeda K, Mizuno M, Ishigaki Y, Ishida K, Sugai T. Effect of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic steatohepatitis in Japanese patients with severe obesity. Poster Presentation.

American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016, New Orleans, 2016/04/16 ~ 04/20

1. Amano S, Takeshi Iwaya, Satoshi Nishizuka, Kohei Kume, Chie Ito, Yuji Akiyama, Yoshihiro Shioi, Fumitaka Endo, Akira Sasaki. Downregulation of TMPRSS11B in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Poster Presentation.
2. Iwaya T, Amano S, Endo F, Akiyama Y, Shioi Y, Kume K, Nishizuka S, Ito C, Sasaki A, Mimori K. Multiple genes on chromosome 17q25 were involved in sporadic esophageal squamous cell carcinoma development. Poster Presentation.
3. Nishizuka S, Ishida K, Ohmori Y, Kume K, Ito C, Konta A, Koizumi Y, Nukatsuka M, Kobunai T, Takechi T, Iwaya T. Inhibition of phosphatidylinositol 3-kinase suppresses propagation of drug-tolerant cancer cell subpopulations enriched by 5-fluorouracil. Poster Presentation.
4. Kume K, Ito K, Iwaya T, Nishizuka SS. TAF15 as an important mediator of RNA polymerase II-dependent drug tolerance. Poster Presentation.

International Society for Stem Cell Research, San Francisco, 2016/06/22 ~ 06/25

1. Nishizuka S, Katagiri H, Kushida Y, Takahara T, Nitta H, Dezawa M. Identification of a distinct subpopulation of bone marrow mesenchymal stem cells that directly contributes to liver regeneration. Poster Presentation.

The 41st Naito Conference, Sapporo, 2016/07/05 ~ 07/05

1. Kume K, Nishizuka S. α -Amanitin prevents stochastic emergence of drug-tolerant cancer cell subpopulations via TAF15. Poster Presentation.
2. Nishizuka S, Ishida K, Ito C, Nukatsuka M, Kobunai T, Takechi T, Kume K, Iwaya T. Inhibition of PI3K suppresses propagation of drug-tolerant gastric cancer cell subpopulations enriched by 5-FU. Poster Presentation.

International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists Continuing Medical Education: Advanced Post-Graduate Course in Sendai 2016, Sendai, 2016/08/03 ~ 08/03

1. Amano S, Takeshi Iwaya, Satoshi Nishizuka, Yuji Akiyama, Yoshihiro Shioi, Fumitaka Endo, Yusuke Kimura, Kohei Kume, Chie Ito, Akira Sasaki. TMPRSS11B is downregulated in Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Poster Presentation.
 2. Hasegawa Y, H. Nitta, T. Takahara, H. Itabashi, A. Umemura, K. Makabe, A. Sasaki. External validation of Ban' s difficulty scoring system for laparoscopic liver resection. Poster Presentation.
- * Sasaki A, . Bariatric. Moderator.

The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Waikiki, USA, 2016/09/09 ~ 09/10

1. Takahara T, Nakamura S, Hasegawa Y, Makabe K, Takeda D, Katagiri H, Itabashi H, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Otsuka K, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Establishment of a calculation method for standard splenic volume and use it in the evaluation of functional hepatic reserve. Symposium.
 2. Amano S, Nitta H, Takahara T, Hasegawa Y, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A. Neuroendocrine tumor of the common bile duct presenting as an extramural nodule: a case report. Poster Presentation.
 3. Hatanaka T, Sasaki A, Otsuka K, Takahara T, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Nitta H, Koeda K, Mizuno M. Perioperative management of bariatric surgery for severely obese patients. Poster Presentation.
- * Sasaki A. Symposium V . Gastroenterological Surgery. Moderator.

15th World Congress of Endoscopic Surgery, Suzhou, China, 2016/11/09 ~ 11/12

1. Koeda K, Chiba T, Nishinari Y, Sasaki A. Improvements of esophagogastrostomy after laparoscopic proximal gastrectomy for upper-third early gastric cancer. Oral Presentation.
- * Koeda K, . Upper GI VIII 3D and others. Chairman.

The first joint symposium of TEAMS (Three East Asian countries Metabolic Surgery), Korea, 2016/12/02 ~ 12/03

* Sasaki A, . Brief reports of academic studies from 3 countries. Chairman.

ESMO Asia 2016, シンガポール, 2016/12/16 ~ 12/19

1. Kimura T, Otsuka K, Hakozaki M, Yaegashi M. Exploratory study for preventing nausea and vomiting by switching from Granisetron + Dexamethasone (Days 1-3) + Aprepitant (Days 1-3) to Palonosetron + Dexamethasone (Day 1) in patients undergoing moderately emetogenic chemotherapy. Poster Presentation.

3-2 国内学会

第 43 回日本集中医学会学術集会, 神戸, 2016/02/11 ~ 02/14

1. 赤澤 里見, 小沢 由佳, 伊藤 富佐恵, 佐藤 美樹, 石森 由樹, 高橋 弘江, 秋山 有史. 食道癌患者における周術期サポートチーム (POST) 運用の効果. 一般口演.

第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 博多市, 2016/02/25 ~ 02/26

1. 佐藤 慧, 目黒 英二, 吉澤 恵子, 赤平 祐一, 高坂 久美子, 斉藤 理恵, 板野 亮子, 高金 明典. 当院の安全な中心静脈カテーテル留置のための医療体制—研修医へ向けた PICC 教育—. 要望演題.

第 6 回日本肥満症総合治療セミナー ~減量・糖尿病外科治療 チームビルディングを目指して~, 東京, 2016/2/28

1. 佐々木 章. 手術の実際 スリープ状胃切除術. 講演.
2. 佐々木 章. 肥満外科治療を通して新たに分かってきたこと ~臨床研究について~. 講演.

第 52 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2016/03/03 ~ 03/04

1. 石田 馨, 佐藤 寿穂, 吉田 宗平, 小鹿 雅博, 井上 義博, 佐々木 章. 絞扼性イレウスに対する治療と管理. ワークショップ.
2. 有末 篤弘, 野田 宏伸, 御供 真吾, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之. 腸管囊腫様気腫症の 3 例. 一般口演.
3. 馬場 誠朗, 亀山 哲章, 富田 真人, 三橋 宏章, 宮田 量平, 佐藤 道夫, 安藤 暢敏, 佐々木 章. 早期診断によって単孔式腹腔鏡下手術にて治療しえた魚骨による小腸穿孔性腹膜炎の 1 例. 一般口演.
4. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 天野 怜, 佐々木 章. 十二指腸狭窄症で発見され単孔式腹腔鏡下 Ladd 手術を施行した腸回転異常症の 1 例. 一般口演.
5. 遠藤 史隆, 須藤 隆之, 藤田 倫寛, 小鹿 雅博, 石田 馨, 新田 浩幸, 佐々木 章. 幽門輪温存脾頭十二指腸切除術後に胆嚢動脈仮性動脈瘤が再建空腸内に穿破した 1 例. 一般口演.
6. 箱崎 将規. 腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後の非外傷性腔穿孔による小腸脱出の 1 例. 一般口演.
7. 吉田 宗平. 上部消化管穿孔に対する治療. 一般口演.

* 佐々木 章. 要望演題 3 消化器癌術後合併症 (上部). 司会.

第 13 回 日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2016/3/5

1. 石田 和茂, 大槻 花恵, 松井 雄介, 川岸 涼子, 小松 英明, 川崎 朋範, 菅井 有, 柏葉 匡寛, 佐々木 章. 当科における術前 TAC 療法の検討. 一般口演.

第 88 回日本胃癌学会総会, 大分, 2016/03/17 ~ 03/19

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 佐々木 章. 併存疾患を有する胃癌患者に対する周術期管理の取り組み. 一般示説.
2. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 瀬川 武紀, 佐々木 章. 腹腔鏡下幽門保存胃切除術における幽門下静脈温存 No.6 リンパ節郭清. Video Presentation.
3. 西成 悠, 肥田 圭介, 瀬川 武紀, 石田 馨, 千葉 丈広, 秋山 有史, 佐々木 章. 再発胃 GIST イマチニブ著効例に対し手術を施行し長期寛解後イマチニブ中止にて経過観察を行っている 2 症例. 一般口演.

第 116 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2016/04/14 ~ 04/16

1. 大塚 幸喜. 次世代の内視鏡下直腸がん手術を牽引する二つのアプローチ. ランチョンセミナー.
2. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 塩井 義裕, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 水野 大, 佐々木 章. 当科における残胃癌の手術成績. 一般示説.
3. 佐藤 慧, 目黒 英二, 川岸 涼子, 菅野 将史, 大淵 徹, 船渡 治, 米澤 仁志, 小川 雅彰, 小林 慎, 高金 明典. 末梢挿入型中心静脈カテーテルを利用した当院の安全対策. Poster Presentation.
4. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 新田 浩幸, 安藤 太郎, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 長谷川 康, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 西島 嗣生, 櫻井 滋. 閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対する腹腔鏡下スリープ状胃切除術の効果. 一般示説.
5. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 瀬川 武紀, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 高度肥満患者に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の問題点と対策. ビデオ.
6. 秋山 有史, 岩谷 岳, 塩井 義裕, 遠藤 史隆, 千葉 丈広, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術成績. 一般口演.
7. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 真壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. LC を伴う肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の治療成績. 一般示説.

8. 小林 めぐみ, 水野 大, 伊勢 一哉, 木村 祐輔, 西塚 哲, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における先天性心疾患を合併した小児外科疾患児に対する治療 Treatment for Pediatric Surgery disease accompanied with congenital heart diseases in our hospital. Poster Presentation.
9. 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 遠藤 史隆, 木村 祐輔, 鴻巣 正史, 天野 総, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 進行食道癌に対する一次化学療法に関する検討. 一般示説.
10. 八重樫 瑞典. 当科における腹腔鏡下大腸癌手術における臍を用いた小切開法と SSI の検討. 一般口演.
11. 上嶋 徳, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 松尾 鉄平, 加藤 久仁之, 佐藤 慧, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡補助下大腸癌手術の効果的な教育システム. 一般口演.
12. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除の今後の展望と教育. 一般口演.
13. 西成 悠, 肥田 圭介, 瀬川 武紀, 石田 馨, 千葉 丈広, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 水野 大, 佐々木 章. 当院における腹腔鏡下噴門側胃切除術の短期術後評価の検討. 一般口演.
14. 瀬川 武紀, 肥田 圭介, 西成 悠, 千葉 丈広, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 胃切除後骨代謝障害に関する観察研究. 一般口演.
15. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 天野 総, 鴻巣 正史, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当科における食道癌肉腫症例の検討. 一般示説.
16. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 上嶋 徳, 八重樫 瑞典, 藤井 仁志, 松尾 鉄平, 加藤 久仁之, 佐藤 慧, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 水野 大, 佐々木 章. 当院におけるストーマ閉鎖術の手法と環状皮膚縫合の有用性. Poster Presentation.
17. 天野 総, 岩谷 岳, 西塚 哲, 伊藤 千絵, 秋山 有史, 塩井 義裕, 遠藤 史隆, 木村 祐輔, 鴻巣 正史, 杉立 彰夫, 伊勢 一哉, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 食道扁平上皮癌における Transmembrane Protease Serine 11B の発現異常. 一般口演.

第 53 回日本小児外科学会学術集会, 福岡市, 2016/05/24 ~ 05/26

1. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 章. 治療方針に苦慮している肝間葉性過誤腫の 1 例. 一般示説.
2. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘. 誰が診る. 一小児外科を離れない患者たち. 一般口演.
3. 小林 めぐみ, 水野 大. 小児外科領域で hanging maneuver を用いた肝切除術の経験 Hepatectomy of experience with hanging maneuver in pediatric surgery. Poster Presentation.

第 28 回日本内分分泌外科学会総会, 横浜, 2016/05/26 ~ 05/27

1. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 安藤 太郎, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. 内視鏡下甲状腺良性腫瘍切除術における保険収載後の課題と展望. シンポジウム.

第 20 回日本がん分子標的治療学会, 別府, 2016/05/30 ~ 06/01

- * 岩谷 岳. バイオマーカー. 座長.

第 28 回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 大阪, 2016/06/02 ~ 06/04

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 武田 大樹, 眞壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章. IVR 後肝腫瘍形成に関する検討. 一般口演.
 2. 眞壁 健二, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 馬場 誠朗, 武田 大樹, 安藤 太郎, 佐々木 章. 極めて稀な門脈分岐欠如の一例. 一般口演.
 3. 武田 大樹, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 片桐 弘勝, 眞壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章. 尾側膵切除後の食事摂取開始日が膵液瘻に及ぼす影響. 一般口演.
 4. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 眞壁 健二, 安藤 太郎, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における手技の定型化と機材の簡素化. ビデオセッション.
 5. 新田 浩幸. 腹腔鏡下肝切除術の安全な導入～私たちの取り組みから見てきたその秘訣～. ランチョンセミナー.
 6. 新田 浩幸. 保険収載された今～より安全な腹腔鏡下肝切除を目指して～. 一般口演.
 7. 高原 武志, 若林 剛, 宮田 裕章, 宮崎 勝. NCD データから Propensity matching を利用した腹腔鏡下 major 肝切除と開腹 major 肝切除の短期成績の比較試験. 一般口演.
 8. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 安全に行うための腹腔鏡下肝切除の手術手技. 教育ビデオ.
- * 新田 浩幸. 肝臓・悪性・手術 6. 座長.

第 41 回日本外科系連合学会学術集会, 大阪府大阪市, 2016/06/15 ~ 06/17

1. 新田 浩幸. 出血を制して腹腔鏡下肝切除を制す. スポンサービデオシンポジウム.
2. 新田 浩幸. ビデオセッション②. ビデオセッション.
3. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 瀬川 武紀, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章. こだわりの腹腔鏡下胃切除鏡視下再建法～Linear stapler と V-Loc を用いた消化管再建～. ワークショップ.
4. 天野 怜, 須藤 隆之, 梅邑 晃, 中村 聖華, 佐々木 章. 単孔式腹腔鏡補助下小腸切除術を施行した Meckel 憩室の一例. Poster Presentation.
5. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 遠藤 史隆, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. ビデオセッション 6. 一般口演.

第 68 回日本細胞生物学会大会・第 11 回年会日本ケミカルバイオロジー学会，京都，2016/06/15～06/17

1. 西塚 哲：がん研究における定量生物学：招待講演。

第 24 回 日本乳癌学会学術総会，東京，2016/06/16～06/18

1. 川岸 涼子，米澤 仁志，大淵 徹，高金 明典：当院での PET-CT による腋窩リンパ節の評価の検討。ポスター討議。
2. 小松 英明，細井 信之，石田 和之，菅井 有：完全切除に苦慮した葉状腫瘍の 1 例。一般示説。

第 20 回日本緩和医療学会学術大会，横浜，2016/06/18～06/20

1. 原田 昭子，佐々木 美加子，木村 祐輔：急性期病棟における緩和ケア勉強会実施の取り組み。一般示説。

第 25 回日本小児泌尿器科学会学術集会，京都，2016/06/28～06/30

1. 小林 めぐみ，水野 大，古川 ひろみ：消化管多発奇形を伴う CAKUT に対する手術戦略。Poster Presentation。

第 34 回日本肥満症治療学会学術集会，東京，2016/07/01～07/02

1. 馬場 誠朗，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，梅邑 晃，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，肥田 圭介，水野 大：インスリン治療を有する肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果。一般口演。
- * 佐々木 章：会長講演。司会。
- * 佐々木 章：理事長提言。司会。

第 70 回日本食道学会学術集会，東京，2016/07/04～07/06

1. 遠藤 史隆，岩谷 岳，秋山 有史，塩井 義裕，天野 総，木村 祐輔，佐々木 章：食道肺癒合併進行食道癌に対しバイパス手術が有効であった 1 例。一般示説。
2. 秋山 有史，岩谷 岳，遠藤 史隆，塩井 義裕，肥田 圭介，木村 祐輔，佐々木 章：食道癌に対する周術期の多職種チーム医療介入の成果。一般示説。

第 201 回日本消化器病学会東北支部例会，山形市，2016/7/8

1. 馬場 誠朗，佐々木 章，肥田 圭介，鳥谷 洋右，赤坂 理三郎，高原 武志，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，大塚 幸喜，新田 浩幸，水野 大，松本 主之：胃 GIST に対する reduced port による LECS の治療成績。シンポジウム。
2. 梅邑 晃，新田 浩幸，高原 武志，長谷川 康，佐々木 章：興味ある経過をたどった IPMN 症例。セミナー。

第 71 回日本消化器外科学会総会，徳島市，2016/07/14～07/16

1. 馬場 誠朗，佐々木 章，大塚 幸喜，新田 浩幸，安藤 太郎，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，肥田 圭介，水野 大：肥満 2 型糖尿病患者における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の医療費に対する効果。一般示説。
2. 西成 悠，肥田 圭介，瀬川 武紀，石田 馨，千葉 丈広，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章：当院における胃癌腹膜播種症例の検討（演題登録番号：3000991）。P1-23。
3. 岩谷 岳，秋山 有史，塩井 義裕，遠藤 史隆，木村 祐輔，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章：進行食道癌に対する導入 DCF 療法後治療に関する検討。一般示説。
4. 高原 武志，新田 浩幸，長谷川 康，真壁 健二，武田 大樹，梅邑 晃，片桐 弘勝，板橋 英教，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章：LC を伴う小型肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の治療成績。一般示説。
5. 肥田 圭介，千葉 丈広，西成 悠，瀬川 武紀，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章：胃上部早期胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除術の工夫～機能温存を求めた術式変遷～。Video Presentation。
6. 千葉 丈広，肥田 圭介，西成 悠，瀬川 武紀，秋山 有史，岩谷 岳，西塚 哲，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章：当科における高度進行胃癌に対する術前化学療法施行例の検討。一般示説。
7. 秋山 有史，岩谷 岳，遠藤 史隆，塩井 義裕，高原 武志，大塚 幸喜，新田 浩幸，肥田 圭介，木村 祐輔，佐々木 章：胸腔鏡下食道切除術における合併症軽減のための工夫。一般示説。
8. 新田 浩幸：A safe surgical technique for laparoscopic hemihepatectomy。シンポジウム。
9. 木村 聡元，大塚 幸喜，箱崎 将規，八重樫 瑞典：腹腔鏡下直腸癌手術における縫合不全予防に対する当科の取り組み。一般示説。
10. 大塚 幸喜，木村 聡元，箱崎 将規，八重樫 瑞典，松尾 鉄平，上嶋 恵，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，肥田 圭介，佐々木 章：Laparoscopic Surgery Education for Young Surgeons -Effect of Audio-Visual Education-。ワークショップ。
11. 八重樫 瑞典，大塚 幸喜，木村 聡元，箱崎 将規，上嶋 恵，藤井 仁志，松尾 鉄平，加藤 久仁之，秋山 有史，岩谷 岳，新田 浩幸，木村 祐輔，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章：腹腔鏡下結腸癌手術において漢方薬を組み入れた ERAS の導入。一般示説。
12. 畑中 智貴：術後 5 年経過後ポートサイト再発をきたした腹腔鏡下胆嚢摘出術後偶発胆嚢癌の 1 例。一般示説。
13. 瀬川 武紀，肥田 圭介，西成 悠，千葉 丈広，岩谷 岳，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，佐々木 章：胃癌に対する胃切除が術後骨代謝へ及ぼす影響に関する検討。一般口演。
14. 遠藤 史隆，岩谷 岳，秋山 有史，塩井 義裕，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，水野 大，佐々木 章：当院における ERAS に基づく胸部食道癌周術期管理。一般示説。
15. Satoshi Amano：高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討。医学生・初期臨床研修医優秀セッション。
16. 箱崎 将規，大塚 幸喜，木村 聡元，上嶋 恵，八重樫 瑞典，肥田 圭介，佐々木 章：大腸癌イレウスの治療戦略とその成績。Poster Presentation。

17. 天野 総, 岩谷 岳, 西塚 哲, 伊藤 千絵, 秋山 有史, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道扁平上皮癌発生に關与する候補遺伝子解析. Poster Presentation.
18. 有末 篤弘, 野田 宏伸, 御供 真吾, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之. 直腸癌術後 6 年目に骨転移が出現した 1 例. 一般示説.
19. 新田 浩幸. 肝胆膵: シミュレーション・モデュレーター.
 * 佐々木 章. シンポジウム 6 Metabolic Surgery の Orthodox & Serendipity. 座長.
 * 梅邑 晃. 虫垂炎・その他. 座長.

第 52 回日本移植学会総会, 東京都港区, 2016/09/29 ~ 10/01

1. 梅邑 晃, 滝川 康裕, 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 板橋 英教, 眞壁 健二, 片桐 弘勝, 佐々木 章. HBc 抗体陽性血友病関連 C 型肝炎患者に脳死肝移植を施行した 1 例. 一般口演.
- * 新田 浩幸. 肝移植 (手術手技). 座長.

第 75 回日本癌学会学術総会, 横浜, 2016/10/06 ~ 10/08

1. Iwaya T, Fumitaka Endo, Kohei Kume, Yasushi Sasaki, Takashi Tokino, Genta Sawada, Atsushi Niida, Koshi Mimori, Satoshi Nishizuka. Mutation detection by target sequence analyses using cancer-related gene panel in esophageal squamous cell carcinoma. 一般口演.
2. Nishizuka S, Sato K, Endo F, Iwaya T. Circulating tumor DNA for gastrointestinal cancer diagnosis. IS-7.
3. 久米浩平, 西塚 哲. Protein dynamics in response to genotoxic drugs regulated by proteasome system. インターナショナルセッション.
4. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 千葉 丈広, 八重樫 瑞典, 佐藤 慧, 久米 浩平, 西塚 哲. Evaluation of the utility of blood collection tubes for cell-free DNA research. 一般示説.

第 37 回日本肥満学会, 東京, 2016/10/07 ~ 10/08

- * 佐々木 章. シンポジウム 9 肥満外科治療の最前線. 座長.

第 54 回日本癌治療学会学術集会, 横浜市, 2016/10/20 ~ 10/22

1. Keisuke Koeda. Gastric cancer treatment guideline in Japan. Symposium.
2. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 稲葉 亨, 川崎 朋範, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における T-DM1 使用症例の検討. ワークショップ.
- * 肥田 圭介. ミニシンポジウム 26 胃がんにおける予後予測因子の探索. 座長.

第 64 回 日本職業・災害医学会学術大会, 仙台市, 2016/10/22 ~ 10/23

1. 木村 聡元. 直腸癌手術における早期離床をめざした工夫 ~手技から周術期管理まで~. ランチョンセミナー.

第 24 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2016), 神戸, 2016/11/03 ~ 11/06

1. 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. 高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術: 代謝手術としての効果と本邦における課題. パネルディスカッション.
2. 西成 悠, 肥田 圭介, 瀬川 武紀, 石田 馨, 千葉 丈広, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 当院における腹腔鏡下胃癌手術における ERAS の検討. 一般口演.
3. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 天野 怜, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術と細径 3 孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の向きき臨床研究, 外科医と患者にとって最善の選択はどちらか?. 外 P-234.
4. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 塩井 義裕, 千葉 丈広, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 当科にて外科的切除を施行した食道神経内分泌細胞癌 8 例の治療成績. 一般示説.
5. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. 肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果: インスリン治療例と非治療例との比較. 一般口演.
6. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 眞壁 健二, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術の手術難易度の検討. 一般口演.
7. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 天野 怜, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃切除における術後合併症の検討. デジタルポスター.
8. 佐藤 慧, 西塚 哲, 佐々木 章. Cancer panel を用いた Circulating tumor DNA (ctDNA) による体内腫瘍量の評価. ワークショップ.
9. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典. 当科における腹腔鏡下直腸癌手術に対するドレナージ法の検討. 一般示説.
10. 新田 浩幸. 最新の腹腔鏡下肝切除術—新しいデバイスの有用性—. ランチョンセミナー.
11. 大塚 幸喜. ~極 (きわめる) ~ 私達の腹腔鏡下大腸手術 Laparoscopic right-hemicolectomy. イブニングセミナー.
12. 瀬川武紀, 肥田 圭介, 西成 悠, 千葉 丈広, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. ESD 後非治癒切除例に対する追加切除例に関する検討. Poster Presentation.
13. 肥田 圭介. 進行胃癌治療の新展開~腹腔鏡下手術と補助化学療法~. イブニングセミナー.

第 39 回日本産婦人科手術学会, 仙台, 2016/11/12 ~ 11/13

1. 佐々木 章. 肥満患者に対する腹腔鏡下手術 ~肥満外科手術のエキスパートから学ぼう~. ランチョンセミナー.

第 71 回日本大腸肛門病学会学術集会, 伊勢, 2016/11/17 ~ 11/19

1. 上嶋 徳, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 松尾 鉄平, 菅井 有. 腹腔鏡下直腸癌手術における一時的双口式回腸ストーマの Outlet obstruction の検討. 一般口演.
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典. 当科における腹腔鏡下結腸癌手術に対する適応の検討. 一般口演.
3. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 恵, 松尾 鉄平, 藤井仁志, 佐藤 慧, 畑中 智貴. 可能な限り腹腔側からアプローチする 腹腔鏡下直腸癌手術. 一般口演.
4. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下直腸がん手術 ~究極の QOL 向上を目指して~ 縫合不全 0 を目指した 周術期管理と手術手技. ランチョンセミナー.

第 78 回日本臨床外科学会総会, 東京, 2016/11/24 ~ 11/26

1. 大塚 幸喜. 意外に難しい?! 腹腔鏡下の surgical trunk の郭清 超音波凝固切開装置だけで行う Surgical trunk 郭清. ランチョンセミナー.
2. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 馬場 誠朗, 富澤 勇貴, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科 および関連施設における鼠径ヘルニアに対する LPEC 法の適応. 一般口演.
3. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 畑中 智貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡 下肝切除における新しい難易度評価システム. シンポジウム.
4. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 瀬川 武紀, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 高度肥満患者に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の手術および周術期管理の工夫. ビデオシンポジウム.
5. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下系統的肝切除の安全な手術手技. 一般口演.
6. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 畑中 智貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科での HPD の治療成績と現在の方針 ~膵液漏発生頻度を PD 症例 (soft pancreas) と比較する~. シンポジウム.
7. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 恵, 三宅 孝典, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 「女性外科医が増える今~とともに働く環境作りのために~」女性医学生が増える今 - 消化器外科医としてとともに働く環境作りのために -. 特別企画.
8. 小松 英明, 石田 和茂, 川岸 涼子, 松井 雄介, 稲葉 亨, 上杉 憲幸, 石田 和之, 川崎 朋範, 菅井 有, 佐々木 章. 当科における術前化学療法後のセンチネルリンパ節生検の検討. 主題関連.
9. 畑中 智貴, 高原 武志, 安藤 太郎, 眞壁 健二, 武田 大樹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 馬場 誠朗, 長谷川 康, 新田 浩幸, 石田 和之, 佐々木 章. 術前 HCC との鑑別が困難であった Paraganglioma の一例. 一般示説.
10. 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 秋山 有史, 塩井 義裕, 高原 武志, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 当院における後期高齢者に対する食道癌の治療成績と超高齢者治療への可能性. 主題関連演題.
 - * 佐々木 章. シンポジウム 1. 司会.
 - * 肥田 圭介. 一般口演 超高齢者治療. 座長.
 - * 高原 武志. 一般口演 肝臓: 悪性疾患 3. 座長.
 - * 新田 浩幸. 一般口演 肝臓: 悪性疾患 4. 座長.

第 29 回日本外科感染症学会総会, 東京, 2016/11/30 ~ 12/01

1. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 遠藤 史隆, 藤原 久貴, 木村 祐輔, 佐々木 章. トリクロサン配合縫合糸 (PDS PLUS®) による真皮埋没縫合により手術部位感染は減少するか: 腹部準清潔手術における比較臨床試験. 一般口演.

第 29 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2016/12/08 ~ 12/10

1. 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 武田 大樹, 石橋 正久, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝右切除術の安全な手術手技. シンポジウム.
2. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. 肥満 2 型糖尿病に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の効果と今後の展望. ワークショップ.
3. 佐藤 慧, 加藤 久仁之, 大山 健一, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における腹腔鏡下空腸瘻造設術の経験. 要望演題.
4. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 塩井 義裕, 千葉 丈広, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 胸腔鏡下食道切除術における反回神経麻痺予防のための工夫と治療成績. ワークショップ.
5. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 天野 怜, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下幽門保存胃切除の長期成績に関する検討. 講演.
6. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典. 当科における進行横行・下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術の定型化. 一般口演.
7. 肥田 圭介, 千葉 丈広, 西成 悠, 瀬川 武紀, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃切除術における出血量軽減の工夫. 要望演題.
8. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 肋間ポートを使用しない S7/8 領域の腹腔鏡下肝切除術. パネルディスカッション.
9. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 小児胃食道逆流症に対する腹腔鏡下手術—症例に応じた半定型手術—. シンポジウム.
10. 小林 めぐみ, 水野 大, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 先天性横隔膜ヘルニア術後腸閉塞に対する腹腔鏡下手術 Laparoscopic surgery for congenital diaphragmatic hernia postoperative ileus. Poster Presentation.

11. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 板橋 英教, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章. 再肝切除における腹腔鏡下肝切除の位置づけ. 一般口演.
12. 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 恵, 三宅 孝典, 高清水 清治, 佐々木 章. 結腸癌に対する腹腔鏡下手術 腹腔鏡下結腸右半切除術. シンポジウム.
13. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 上嶋 徳, 松尾 鉄平, 藤井 仁志, 佐藤 慧, 畑中 智貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 当科での腹腔鏡下直腸癌手術の 縫合不全に対するリスク因子の検討. 一般口演.
14. 三宅 孝典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 直腸癌に対して腹腔鏡下ハルトマン術後に側方リンパ節郭清部に生じた内ヘルニアの 1 例. 一般口演.
15. 上嶋 徳, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 三宅 孝典, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章. 大腸憩室炎に対し腹腔鏡手術を施行した S 状結腸膀胱瘻の 4 例. 一般口演.
16. 西成 悠, 肥田 圭介, 天野 怜, 瀬川 武紀, 石田 馨, 千葉 丈広, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃切除術の肝圧排法における肝機能障害の検討. 一般口演.
17. 瀬川 武紀, 肥田 圭介, 天野 怜, 西成 悠, 千葉 丈広, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 高度進行胃癌に対する腹腔鏡下胃空腸バイパス術の検討. 一般口演.
18. 畑中 智貴, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 秋山 有史, 岩谷 岳, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝原発血管筋脂肪腫に対して腹腔鏡下肝左葉切除を施行した 1 例. 一般示説.
19. 遠藤 史隆, 秋山 有史, 岩谷 岳, 塩井 義裕, 高原 武志, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 胸腔鏡下食道切除術後に発生した横隔膜ヘルニアに対して腹腔鏡下ヘルニア根治術を施行した 1 例. 一般示説.
20. 天野 怜, 石田 馨, 佐藤 寿穂, 小鹿 雅博, 井上 義博, 佐々木 章. 上部消化管穿孔における治療. 要望演題.
21. 箱崎 将規. 当科での腹腔鏡下大腸癌手術におけるエネルギーデバイスの使い方. 一般口演.
22. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 藤原 久貴, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 高原 武志, 木村 祐輔, 佐々木 章. Single-incision plus one puncture laparoscopic rectopexy for fullthickness rectal prolapse. 一般口演.
- * 新田 浩幸. デジタルポスター 3 肝 肝頭背側・尾状葉病変. 司会.
- * 佐々木 章. 要望演題 3 スリーブ状胃切除術の手法とピットフォール. 司会.
- * 佐々木 章. シンポジウム 15 チームで守るセーフティマネジメント. 司会.
- * 梅邑 晃. デジタルポスター 44 肥満代謝. 司会.

第 138 回日本小児科学会岩手地方会, 岩手県盛岡市, 2016/12/10

1. 有末 篤弘, 水野 大, 畑中 智貴, 佐々木 章. 胎生期に発見された腹腔内停留精巣原発成熟奇形腫の 1 例. 一般口演.

第 58 回小児血液・がん学会学術集会, 東京都港区, 2016/12/15 ~ 12/17

1. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ. 双生児発症の肝芽腫. 一般示説.

3-3 研究会・セミナー等

第 5 回岩手呼吸リハビリテーションセミナー, 盛岡, 2016/2/7

1. 秋山 有史. 外科における ICU での集中治療・管理. セミナー.

第 21 回 千葉内視鏡外科研究会, 千葉, 2016/2/13

1. 大塚 幸喜. 大腸癌の腹腔鏡手術 - 技術認定医試験合格のコツと安全性への取り組み -. 特別講演.

岩手医科大学 腹腔鏡下ヘルニアセミナー, 盛岡, 2016/3/5

- * 佐々木 章. 教育講演. 座長.

第 30 回東北ストーマリハビリテーション研究会, 盛岡市, 2016/3/12

- * 木村 聡元. 手術・合併症. 座長.

第 18 回外科分子細胞治療研究会, 大阪市, 2016/4/14

1. 佐藤 慧, 西塚 哲, 岩谷 岳, 佐々木 章. Liquid Biopsy: Cancer panel を用いた ctDNA による体内腫瘍量のモニタリング. 施設研究内容紹介 (抄録のみ).

第 23 回 いわて乳腺疾患フォーラム, 盛岡, 2016/4/23

1. 石田 和茂, 川崎 朋範. 組織診断と画像所見の乖離によって最終診断に難渋した 1 例. 一般口演.

NGS 現場の会 血液拡散マーカー分科会 第 2 回研究会, 東京, 2016/5/10

1. 西塚 哲. ctDNA による大腸癌患者体内腫瘍量モニタリング. 招待講演.

第 27 回内視鏡外科フォーラム東北 in 盛岡, 盛岡, 2016/5/21

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 遠藤 史隆, 塩井 義裕, 千葉 丈広, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手法と治療成績. 一般口演.

2. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 安藤 太郎, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. 甲状腺良性疾患に対する内視鏡下甲状腺切除術の治療成績. 一般口演.
3. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 秋山 有史, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 腹腔鏡下胃切除術における技術認定取得へ向けた手技の工夫と pitfall. 一般口演.
4. 有末 篤弘, 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 章. 当院小児外科における鼠径ヘルニアに対する単孔式 LPEC 法. 一般口演.
5. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 中村 聖華, 藤原 久貴, 佐々木 章. Reduced port surgery の試みとして 3 孔式腹腔鏡下総胆管結石手術を施行した 1 例. 一般口演.
6. 小林 めぐみ, 水野 大. 小児に対する腹腔鏡下脾摘術. 一般口演.
- * 肥田 圭介. 腹腔鏡下胃切除術のあれこれ. 司会.
- * 木村 聡元. 大腸 -2: 手技. 座長.
- * 小林 めぐみ, 梅澤 昭子. その他. 座長.

第 70 回 手術手技研究会, 品川, 2016/5/21

1. 大塚 幸喜. デバイスの選択と使用法: 切除と再建 腹腔鏡下直腸癌手術の切除と再建. 特別講演.
2. 新田 浩幸. THUNDERBEAT と ESG-400 を用いた腹腔鏡下肝切除術. アフタヌーンセミナー.

第 25 回日本癌病態治療研究会, 千葉, 2016/06/08 ~ 06/09

1. 大塚 幸喜. 進行大腸がんに対する合併症軽減の為に戦略 - 腹腔鏡下直腸癌手術の周術期管理から手技まで -. ランチョンセミナー.

第 26 回 岩手漢方臨床研究会, 盛岡, 2016/6/9

1. 天野 怜, 肥田 圭介. 高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討. 一般口演.
- * 新田 浩幸. 高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討. 座長.

第 38 回日本癌局所療法研究会, 新宿, 2016/6/10

- * 大塚 幸喜. 一般演題 3 胃. 座長.

第 3 回近畿肥満外科治療研究会, 京都, 2016/6/11

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療 ~多職種連携とわが国からのエビデンス発信を目指して~. 特別講演.

第 28 回大分内視鏡外科研究会, 大分, 2016/6/18

1. 佐々木 章. 肥満外科手術が代謝に及ぼす影響: エビデンスとトピックス. 特別講演.

第 8 回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡, 2016/6/21

- * 佐々木 章. 特別講演 肥満症に対する外科治療 - グレリンとの関係性 -. 座長.

The 5th SUMMER SEMINAR in OKINAWA, 沖縄県沖縄市, 2016/06/24 ~ 06/25

1. NittaH, TakaharaT, HasegawaY, ItabashiH, KatagiriH, TakedaD, MakabeK. A safe surgical technique for laparoscopic liver resection. 一般口演.

第 34 回山形外科談話会, 山形, 2016/6/25

1. 佐々木 章. 代謝手術としての腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の可能性と臨床研究. 特別講演.

第 85 回 大腸癌研究会, 大阪市, 2016/06/30 ~ 07/01

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典. 当科における腹腔鏡下結腸癌手術に対する適応と実際. 一般示説.

第 5 回東北食道外科セミナー, 東京, 2016/7/4

1. 秋山 有史. 食道手術の偶発症と対応策 ~より安全な手技の共有~. セミナー.

第 34 回 日本肝移植研究会, 旭川, 2016/07/07 ~ 07/08

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 梅邑 晃, 武田 大樹, 真壁 健二, 佐々木 章. 成人生体肝移植における術前予測グラフト容積と実重量の関係. 一般口演.
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 真壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 島津 元秀, 佐々木 章. 術前門脈気腫を併発した多発肝嚢胞・腎嚢胞に対して生体肝移植を施行した 1 例. ビデオシンポジウム.

第 24 回中国四国消化管内視鏡手術勉強会, 広島市, 2016/7/8

1. 肥田 圭介. Advantage を目指した腹腔鏡下胃切除術. 招待講演.

第 13 回 DIC 研究会, 盛岡, 2016/7/29

1. 佐々木 章. 一般演題 2. コメンテーター.

第 11 回福島県緩和医療研究会, 郡山, 2016/7/30

1. 木村 祐輔. がん治療と平行して行う緩和ケア. 招待講演.

5th Reduced Port Surgery Forum 2016 in Osaka, 大阪市, 2016/08/05 ~ 08/06

1. 水野 大, 小林 めぐみ, 有末 篤弘, 佐々木 章. 小児の Redused Port Surgery を変えた & 変えるデバイス. パネルディスカッション.

2. 小林 めぐみ, 水野 大, 佐々木 章. 小児腹腔鏡下脾摘術に対する reduced port surgery. パネルディスカッション.

日本肥満学会主催 第 14 回肥満症サマーセミナー, 盛岡, 2016/8/7

1. 佐々木 章. 日常から始める肥満症治療 外科治療. スポンサーワークショップ.

第 13 回岩手甲状腺研究会, 盛岡, 2016/8/20

- * 佐々木 章. 特別講演 進行甲状腺癌に対する治療戦略. 座長.

3rd Lap Colorectal Advanced Seminar, 札幌, 2016/8/20

1. 木村 聡元. 進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術. セミナー.

第 25 回中国四国消化管内視鏡手術勉強会, 高松, 2016/9/1

1. 大塚 幸喜. エキスパートに学ぶ郭清・再建のコツ 腹腔鏡下直腸癌手術の郭清と再建. 特別講演.

第 1 回腹腔鏡下肥満・糖尿病外科手術講習会, 静岡, 2016/09/02 ~ 09/03

1. 佐々木 章. 肥満外科手術の注意点 ~ トロッカー挿入や自動縫合器選択など ~. 特別講演.

第 42 回東北小児外科研究会, 山形県上市市, 2016/9/9

1. 有末 篤弘, 水野 大, 天野 怜. 尖圭コンジローマの 1 幼児例. 一般口演.

第 172 回東北外科集談会, 山形, 2016/9/10

1. 瀬川 武紀, 肥田 圭介, 天野 怜, 西成 悠, 千葉 丈広, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章. 術前診断が困難であった十二指腸球部腫瘍の 1 例. 一般口演.
* 木村 聡元. 大腸 1. 座長.

第 10 回北東北 LAC 情報交換会, 盛岡, 2016/9/17

1. 八重樫 瑞典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 三宅 孝典, 佐々木 章. 内視鏡外科技術認定取得にむけて 下部消化管チームの教育法 ~ 私の取り組みとその成果 ~. 一般口演.
* 佐々木 章. 特別講演 大腸癌に対する腹腔鏡手術: 定型化による安全性の確立とその先の最新手術. 座長.
* 木村 聡元. 内視鏡外科技術認定医取得に向けて. 座長.

第 11 回肝癌治療シミュレーション研究会, 大阪府大阪市, 2016/9/17

1. 新田 浩幸. 岩手医科大学における腹腔鏡下系統的肝切除の手術手技. ランチョンセミナー.

第 9 回いわて外科侵襲フォーラム, 盛岡, 2016/9/23

1. 秋山 有史, 岩谷 岳, 熊谷 基, 遠藤 史隆, 塩井 義裕, 高原 武志, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 木村 祐輔, 鈴木 健二, 佐々木 章. 食道癌手術における多職種チーム介入による ERAS 導入効果. 一般口演.

肥満・糖尿病外科手術セミナー, 東京, 2016/9/24

- * 佐々木 章. 中高度肥満における外科治療~手術手技を中心に. 司会.

第 6 回みちのく LAG セミナー, 盛岡, 2016/10/1

- * 佐々木 章. こだわり外科医の内視鏡外科手術. 座長.

第 21 回 近畿内視鏡下大腸手術研究会, 大阪, 2016/10/1

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 - 周術期管理から実際の手技まで -. 講演.

第 1 回南大阪肝胆膵内視鏡外科研究会, 大阪府堺市, 2016/10/1

1. 新田 浩幸. 安全な腹腔鏡下肝切除の普及を目指して. 一般口演.

第 14 回 宮崎内視鏡外科研究会, 宮崎, 2016/10/7

1. 大塚 幸喜. S 状結腸癌・直腸癌に対する腹腔鏡手術 一技術認定医取得に向けて一. 一般口演.

第 4 回九州肝胆膵手術手技研究会, 福岡県福岡市, 2016/10/8

1. 新田 浩幸. ビデオクリニック『腹腔鏡下肝切除術』. 一般口演.

秋田胃癌の会, 秋田市, 2016/10/14

1. 肥田 圭介. 胃癌化学療法の実況と展望. 招待講演.

第 2 回北海道肥満・糖尿病外科治療セミナー, 札幌, 2016/10/14

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療 ~ チームビルディングを目指して ~. 特別講演.

第 10 回 次世代の内視鏡下消化管手術セミナー, 大阪, 2016/10/15

1. 大塚 幸喜. Getting back to basics in laparoscopic rectal cancer surgery - Stealing tricks from the masters -. 講演.

いわて肝胆膵内視鏡手術セミナー, 盛岡, 2016/10/21

- * 佐々木 章. 腹腔鏡下膵切除術の標準化に向けた取り組みについて. 座長.

第 46 回 胃外科・術後障害研究会, 米子, 2016/10/27 ~ 10/28

1. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 瀬川 武紀, 天野 怜, 佐々木 章. 当科における高齢者に対する腹腔鏡下胃切除症例の検討. 一般口演.

第 2 回東北肥満・糖尿病チーム医療セミナー, 仙台, 2016/10/29

1. 佐々木 章. コーチング / チーム医療. シンポジウム.

第 29 回東北膵・胆道癌研究会, 仙台, 2016/10/29

1. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 高原 武志, 長谷川 康, 板橋 英教, 眞壁 健二, 二階 春香, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 岩谷 岳, 秋山 有史, 水野 大, 木村 祐輔, 佐々木 章. 当科における肝内胆管癌の予後因子に関する後方視的研究. 一般口演.

第 11 回岩手骨盤外科研究会, 盛岡, 2016/11/11

1. 三宅 孝典, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 箱崎 将規, 八重樫 瑞典, 上嶋 徳, 高清水 清治, 佐々木 章. 腹腔鏡下側方リンパ節郭清後に生じた内ヘルニアの 1 例. 一般口演.

* 佐々木 章. 一般演題. 座長.

第 12 回いわて肝胆膵移植適応研究会, 盛岡, 2016/11/18

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 長谷川 康, 眞壁 健二, 武田 大樹, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 板橋 英教, 佐々木 章. 多発・巨大肝嚢胞による肝腎不全に対して生体肝移植を施行した 1 例. 一般口演.

* 佐々木 章. 特別講演 西崕における臓器提供と肝移植. 座長.

第 9 回日本ヘルニア学会北海道支部総会, 函館, 2016/11/19

1. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 松井 雄介, 川岸 涼子, 有末 篤弘, 高原 武志, 秋山 有史, 岩谷 岳, 西塚 哲, 肥田 圭介, 水野 大. TEP で修復した術前診断に苦慮した両側大腿ヘルニアの 1 例. 一般口演.

第 31 回秋田県周産期・新生児医療研究会, 秋田市, 2016/11/19

1. 水野 大. 岩手における新生児外科医療の現状. 特別講演.

第 10 回肝臓内視鏡外科研究会, 東京, 2016/11/23

1. 長谷川 康, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 梅邑 晃, 眞壁 健二, 佐々木 章. 腹腔鏡下肝切除術における適応拡大の指標. 全員討論会.
2. 新田 浩幸. 腹腔鏡下肝切除の手術手技～基本こそ安心・安全な手術への近道～. ランチョンセミナー.

第 26 回 外科漢方フォーラム学術集会, 東京, 2016/11/25

1. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 箱崎将規, 八重樫瑞徳. 腹腔鏡下結腸癌手術に対する漢方薬を用いた術前処置の検討. シンポジウム.

第 28 回盛南地区医療講演会, 盛岡, 2016/11/28

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対するメタボリックサージェリー. 特別講演.

第 10 回日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会, 横浜, 2016/12/7

1. 佐々木 章. 腹腔鏡下肥満外科手術の各術式の合併症と長期成績. 基調講演.

第 31 回東北静脈経腸栄養研究会, 仙台, 2016/12/17

- * 佐々木 章. 一般演題Ⅵ 周術期管理 1. 座長.

4. 講演会

第 9 回ぐんま消化管フォーラム, 前橋市, 2016/1/22

1. 肥田 圭介. 消化器外科領域における漢方薬の有用性. 講演.

LAP Colorectal Advance seminar, 大阪, 2016/1/23

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下低位前方切除 一男性 小太り 狭骨盤一. 講演.

鳥取大学医学部附属病院がんセンター市民公開講座, 米子市, 2016/1/24

1. 木村 祐輔. がん治療の進歩は何を変えるのか「緩和ケア」. 講演.

第 14 回 大腸疾患外科治療研究会, 沖縄, 2016/1/30

1. 大塚 幸喜. 直腸癌に対する個別化手術 一基本手術から適応拡大まで一. 講演.

第 5 回栃木緩和外科サミット ～がん疼痛治療の新しい展開～, 宇都宮, 2016/2/4

1. 木村 祐輔. 外科医が行う緩和ケア. 特別講演.

Gastric Cancer Expert Meeting in Yonago, 米子, 2016/2/5

1. 西塚 哲. 5-FU の歴史と基礎データ. セミナー.

第2回 地域医療連携講演会, 盛岡市, 2016/2/17

1. 木村 聡元. 抗凝固療法施行患者 における問題点 ～ 外科の立場から ～. 講演.

第450回 戸外科集談会, 八戸, 2016/2/18

1. 木村 祐輔. 外科医が行う緩和ケア. 特別講演.

Gastric Cancer Treatment Conference in Iwate, 盛岡, 2016/2/26

1. 千葉 丈広, 瀬川 武紀, 西成 悠, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当科における胃癌に対するサイラムザの使用経験. 講演.

天心堂へつぎ病院 第2回緩和ケア講演会, 大分, 2016/3/4

1. 木村 祐輔. 緩和ケアに関する最近の話題. 特別講演.

平成27年度 釜石医師会学術講演会 緩和医療講習会, 釜石, 2016/3/10

1. 木村 祐輔. 緩和ケア ―最近の話題―. 特別講演.

第28回 高知手術手技研究会, 高知, 2016/3/19

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにより上手になるか、いかに上手にするか. 講演.

大坂医科大学附属病院 第11回がんセンター先端医療開発部門(消化器外科)講演会, 大坂, 2016/5/12

1. 佐々 木章. 肥満患者に対するがん手術の注意点と工夫. 特別講演.

第2回 琉球ラパロの会, 沖縄, 2016/5/14

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにより上手になるか、いかに上手にするか. 講演.

函館市外科会学術集会, 函館, 2016/5/27

1. 佐々木 章. 糖尿病手術: エビデンスとトピックス. 特別講演.

岩手県臨床内科医会総会・講演会, 盛岡, 2016/5/28

1. 木村 祐輔. 緩和ケア 最近の話題. 講演.

県民プラザ トークショー がんと認知症を知る, 盛岡, 2016/6/4

1. 木村 祐輔. 最近の緩和ケアが目指すもの. 基調講演.

2nd Lap Colorectal Advance Seminar, 大阪, 2016/6/11

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下結腸右半切除. 講演.

第11回 中越内視鏡外科研究会, 長岡, 2016/6/24

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸切除における定型化の重要性 ― 横行・下行結腸を中心に ―. 講演.

会津若松消化器癌セミナー, 会津, 2016/8/5

1. 大塚 幸喜. 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術 ― JCOG 0404 から見てきたこと ―. 講演.

北海道大学第二外科内視鏡認定医セミナー, 札幌, 2016/8/21

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下大腸癌手術 いかにより上手になるか、いかに上手にするか. 講演.

第5回青森消化器がん SUMMIT, 弘前, 2016/9/5

1. 木村 祐輔. 消化器外科医がリーダーを務める 緩和ケアチームの歩み - 岩手医科大学附属病院 緩和ケアチーム 9年の活動から -. 招待講演.

第22回 神奈川大腸肛門手術手技研究会, 横浜, 2016/9/16

1. 大塚 幸喜. 腹腔鏡下低位前方切除の合併症軽減のための戦略 - 縫合不全を中心に -. 講演.

モーニングレクチャー, 函館, 2016/9/21

1. 西塚 哲. 外科研究が目指すもの. セミナー.

刀隣会学術講演会, 盛岡, 2016/9/29

1. 佐々木 章. 肥満・糖尿病に対する外科治療. 特別講演.

Pancreatic Cancer Forum in IWATE, 盛岡, 2016/10/28

- * 新田 浩幸. 膵癌に対する外科治療戦略. 座長.

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 大腸がんの予防, 盛岡, 2016/11/17

1. 佐藤 慧. 血中遊離 DNA を用いた大腸癌患者の体内腫瘍量のモニタリング. 講演.

きたかわち LAG セミナー, 大阪市, 2016/11/19

1. 肥田 圭介. 岩手医科大学における LAG の実践と地域における普及の取り組み. 招待講演.

地域肝疾患アドバイザー養成講習会, 岩手, 2016/11/20

1. 高原 武志. 肝疾患の外科治療 (肝臓移植まで). セミナー.

第 12 回 本郷大腸がんセミナー, 東京, 2016/11/29

1. 大塚 幸喜 . 腹腔鏡下大腸癌手術を安全に適応拡大していくためには 一知っておくべき偶発症と合併症 . 講演 .

NEXTSURG Conference(4th), 仙台市, 2016/12/2

1. 新田 浩幸 . 岩手医科大学における大腸癌肝転移の外科治療 . 一般口演 .

第 9 回岩手県がんフォーラム, 盛岡, 2016/12/11

1. 肥田 圭介 . 消化器がん手術の最前線～腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう～ 胃分野 . パネルディスカッション .
 2. 新田 浩幸 . 消化器がん手術の最前線～腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう～ 肝臓分野 . パネルディスカッション .
 3. 大塚 幸喜 . 消化器がん手術の最前線～腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう～ 大腸分野 . パネルディスカッション .
 4. 秋山 有史 . 消化器がん手術の最前線～腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう～ 食道分野 . パネルディスカッション .
- * 佐々木章 . 第 1 部 特別講演 あなたに会うために生まれてきた ～大腸がん治療の進歩をもとに～ . 座長 .
- * 佐々木章 . 第 2 部 パネルディスカッション 腹腔鏡手術の正しい知識を理解しよう . 座長 .

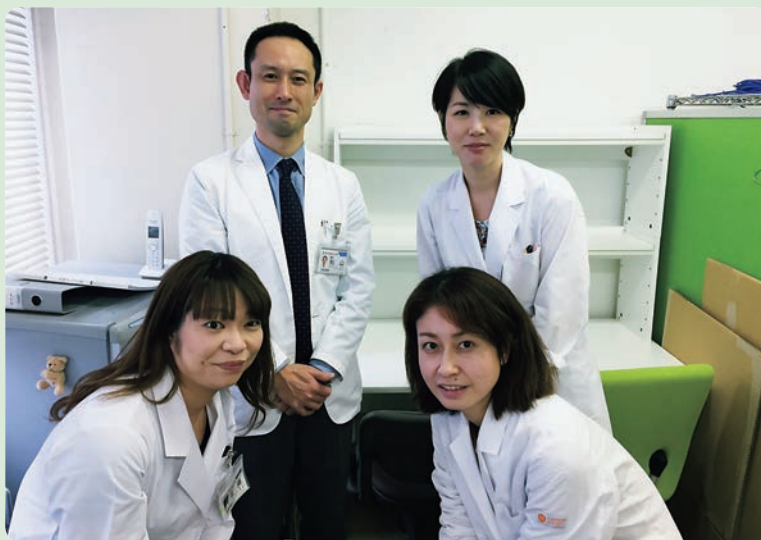
e-Thouth Theater(Web Seminar), 東京, 2016/12/14

1. 佐々木章 . 糖尿病外科治療に必要な準備とチームビルディング ～多職種連携、手技の実際～ . 特別講演 .

編集後記

今年度から教室年報の担当を引き継がせていただきました。今回から「前年の1月から12月までの内容」で、「3月に発刊」することに変更いたしました。昨年に続いて表紙が「2016年」の教室年報になっておりますが、今回お届けする年報は2016年の内容に統一いたしました。来年は「2017年」の内容で2017年版の教室年報をお届けいたします。発刊を早めたことで、各関連病院の先生方をはじめ、関係する皆様には年明けから慌ただしく原稿等をお願いいたしました。日常診療でお忙しい中、ご対応を頂きましてありがとうございます。おかげさまで無事目標に遅れることなく発刊の運びとなりました。また、編集には秘書の仕事に負うところが大きく、非常に助かりました。この場を借りて感謝をしたいと思います。今後も教室の充実した仕事を皆様に報告出来るよう、力を入れていきたいと思いますので何卒よろしくお願いいたします。

（文責 秋山有史）





表紙説明

撮影：2014.05.06

県内有数の豪雪地帯で知られる西和賀町では、雪が消える4月下旬～5月上旬頃、カタクリの花の群生地に、淡い紫色や桃色の可憐な花が咲きほこり、春の訪れを告げます。

町内の安ヶ沢地区では、ベニヤマザクラの一本桜の満開と重なる年もあり、カタクリの群生と一本桜の花の共演が見られます。同時期に「カタクリまつり」も開催され多くの観光客で賑わいます。

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巖鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）